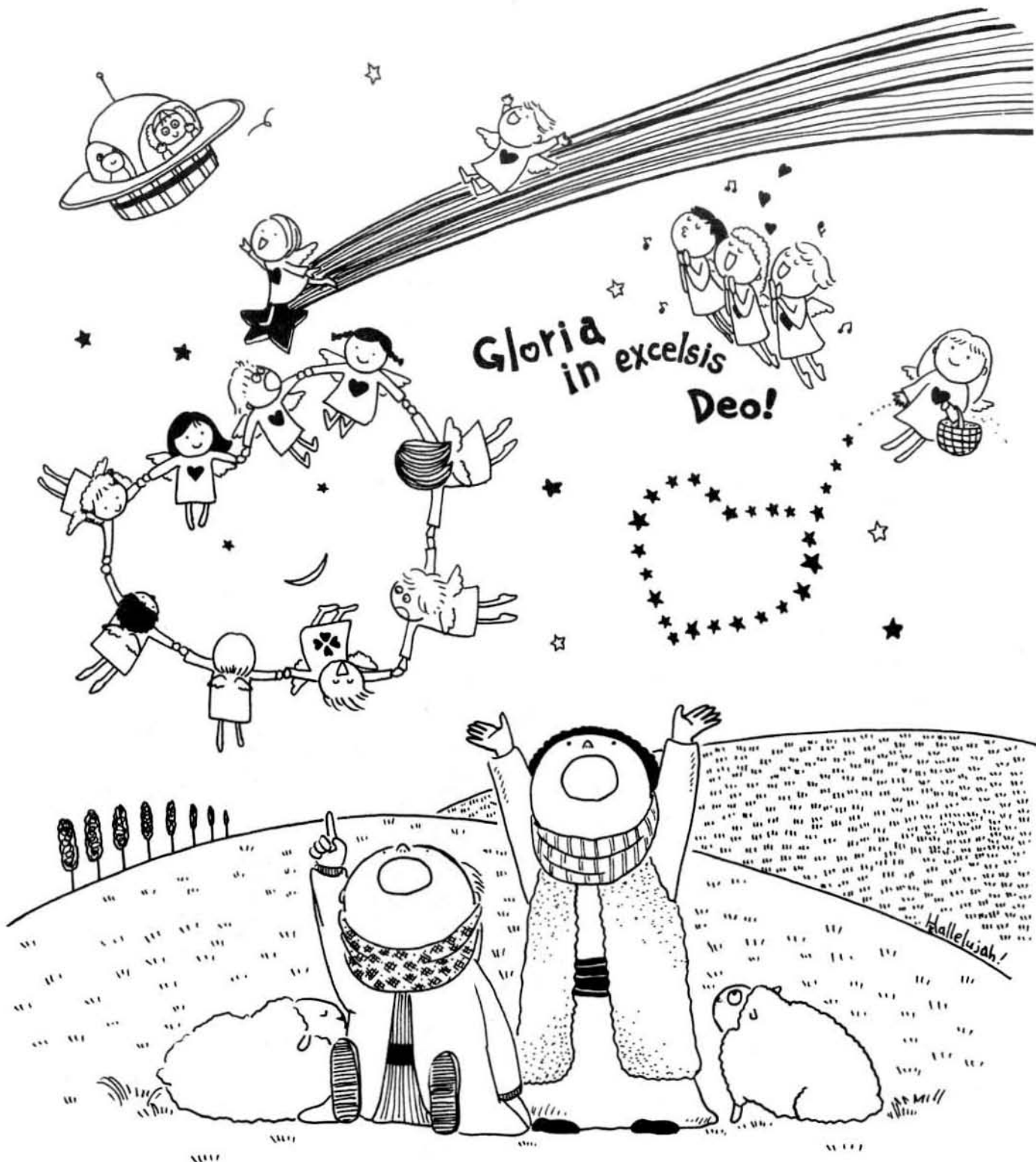




教会学校教案誌

2007.1.2.3月号

日本キリスト改革派教会
中部中会教育委員会

No.24

2007年1～3月カリキュラム（第24号）

—救済史に基づく二年サイクルカリキュラムの一年目—

月 日 教会暦・行事	主 題	聖 書 箇 所	暗 唱 聖 句	対 応 表
	単 元 の 目 標			
1月7日 新年	種まきのたとえ	マタイ13:1-9, 18-23	マタイ13:8	
	新年100倍の実を实らせる神の御言葉の力を信じよう			
1月14日	5000人の給食	ヨハネ6:1-15	ローマ6:13	(59)
	神は命を与えるご自身の御業に幼子をお用いくださる。喜んで応答しよう			
1月21日	湖の上を歩く主イエス	マタイ14:22-33	コリント二4:18	47
	主イエスが共にいてくださるから、恐れることなく歩み続けよう			
1月28日	ペトロの信仰告白	マタイ16:13-20	マタイ16:16	
	信仰の言葉を与え、教会を建て上げるキリストの恵みの力に生きよう			
2月4日	山上の変貌	マタイ17:1-13	マタイ17:5	57
	栄光を顕された主イエスが十字架への道を歩まれる。主イエスを仰ごう			
2月11日 (信仰の自由)	善いサマリア人	ルカ10:25-37	ヨハネー3:16	54
	善いサマリア人となってくださった主イエスにならおう			
2月18日	マルタとマリア	ルカ10:38-42	ルカ12:31	50
	もっとも大切なただ一つのことである御言葉を聴くことに生きよう			
2月25日 レント	見失った羊のたとえ	ルカ15:1-7	イザヤ43:4	52
	神の喜びに招くために罪人を見つけ出す主イエス。その喜びにあずかるう			
3月4日 レント	放蕩息子のたとえ	ルカ15:11-32	ルカ15:24	53
	放蕩息子を神の子として受け入れてくださる神の愛を知ろう			
3月11日 レント	ザアカイの救い	ルカ19:1-10	ルカ19:10	46
	主イエスに出会い、喜びと悔い改めに生きよう			
3月18日 レント	幼子の祝福	マタイ19:13-15	マタイ19:14	
	子どもを招き祝福される主イエスのもとに行こう			
3月25日 レント	金持ちの青年	マタイ19:16-30	マタイ22:39b	58
	ただ神の恵みの御業として神の国に入れられることをたたえよう			

※「対応表」欄は、『神の救いの歴史』（日本基督改革派教会教育委員会発行、1999年）の該当する単元を示しています。

も く じ

2007年1・2・3月カリキュラム

まえがき	鈴木 牧	4
巻頭説教	長谷川潤	5
日曜学校・教会学校訪問		
上福岡教会教会学校（こひつじ科）の紹介		
上福岡教会教会学校教師会		8
教師会の学びのために(3)	木下裕也	12
教師の声	吉住早苗	14
副読本のご案内		16

聖書研究・説教展開例・分級展開例

1月 7日	18
1月14日	25
1月21日	32
1月28日	39
2月 4日	46
2月11日	53
2月18日	63
2月25日	61
3月 4日	68
3月11日	83
3月18日	90
3月25日	97
成人科	石丸 新 104

自由献金のお願い	110
いのちのパン（こども聖書日課）	111

2007年1・2・3月カリキュラム	125
2006年度年間カリキュラム	126
執筆者よりひとこと・あとがき	128

まえがき

鈴木牧（雄湘南恩寵伝道所協力牧師）

昨年まで、キリスト教主義の中学高等学校で聖書科の非常勤講師をしていました。ドイツ改革派教会の宣教師が始めた学校で、聖書科主任の先生も教団の旧日基系の教師でした。そのようなこともあり、改革派の私に声を掛けてくださったことが、始めるきっかけでした。

礼拝は、中学高校1600人全員が礼拝堂に集まり毎日行われました。校長や聖書科教師をはじめクリスチャンの先生が交代で、聖書の連続講解説教のリレーをしていました。聖書科の授業は、聖書そのものを教えるように指示されました。私は中学2年と高校1年の担当でしたが、中2は新約聖書で教会学校とはほぼ同じように、高1は旧約聖書の後半を教会学校よりかなり高いレベルで教えました。また、他の教科と同じように試験を行い、点数も付けました。1学期1回以上の教会出席も奨励され、実習参加として評価されました。すべて昔からの伝統だそうで、校長や聖書科主任の先生が堅持しようといへんな努力をされていました。学校における礼拝やキリスト教教育についてはさまざまな意見があることと思います。しかし私は、すがすがしさを感じながら学校に通っていました。

信仰を持っている人と求道している人とが集まって行われる教会の礼拝とは違い、もちろん無関心な生徒や半強制的にやらせられているだけの生徒がたくさんいました。最後まで耳を傾けようとしなかったり、キリスト教に強く反発する生徒もいました。しかし同時に、聖書そのものをしっかりと解き明かして自信をもって語るなら、耳を傾けて興味を持つ生徒がたくさんいるということにも気がきました。私も時々礼拝説教をさせていただきましたが、聖書科主任の先生から、「改革派の先生は聖書をキチンと

釈義して説教してくれる」と喜んでいただきました。私たちにとっては当然のことですが、生徒の気を引こうとして世間話を中心になったり、福音でなく倫理道徳的な話になったりすると、かえって相手にされませんでした。また、奇跡や復活についても避けたりごまかしたりすると、むしろバカにされるだけでした。主の御言葉にこそ力があり、御言葉そのものをもって福音をストレートに語ればよい、ということを改めて体験させられました。

私が日曜学校の教師にくりかえしお話ししていることがあります。“「聖書の教えをよく守って神様に喜ばれるよい子になりましょう」と結ばれるお話をよく耳にしますが、説教のお話は決して倫理道徳にならないように。必ず聖書を通して罪の赦しの福音を語ってください。”わたしの好きなこともさんびかは、「どんなにちいさいことりでも」の3番です。

「よい子になれないわたしでも、
神さまは愛してくださる」って、
イエスさまのおことば。

実際には、日曜学校の先生がその日の聖書箇所から福音を読み取ることの難しい場合がたくさんあり、道徳的な結びに逃げたくなりがちです。そのような時は、“無理に道徳的な教訓を引き出そうとはせず、その聖書箇所に書かれている出来事や話そのものをそのとおりに話するだけで十分です。”

私はカテキズムの効用も力もよく知っていますが、いまだに教理説教をどのようにしたらよいのか分からないでいます。いずれにしても、聖書の御言葉そのものの力にのみ信頼して、キリストの福音を子どもたちに語っていきたいと思っています。（東部中会教育委員会委員長）

「父母を敬いなさい」

—エフェソの信徒への手紙6章1～4節による説教—

長谷川潤（四日市教会牧師）

子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい。それは正しいことです。「父と母を敬いなさい」。これは約束を伴う最初の掟です。「そうすれば、あなたは幸福になり、地上で長く生きることができる」という約束です。父親たち、子供を怒らせてはなりません。主がしつけ諭されるように、育てなさい。（エフェソの信徒への手紙6章1～4節）

上記の御言葉は、キリスト教の偉大な伝道者、使徒パウロによる勧めの一部ですが、「子供たち」と呼びかけられています。年齢的には、今日の幼稚園児から小学校低学年の児童ぐらいまでですから、まさに私たちが日曜学校でイエス様から託されている子供たちに相当します。そんな子供たちへの勧めです。

『子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい』。

日本語で「従いなさい」と訳されている元々の言葉（新約聖書は最初ギリシア語で書かれました）には、“（門番が）ノックに応じる”とか“戸をあける”という意味があり、そのことから、“耳を傾ける”とか“よく聞く”という意味が生まれました。ですから、両親の言うことによく耳を傾けて、従うことがここで勧められているのです。使徒パウロは、子供について、第4章14節に、『風のように変わりやすい教えに、もてあそばれたり、引き回されたり』しやすいのが子供だと言っているのです。その箇所では「未熟な者」という表現が使われているのですが、「未熟な者」が子供に当たる言葉です。子供というのは、大人の言うことに振り回されやすいということですが、だからこそ、両親（或いは大人、教師）の子供に対する態度が重要となるわけです。それで、古代社会では、特に子供を教育する責任は、父親にありましたから、4節で、『父

親たち、子供を怒らせてはなりません。主がしつけ諭されるように、育てなさい』と言われているのです。

父親が（或いは大人、教師）が子供に教えるべき事柄の一つとして、『父と母を敬いなさい』があります。これは、“十戒”の第五の戒めです（“十戒”そのものは『出エジプト記』第20章2～17節参照）。キリスト教会は、その昔から、“使徒信条”（→信仰のものさし）、“主の祈り”（→祈りのお手本）、“十戒”（生活のものさし）を三つの重要な文章、“三要文”（さんようもん）として重んじて来ました。特に16世紀の宗教改革の時代には、信者の教育のために、これらの文章に基づいて、たくさんの信仰問答が作られました。たとえば、有名な宗教改革者の一人、マルチン・ルターは、子供向けの問答として、『小教理問答』を作りました。子供が父親に尋ねる形で、問答が展開しています。“十戒”の第五の戒めについてですが、次のように言われています。

“あなたはあなたの父と母を敬え。（お父さん）これなあに。答 私たちは神さまを畏れ、愛するのだ。だから両親や主人を軽んじたり、怒らせたりしないで、むしろ尊敬し、仕え、従い、愛し、敬うのだよ”。

神様を畏れ敬って、愛することが、両親を敬うことにつながられています。それは、どうし

てかと言えば、神様は、両親を媒介として、子供たちを養い、育てる通路をつくられたからです。ですから、両親は神様の代理人なのです。そうすると、当然、神様を畏れ敬って、愛するならば、両親を敬って、両親の言うことによく耳を傾けて従うべきなのです。

さて、子供たちが幸福となって長生きするためには、やはり、両親の責任が重大となって来ます。それで、特に両親がどのように子供に向き合うべきかで、最後の4節に注目しましょう。

『父親たち、子供を怒らせてはなりません。

主がしつけ諭されるように、育てなさい』。

親がよく陥る過ちは、イエス様が子供を託していらっしゃることを忘れてしまって、自分の思い通りに扱ってしまうことです。そんな時、親は、子供の支配者になっています。そんな親に対して、子供は怒りを覚えるでしょう。また、“こんな親なんかいない”と思ってしまうかも知れません。そのように思うこと自体、既に心の中で秘かな殺人を犯してしまっているのです。このようになってしまっでは、決して幸福とは言えません。また、そのように子供を扱うことは、子供のストレスとなって、それが肉体的、精神的ないろんな症状となって現れることでしょう。それこそ長生きできないかも知れません。それで、親が子供の支配者になることは、イエス様に仕える態度ではないのです。使徒パウロは、全ての人間関係に当てはまる態度として、第5章21節に次のように書いています。

『キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい』。

親が子供を支配することは、イエス様を畏れ敬わない態度に他なりません。イエス様に全く感謝していない、ありがたさを全く覚えていない態度に他ならないのです。

それで、イエス様に感謝するならば、どのように子供と向き合うべきかで、次のように言われていることに注目したいと思います。『主がしつけ諭されるように、育てなさい』。やはり、

イエス様のように子供を育てること、つまり、イエス様を模範として子供を育てることが必要なのです。そうしますと、イエス様を模範として子供を育てるとは、どういうことなのかの問題となりますが、この態度は、両親ばかりに求められるものではありません。大人として、子供たちに向き合う時にも求められる態度でしょう。よく、幼児教育において、子供と同じ視線で向き合うことが大事ということが言われます。まして、子供をしつけ諭そうとするならば、そのように向き合うことが必要かも知れませんが、上から睨んで見下すような態度で、しつけ諭すならば、子供は恐怖を感じるだけでしょう。

イエス様がしつけ諭されるように子供を育てる、それは、神様がどのような御方でいらっしゃるかということに深く関わっているのです。神様は天にいらっしゃいます。神様はその天から私たち人間とどのように関わって下さるのでしょうか。神様は、その天から私たちを睨んで見下ろしていらっしゃるのでしょうか。そして、私たちに恐怖を覚えさせて、何か悪いことをしたならば罰を与えると脅していらっしゃるのでしょうか。決して、そうではありません。神様は、そんな御方ではありません。神様は、何と私たちへと身を屈めて、私たちを抱き上げるようにして救って下さる御方なのです。そういう神様のことが、聖書全体を通じて、繰り返し書いてあるのですが、たとえば、旧約聖書の『ホセア書』という書物の第11章4節に次のように書いてあります(P.1416)。

『わたしは人間の綱、愛のきずなで彼らを導き／彼らの頸から轡を取り去り／身をかがめて食べさせた』。

天から身を屈めて、人間と向き合って下さる神様、この神様を唯一現された御方が、イエス様に他なりません。まさにイエス様は、私たちへと身を屈めて、私たちを抱き上げて救って下さる神様でいらっしゃいます。自らの御命を犠牲とされて、私たちを救って下さる神様なので

す。そして、ある時、イエス様は、身を屈めて、子供を抱き上げられ、手を置いて祝福されたのです（マルコ10:16）。このイエス様のように、子供と真剣に向き合って、子供の身になって、しつけ諭すこと、それが、イエス様のように子供を育てることなのです。

そして、何よりも必要な態度、それは、自分の身をもって、人が生きる上で何が最も大切なのかをしつけ諭すことです。人が生きる上で最も大切なことは、神様を畏れ敬うことに他なりません。旧約聖書の『箴言』の第1章7節には、『主を畏れることは知恵の初め』とあります。また、旧約聖書の『コヘレトの言葉』の第12章13節には、『すべてに耳を傾けて得た結論。「神を畏れ、その戒めを守れ」。これこそ、人間のすべ

て』とあります。この神様を畏れ敬うことこそが、幸福の原点で、長生きの出発点なのです。私たちの周りのお父さんたちやお母さんたちの中には、この不確かな時代をどのように生きて行ったら良いのか、その明確な指針のないままに、行き当たりばったりの人生を送っている方がいらっしゃるかも知れません。そういう親の姿を見て育つ子供たちも当然そのようになってしまいます。

神様を畏れ敬うことから全てが始まることを聖書を通じて教えられます。私たちが、子供たちが、親たちが、一緒に聖書の御言葉に耳を傾けることによって、神様を畏れ敬う心が豊かに培われることを願っています。アーメン。

上福岡教会教会学校（こひつじ科）紹介

上福岡教会教会学校教師会

1. 概要

上福岡教会教会学校は伝道開始1年後の1963年7月21日の開校以来、現在にいたるまで、地域の子どもたちへの福音伝道と契約の子どもたちの信仰教育に励んできました。現在、毎日曜日の朝のCS礼拝及び分級の時間に、20数名の子どもたちが集っております。また、12名の教師（補）と2名の奏楽等の奉仕者が携わっております。

2. 基本方針

私たちは1973年に「教会学校教師の心得」という文書を作成しました。これは、日本キリスト改革派教会憲法（礼拝指針）に基づき、上福岡教会の教会学校の基本的枠組み、組織、運営のしかたを文書化したものです。それによると、「教会学校とは教会での教育活動が主として行われる組織」で、本来は成人まで含まれますので、成人を対象とした「成人科」に対し、幼少年を対象としたいわゆる教会学校を「こひつじ科」と呼びました。（タイトルの「こひつじ科」はこのような意味で使われていますが、以降はこれを教会学校と称します。）この「教会学校教師の心得」に基づき教会学校の活動はなされております。ただ、1973年当時と現在の状況はかなり異なっている部分もあり、それが、後述のように現在の教会学校の課題にもなっております。

3. 沿革

1963年の開校より1980年ほどまでの期間は、周りが新興住宅地でもあり多くの地域の子どもたちが教会学校に出席し、生徒は60～70名、

教師は約20名でした。この時期の生徒の多くが未信の家庭の子どもたちでした。また、この頃より独自の教案を作成することによりカリキュラムを組んでいました。（今でも教案は独自に作成しておりますが、現在は「教会学校教案誌（中部中会教育委員会発行）」に基づき教案が作成されております。）この時期に、地域から教会学校に出席していた子どもたちが成長し多数受洗する恵みを与えられました。彼らは今日教会において役員また信徒として重要な働きを担っております。また、教会には契約の子も順調に与えられておりましたので、月1回礼拝後の時間に「契約の子のクラス」を開始しました（1969年）。

その後の1980年代には地域の子どもたちの出席が次第に減少していきました。はっきりと分析したわけではありませんが、周辺の子ども人口の減少、塾やスポーツや習い事の増加などが影響したと考えられます。これにより、教会学校の出席者数は減少していき、相対的に契約の子の比率が高くなってきました。しかしながら、少数ですが地域の子どもたちの出席も現在にいたるまで継続しております。また、このころから契約の子どもたちが順次信仰告白にふさわしい年齢に成長し、順調に告白に導かれたことは大きな祝福でありました。このように教会学校での契約の子の比率が高くなり、契約の子の教育が重要性を増す一方で、地域の子どもたちへの伝道にもかなりの工夫と労力を割いた時期でした。

1999年より熊田雄二牧師が上福岡教会の後任牧師として赴任され、その後教会学校および関連する働きに新しい試みが始まり、教会学校

もまた新しい展開をしていきますが、これについては後述します。

4. 主な集会・年間行事

毎日曜日のスケジュールは下のようになっています。

Am 9:00～ 9:10	教師祈祷会	祈祷と当日の打合せ
9:10～ 9:15	礼拝準備	さんびか練習など
9:15～ 9:40	礼 拝	さんびか、祈り、十戒、せいしよ、説教、献金、主の祈り
9:40～10:15	分 級	イサク科（幼）、ヨセフ科（小低）、ダビデ科（小高）
ダニエル科（中高）は9:15より別室で礼拝分級を行う（第三主日は合同礼拝）		

*第二主日は、朝礼拝説教時にこども礼拝、午後にジュニア礼拝を行います。

年間の主な行事は次のとおりです。下表は2005年度の行事です。

行 事	月 日
進級式	1/10
光の子の日	4/10
イースターエッグ作り	3/26
イースター	3/27
バーベキュー	7/9
*夏季学校（宿泊）	8/26～8/27
収穫感謝祭	11/27
クリスマスケーキ作り	12/24
クリスマス	12/23
修了式	12/25



2005年バーベキュー（巾着田）



2005年夏季学校（秩父）



2005年クリスマス

教師会は第三主日の午後に持たれます。報告と教案の検討、行事計画と反省などと説教演習などの研修を行います。また、第一主日昼食時に教会学校役員会を持ち、役員の打合せを行います。

5. 新しい取り組み

—こひつじ文庫、こども礼拝、ジュニア礼拝—

2000年に教会学校教師会の提案により、毎月第四土曜日の午後に地域の子どもたちにも大きく門戸を開き、「こひつじ文庫」が始められました（内容は、絵本やお話しと工作、賛美や祈り、おやつなど）。この活動の目標は、神様に創造された人間としての言語の活動を生き生きと豊かに養うこと、また、キリストにあって信頼できる人間関係を互いに築きあげて行くことです（みつけた！ えほん&ともだち）。現在、この奉仕を願い出た教会学校教師を責任者として立て、教会員のボランティアスタッフの協力により運営されており、その活動報告は教会学校教師会になされております。開始以来、子どもとその親御さんを教会につなげるよい働きをなしております。開始から6年が過ぎ、現在では、第三水曜日午前の「乳幼児クラス」、また第二土曜の午後の小学校高学年、中学生による「ジュニアクラス」と拡大しています。これは乳幼児を持つ母親やこひつじ文庫で育ち高学年になった子ども達からの希望で始まりました。



こひつじ文庫 真剣に工夫しています

また2001年より第Ⅱ主日朝、伝道礼拝の説教時に出席している子どもの信仰教育のための「こども礼拝」を、午後には青少年の信仰生活の充実のために「ジュニア礼拝」が持たれるようになりました。教会修養会、また様々な機会

おいでよ！ たのしいひろばへ

こひつじぶんこ

まいつたたい4とようびはこひつじぶんこのひです。

9月になって2学期が始まり、さわやかな秋になりました。
この会堂で開催するこひつじ文庫も、あと2回です。
みんな揃って、こひつじ文庫に集まろう！！

日時 9月23日(土曜日) 午後2時～3時
上福岡教会 Tel. 049-261-3179

～ 9月の絵本

- ① 「だんまりこうろぎ」 (エリック・カール)
- ② 「キング牧師の力づよいことば」 (ドリーン・ラブバート)
- ③ 「ずーっと ずっとだいすきだよ」 (ハンス・ウィルヘルム)

第2号

The Joy×5 Times

今日！デビュー

2006/07/16

いよいよ今日！デビューです！失敗もこれからはあると思いますが、どうか見守ってください。皆さんからの意見もおまちしています。

Joy×5について
Joy×5は、5人の決まったメンバーだけでなく、主に小学6年くらいから中学生くらいの子供達がいろいろな活動をするグループです。Joy×5に協力したい！まだ協力して下さる方は是非、お申し出ください。

Joy×5 通信について
Joy×5は出来る限り、週刊で毎週日曜日に発行するつもりですが、発行が時々おくれることもあるかもしれません。

こひつじ文庫ジュニアクラスからバンドが結成される

での教会学校教師や母親たちの意見から「こども礼拝」が、一人の高校生の意見から「ジュニア礼拝」がもたれるに至りました。「こども礼拝」は熊田牧師の指導のもとに4人のスタッフ（内2名が一月おきにこどもメッセージを担当）によって行われています。また、「ジュニア礼拝」は、青年を中心にした奉仕者と協力伝道者により行われています。

6. 現状分析と課題

①教会学校の子どもたちが主に契約の子である状況は過去20年以来続いており、また今後もその状況は変わらないのではないかと思われます。これまで順調に信仰告白者が与えられてきたことは感謝です。教会学校は契約の子の信仰教育の課題を常に自覚してきました。現在、契約の子の信仰教育プログラムとして新たな広がりが出てきております。「こども礼拝」、「ジュニア礼拝」、「こひつじ文庫」などがそうです。また、教会の第二次長期計画（2006年からの15年間）に記されているように、私たちは教育的伝道に励もうとしています。教会における教育活動に教会全体が取り組む機運が満ちています。いわゆる教会学校の活動と新たな取り組みを効果的に組み合わせ、教会全体が教育活動に取り組む体制作りがこれからの課題です。

②教会学校に継続的に出席している地域の子供たちも少数ですがおります。しかし、中学高校と成長するとなかなか教会に来ることが難しくなり、教会から離れてしまいます。こ

れらの子どもたちが教会に、特に公同の礼拝につながる工夫が必要です。そのためにまずはより多くの地域の子供たちが教会に足を向けることができるような取り組みが必要です。「こひつじ文庫」はそのような展開も可能であるかもしれません。2006年11月に、いよいよ新会堂が完成し、とても良い条件の場所が与えられて移転しますので教会学校の新たな展開のチャンスであると思っています。

③教会学校教師がなかなか起こされない状況が続いています。現在の教会学校教師の構成は、かつて地域から教会学校に通い、受洗した信徒と外から転入加入した信徒でこの教会で育った契約の子はわずかです。上福岡教会の教会学校教師として任命され奉仕をするには、個々の教師にかなりの覚悟が必要であるという印象は少なからずあるのは事実です。これが教会生活の長い契約の子が二の足を踏む理由かもしれません。全か無かではなく、可能な範囲での奉仕（例えば奏楽）をしていただくなどの工夫もしてきましたが、教会の教育活動がいわゆる教会学校の範囲以上の広がりを見せてきた今、より多くの教会員が教育に携わることのできる奉仕のスタイルの多様化が求められるのではないかと考えています。（文責 門脇献一）

7. 参考資料

日本キリスト改革派上福岡教会20年史 30年史 40年史

み言葉をわかちあうために

木下裕也（『教会学校教案誌』編集委員）

「本誌の基本方針～教会（日曜）学校像について～」(相馬伸郎編集長執筆、第21号掲載)を編集部の三名の教師によって展開するシリーズも、今回は最終回です。私の担当は「基本方針」の5、6です。5は「教会形成の一環としての日曜学校―教師会と教師」、6は「伝道する日曜学校像」です。すなわち、教師会のことと日曜学校伝道のことを扱うことになります。

なお、このところは相馬編集長による連載「日曜学校教師会のために」の第11回「教師会形成」と第12回「種まき伝道にあらず」（いずれも『教会学校教案誌』（以下『教案誌』）第20号掲載）に対応していますので、ぜひご参照くださるようお願い致します。

1. 教師会の形成について

―とくに相互研鑽について

ローマの信徒への手紙10章17節に「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです」とあります。信仰はキリストの言葉を聞くことによって始まる―この事情は、大人も子どもも同じです。日曜学校教師は、子どもたちに福音のみ言葉を語り、教えるつとめを担っています。大切なつとめです。福音は、大人にはわかるけれども子どもたちにはまだわからないというものではありません。かえって子どもたちのほうが、大人たちよりも福音をよく理解するということは、ふつうに起こることです。子どもたちはみ言葉をとてもよく聞いています。

子どもたちに福音を語り伝える―この大切なつとめを担うために、ここではとりわけ日曜学校教師会における教師たちの相互研鑽の重要性

を強調したいのです。どの教会でも教師会は月に一度程度でしょうし、時間もかぎられています。諸行事の準備や事務連絡に追われることもしばしばでしょう。けれどもあえて、み言葉とともに学びあう時間を自覚的に確保していただきたいと思います。

その第一は教案研究です。『教案誌』の各单元についてともに語り合いながら、ポイントを確認しあいます。牧師が解説するというしかたもありますが、やはり少々準備がたいへんでも、教師たちが分担して発表するほうがよいでしょう。

関連して申し上げるなら、私は『教会学校教案誌』は実に周到な教案誌だと思います。けれども、そうであるだけに『教案誌』にあまり頼らないでいただきたいのです。周到なテキストが備えられているとしても、日曜学校の説教の場合にもやはり語る者がみ言葉と向き合い、黙想し、語るべき言葉を与えられるよう祈り求めつつ準備することが不可欠であると考えます。その手間（と言ってよいかわかりませんが）を惜しまずに毎回の説教を準備するなら、かならず子どもたちに届きます。そして、そのような備えのあるところでこそ『教案誌』はほんとうに力になるのだと思います。私は牧師ですが、私自身も日曜学校の礼拝で教師たちが子どもたちに語るみ言葉にしばしば慰められ、励まされる経験をしてきました。

教案研究をかさねていく中で、教師たちがひとりのキリスト者として主のみ前に自分のすがたを見つめ直すということも起こったようです（これは当たり前にかかることです）。前任の教会でも、ある教師は当時個人的な悩みの中に

あったのですが、サムエル記上17章の「ダビデとゴリアト」の箇所を子どもたちに語ることになって、今自分の前にゴリアトのように立ちただかっている問題にどのように向き合うのかということを実際に祈り問いつつ、信仰のたたかいの中で準備をされたということがありました。この教師の教案研究の発表を聞けば、同席している教師たちも（具体的にどのような状況があったのかが明かされなかったとしても）この先生のみ言葉の奉仕のために祈るでしょう。

神と向き合うということにおいては、大人も子どももありません。教師も子どもたちも、ともに福音の恵みをわかちあって生きるのです。教師たちが自分がお話を担当する主日の聖書箇所を、子どもたちに語る以前にまず自分自身に与えられたみ言葉として聞き、み言葉の恵みを喜び、感謝しつつ子どもたちに語るなら、そのお話の語りかたは必ず変わってくるはずです。そして日曜学校の礼拝そのものも変わってくるはずです。神の言葉そのものに力があるからです。

教案研究のほかにも、いろいろなしかたでみ言葉の奉仕の相互研鑽をなし得るでしょう。たとえばおたがいの聖書の説き明かしについて批評しあうことも有益です。それから、読書会を持つこともよい学びとなります。毎号の『教案誌』所収の諸論文をぜひお用いください。加藤常昭先生の『子どものための説教入門』などもよいでしょう。

み言葉の相互研鑽については、各教会の日曜学校教師会にゆだねるのではなく、中会としてもその機会を（毎年11月の研修会のほかにも、まとまったかたちで）提供することが必要ではないかということ、教育委員会でもぜひぶん前から話し合っています。近い将来に何らかのしかたで実現できればと思っています。

2. 日曜学校伝道について

日曜学校には契約の子たちも集いますから、

契約の子たちの信仰告白の準備教育ということ、日曜学校の重大な使命であることは言うまでもありません。カルヴァンも、契約の子らに聖書とカテキズムを教えることを、ふさわしく聖餐を受けさせるための備えとしてとらえていたようです。けれども、日本は今なおミッション・フィールドです。近隣の、未信者の子どもたちも日曜学校にやってきます。従ってそうした子どもたちに福音を宣べ伝える働きもまた日曜学校の大切な使命です。

契約の子の教育と、未信者の子どもたちへの伝道。ふたつの働きの兼ね合いについて論じられることもあるかと思います。しかし、子どもたちにみ言葉を語るという面からすれば、むしろ両者をあまり区別して考えないほうがよいようにも思います。つまり、契約の子たちにも、近隣の子どもたちにも、み言葉は届きます。福音のもたらす喜びは、ひとしく子どもたちをとらえます。福音の喜びをとともにわかちあう中で、契約の子どもたちは信仰告白へと導かれ、未信者の子どもたちは洗礼へと導かれていきます。そのことを踏まえたうえで、契約の子教育と未信者の子どもたちへの伝道の、おのおの固有の点について考えたらよいのだと思います。

日曜学校伝道ということに関してひとつのことだけに触れておきたいと思います。それは、未信者の子どもたちに寄り添うということです。前任の教会では、複雑な家庭環境のもとに置かれている子どもたちが幾人か来ていました。彼らは日曜日のかなり長い時間を教会で過ごしていました。そうした子どもたちにとって教会がひと息つける場所であるなら、それが彼らがみ言葉に触れるひとつの動機となるのだと考えます。最初は日曜学校の時間に来てくれなくても、やがて来てくれるようになるでしょう。日曜学校のみならず、子どもたちを受け入れる教会全体の度量と言うか、牧会力が求められていることを覚えます。

（名古屋教会牧師、中部中会教育委員会委員長）

日曜学校教師になって—その恵みと課題—

吉住早苗（豊明教会日曜学校教師）

私は洗礼を受けて間もない頃、誘われるままに日曜学校の教師になりました。ですから、私の信仰に与えた日曜学校の影響は、計り知れないものがあります。日曜学校の教師になって、子どもたちと一緒にみ言葉を学ぶ楽しさを知りました。私は日曜学校の礼拝がとても好きです。礼拝の中では教師としての自分と、神様の子どものとしての自分を感じながら、お話を聞いたり賛美したり、祈ったりしています。こうして自分自身が礼拝で受けた恵みや、イエス様はいつも私たちと一緒にいて愛してくださっているという喜びを、子どもたちに伝えられたらいいなと思っています。

日曜学校礼拝のお話

豊明教会では礼拝のお話を教師が交代で行なっています。前牧師がいらっしゃった時は、牧師と長老が中心になってお話してくださり、その他の教師は三ヶ月か四ヶ月に一回お話をしていました。しかし、昨年から今年にかけての無牧の期間には、四人の教師がそれぞれ毎月一回礼拝のお話をするようになって、大変鍛えられました。

礼拝のお話はわずか10分足らずですが、その準備にかかる時間のなんと膨大なことでしょう。礼拝のお話をするためにみ言葉と向き合うことが、こんなにしんどいことだとは思いませんでした。じっくりみ言葉と向き合うことで、自分の罪がはっきりと示されます。けれども、こんな罪人の私をイエス様は愛してくださっているという恵みも豊かに示されて、平安に満たされます。

自分の力ではとてもみ言葉を語ることはでき

ないと毎回痛感して、み言葉を語らせてくださいという切なる祈りが繰り返されます。子どもたちは正直で、準備不足だったり子どもの目線に立ったお話でなかったりした時には話を聞いてくれません。でも礼拝の後、子どもの方から「今日のお話グーだった」と言ってくると、子どもたちの心にみ言葉が届けられたのかなとうれしくなります。

礼拝のお話をするためには苦しいところを通らなければなりませんが、その苦しみ以上の豊かな恵みを神様からいただいています。神様と子どもたちのために捧げる奉仕を通して、自分自身が一番恵みを受けているなあと感じるこの頃です。

分級の子どもたち

私は小学上級科のクラスを内藤先生と一緒に担当しています。このクラスには小5のHくんと小6のKくんがいて、二人とも赤ちゃんの時から教会に来ています。今年のクリスマスには一緒に信仰告白と受洗をしたいという願いをもっており、教会全体で祈り求めています。

Kくんは両親ともにクリスチャンで、信仰告白も家族の喜びの中で待ち望んでいます。Hくんはお母さんがクリスチャンで、クリスチャンではないお父さんはHくんが洗礼を受けることに反対しています。でもHくんは、受洗が正式に決まったら、自分の口でお父さんにその決心を打ち明けて、洗礼を許してもらおうと考えています。その気持ちがお父さんにわかってもらえるように、Hくんの信仰が守られるように祈るばかりです。

二人が幼稚科の時にも私が担当していました

が、その頃に比べて二人とも見違えるように大きくなり、しっかりしてきました。教案誌では4月から9月まで旧約聖書の物語を読んできましたが、前のサイクルで旧約聖書を取り上げた時の話もよく覚えており、子どもたちの記憶力と吸収力に驚かされます。

学んだことに対する疑問も鋭くて、教師も一緒に考えさせられます。8月6日の「葦の海を渡る」では、試練に遭うとすぐに不信仰に陥るイスラエルの民であっても、神様の憐れみによってエジプト人の手から救われたことがテーマになっていますが、神様は憐れみ深いのに、どうしてエジプト人のことは助けてくれなかったのかと質問されました。

また9月24日の「モーセの死」では、内藤先生が「どうしてモーセのお墓はどこにあるかわからないようにされたと思う？」と聞いたたら、「お墓を拝んじゃうから」と的確に答えていました。

毎月第一主日にはお祈り会をしています。隣に座った人のためにとりなしの祈りをします。始めた頃はKくんもHくんも恥ずかしがっていましたが、だんだん思いやりのあるお祈りができるようになってきました。Kくんは、「明日からのサッカー大会で、Hくんが勝っても負けても楽しくサッカーができますように、活躍できますように。」とHくんのために心のこもったお祈りをしていました。

こうした子どもたちの成長を間近で継続して見ることができるのは、本当に大きな恵みであり、日曜学校教師の特権であると思います。神様は確実に子どもたちの心を捉えて、救いへと導いてくださっています。

地域の子どもたちへの伝道

豊明教会の日曜学校では、季節ごとに地域の

子どもたちに向けた伝道集会を開いています。他にも母の日や父の日工作などは主の日の分級の時間に行なって、たくさんの子どもたちが集まります。しかし、行事の時には集まる地域の子どもたちが、普段の日曜学校にはなかなか来てくれないというのが大きな課題です。

バイブルスクールは今年初めて試みた行事で、夏休み中に二日間行ないました。他の行事は午後から2時間ほどの集まりですが、バイブルスクールは午前10時から午後3時までという少し長めの時間を取りました。長く一緒にいることは子どもたちにとって大切なことのように、いつもの集会とは違って、抱っこやおんぶをせがむ子もいるほど、うちとけた雰囲気を楽ししい会となりました。

バイブルスクールが終わった翌日の日曜学校礼拝に来てくれた地域の子どもは二人いました。しかし、そのうちの一人は礼拝のお話が始めると、途中で帰ってしまいました。地域の子どもたちにみ言葉を伝える難しさを感じました。

そんな折、豊明教会の近くで子どもへの虐待があったことがニュースになりました。豊明市の私の実家の近くでも、母親が赤ちゃんを殺してしまう痛ましい事件が起こりました。

これらの事件によって、今だれかの助けを求めている子どもたちが確実に私たちのすぐ近くにいることを思われました。こうした子どもたちのために、私に何ができるのか模索しています。また、教会が本当に地域に開かれていくことの大切さを感じています。

「施すべき相手に善行を拒むな あなたの手にその力があるなら。出直してくれ、明日あげよう、と友に言うな あなたが今持っているなら。」(箴言3:27, 28) というみ言葉に、鋭く問われています。

副読本のご案内

『主は羊飼―中高生のための教理入門―』

価 格 500 円
著 者 木下裕也

(名古屋教会牧師・教会学校教案誌編集委員・神戸改革派神学校講師)

日本キリスト改革派教会は、契約の子たちへの信仰継承教育に心血を注いでいる教会です。ところが、日曜学校での楽しい教会生活を経て、中高生の時期に、自覚的で明瞭な信仰を告白を、と願いつつ、日曜学校教師はもとより、牧師たちも頭を悩ませつつも、真剣に告白準備のための学びのプログラムを整え、提供しています。

しかしながら、現実には、既成のテキストで、「これは使える！」というものがなかなか見当たらないのが実情です。ウエストミンスター小教理問答の解説を試みるか、牧師のオリジナルなテキストを作成して用いるか、果ては他教派のものをアレンジしながら用いるということが多いかと思います。

このような現実の中で、ついに！ 中部中会教育委員会『教会学校教案誌』の副読本として、中高生の信仰告白準備のためのテキスト、『主は羊飼―中高生のための教理入門―』を刊行することと致しました。

すでに、副読本の『子どもカテキズム』は、2300 部が子ども達、教師たちの手元に届けられています。この『主は羊飼―中高生のための教理入門―』も中高生、教師たちの手に広く行き渡るなら、必ずや、よき実りを与えられるものと確信いたしております。

廉価に抑えております。子ども達のお小遣いで購入できます。しかし、教会としてお買い求めいただき、契約の子らをはじめ地域の中高生にも、プレゼントできれば、なお、素晴らしいのではないのでしょうか。

著者の木下裕也牧師は、本誌編集委員であるばかりか、「創刊」の中心人物です。前任地の豊明教会での実践のなかから、日本キリスト改革派教会としての「教案誌」の必要性を深く認識され、しかもつぶやいているだけでなく、実際に、同志たちとともに、今日まで執筆、編集、刊行の中心で奉仕しておられます。現在、神戸改革派神学校講師でもあり、日本教会史を講じておられます。煮詰まった編集会議では、必ず、笑いのネタを提供して、場をなごませて下さる楽しい先生です。

教会学校教案誌編集部（相馬伸郎）

聖書研究・説教展開例・分級展開例

(1) たとえをもって語られる

- ①主イエスは、しばしば印象深いたとえで、神の国の恵みと神秘を語られました。たとえで語ることによって、深い真理を分かりやすく語ることができます。主イエスは、神の国を説くにも、けっして抽象的な原理を語るのではなく、神の国が、どのように現実の人間の生活のなかで、生き生きとした姿を現わすかを物語りました。主イエスの「語り」の最も優れた方法が、たとえ話であったことは、だれも異論がないでしょう。
- ②たとえで語ることは、深い真理を分かりやすく、鮮明なイメージで伝えるという利点があります。深い真理を、具体的な事例で示すという方法が、神の国の教えに相応しいことを、主イエスはよく弁えておられました。

(2) 種を蒔く人が……出て行った

- ①種を蒔く人の姿は、いつでも厳粛です（ミレーの『種蒔く人』）。どんな種であれ、一粒一粒に、大切な命が宿っているからです。「涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌とともに刈り入れる」とあるように（詩編126編）、命あるものを一度土に返す痛み（涙）と、やがて来る実りと収穫の喜びが、「蒔く」という一つの行為に凝縮されているのです。
- ②たとえでは、種が落ちてゆく「土地」の違いが、種の運命を大きく左右する様子が、鮮やかに描き出されます。同じ種、同じ蒔き方ですが、種を受け止める土地の違いが、「失意」と「収穫の喜び」を分けてしまうのです。種蒔くことは、報われない行為でもあります。それでも、種を蒔くために出て行く。それはまさしく御国の伝道者イエスのお姿でもあると思います。学生時

代に、はじめて出席した聖書研究会で開かれたページがこのたとえでした。読み終わって、それぞれの言葉を心に刻んだかを語り合うのですが、指導された宣教師が、「見よ、種まきが種をまきに出て行った」（口語訳）を選ばれたときの感銘を今も忘れません。

(3) 御言葉を聞いて悟る人に

- ①たとえの焦点は、御言葉をどのように聞いているかにあります。
- 御言葉の種は、「道端」にも落ちてゆきます。どこに落ちるかは「種」の責任ではありません。どんな心で御言葉を聞かかが、実りと不毛を左右するのです。道端は、御言葉にまったく心を開かない聞き方です。神様の呼びかけに対する、どんな感受性も持ち合わせない不幸な土地です。
- ②「石だらけの所」では、石の上に降りたわずかの「露」で、一時的に芽を出しますが、自分に「根」がありません。一時的な心の抑揚に支配されない信仰生活を目指すべきです。
- ③「茨の中」も、御言葉の実りを妨げます。「世の思い煩いや富の誘惑」で、せつかくの信仰がかき乱されます。一途にキリストへと向かうために、なくてはならないものは多くない、という主イエスの御言葉を心に刻むべきです。
- ④「良い土地」になって御言葉を受け入れましょう。はじめから「道端」に定められた人はいません。御言葉の届かない場所、御言葉が蒔かれない土地はないのです。御言葉を蒔き続けてくださる主イエスの愛と信頼に、悔い改めと信仰をもって応えるなら、私たちも「良い土地」であり、豊かな実を結ぶのです。（小野静雄）

テキスト マタイによる福音書13章1～9節、18～23節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問69、70

〔単元のねらい〕

新しい年を迎えました。心を新たに、日曜学校の奉仕にあずかってまいりましょう。私どもの務めは、神の生ける言葉を子どもたちに「信仰をもって」伝えることです。御言葉を「信仰をもって」教えることです。伝える御言葉には、力があります。しかしそこで改めて問われるのは、私どもの信仰です。本日のたとえを語るときにこそ問われてまいります。つまり、自分自身が一人のキリスト者として、豊かな実を結んでいる、結びつつ前進しているという「明るい信仰」です。もし、昨年、私どもが神の言葉を聴き続けて歩んで来たのであれば、私どもは間違いなく、主イエスの約束された豊かな実を結びつつあるのです。この信仰によって、このたとえは力を発揮します。私どもが語る御言葉とは、十字架で死なれた「一粒の麦」である主イエス御自身のものだからです。教師こそ、御言葉を聴く人であるべきです。そして信じる人であるべきです。「イエスさまはあなたをよい畑として見て、種を蒔かれている！」と言い抜く信仰です。願わくは、この一年もまた、御言葉の力を体験する一年となりますように。自分のために、否、子ども達のためにこそ。

「賢い人って、誰のこと？」

新しい一年が始まりました。皆は、お正月の間、何度も「明けましておめでとうございます」と言ったり、聞いたりしたと思います。もうお正月の気分も薄れてきたかもしれません。けれども、先生は、新しい年の最初の礼拝式に皆さんに、心から「おめでとう」と挨拶したいと思います。神さまは、皆さんに、おめでとうと祝福しておられます。どうしてかという、僕たち私たちが、今朝、一年の初めの日曜日に、神さまの教会に来て、礼拝を捧げることができているからです。礼拝で神さまの御言葉を聴くことができているからです。世界中で、こんなにすばらしい恵み、こんなにすごい幸せはないからです。

「一年の抱負」という言葉を聴いたことがありますか。この一年の目標を立てるのです。学校での抱負は何ですか。それなら、日曜学校での抱負はありますか。皆で考え、発表しあうのも楽しいですね。

今年の一年。どんな一年になるのでしょうか。どんな一年になったらよいと思いますか。実は、

どんな一年になるのか、多くの人たちが心配しています。そこで、なんとか悪いことが起こらないようにと、神社に行ったりする人が多いのです。けれども先生は、信じています。それは、教会で神さまの御言葉を聞き続けている僕たち私たちが、必ず、神さまの祝福が豊かであるということです。

今、読んだたとえ話のなかで、イエスさまは、「良い土地に落ちた種は実を結んで百倍にもなった」と仰いました。種というのは、イエスさまの御言葉のことです。種が実を結び百倍になる。これが、イエスさまの御言葉を聴いて悟る人の姿だと教えてくださいました。これは、イエスさまのお約束なのです。僕たち私たちのこの一年も、教会でイエスさまの御言葉を聞き続けるなら、必ず天国の実りを結べるわけです。それは、どんな実でしょうか。パウロ先生は、こう教えています、「霊の結ぶ実は、愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」九つの実はすべて良いものばかりです。天国の実です。神さまが僕たち私たちを、天国に入る子どもにふさわしく

整えてくださるのです。また、この地上で天国、神さまの御国を広げてゆく働きをさせてくださるのです。これが、イエスさまの約束です。イエスさまは、僕たち私たちをそのようにしてあげると約束してくださいました。また、イエスさまは、僕たち私たちをそのようにしたくてたまらないのです。

そのために、イエスさまは、いつもお話をされるとき、とても真剣です。イエスさまは何度も、お話を始める前にこう仰いました。「耳のある者は聞きなさい。」これは、真剣に、よく聞きなさいということです。

先生も、お話をしている今も、いつでも、このイエスさまの御言葉、口癖のような「耳のある者はよく聞きなさい。」という御言葉の大切さを感じます。皆も学校や幼稚園で先生のお話を毎日、聞くでしょう。でも、友達と話をしていたり、頭の中で他のことをあれこれ考えたりしていると、先生の大切なことを聞きそこなうことがあるでしょう。もしも、「明日は学校がお休みです。」とか、「明日は、テストをします。」とか言われたのに、聞き損ったら、大変なことになりますよね。それなら、イエスさまの御言葉は、学校の先生の言葉とどっちが大切ですか。もちろんイエスさまですね。イエスさまの御言葉は、命の言葉です。100倍も実を結べる言葉です。天国に入ることもできる言葉です。反対に、天国に入れなくなってしまうことにもなるのです。

天国に入れない人は、どんな人なのでしょう。最初は、道端に落ちた種でした。人が歩く道は、コンクリートの道ではなくても、種が落ちてもし決して、根っこが生えません。土が固いからです。それは、イエスさまの言葉を聞くには聞くのですが、神さまの御言葉として聞かない人のことを意味しています。ただの人間の言葉と同じに考えるのです。「昔のすごく有名で、偉い人の言葉らしいよ。」「へー、そうなんだ。でも、それがどうしたの。僕には関係ないね。」それくらいのお話と

聞く人のことです。

二番目は、石だらけで土の少ない地に落ちた種です。確かに土があります。だから、根っこが生えて行きます。ところが、伸びるぞ、と思うとすぐに、石にぶつかります。そうすると、もうそれ以上、伸びませんから、枯れてしまいます。それは、神さまの御言葉を最初は、喜んで聞くのですが、その後で、必ずやってくるこんな言葉に負ける人のことです。「イエスさまより、教会より、楽しいことがあるよ。」とか、「キリスト教や教会の教えを深く信じるのは、いけないこと。間違い。」最初は、良かったのに、人間の言葉に負けてしまうのです。

三番目は、茨の中に落ちた種です。「もっと、君の役に立つ教えがあるよ。」とか「塾に行ったほうが、もっと豊かな実を結べるよ。日曜学校より大切なんだよ。」誘惑です。

これまでの三つの場所は、結局、御言葉を聞いて、悟らない人のことです。信じない人のことです。それなら、御言葉を信じる人、信じ続ける人はどうなるのでしょうか。100倍の実です。すごい祝福です。どうすれば、今年、100倍の実を結べるようになるのでしょうか。それは、イエスさまの御言葉を心にしっかりと信じることです。一番、大切な言葉とすることです。他のどんな人のお話、本より、イエスさまやイエスさまのことが書かれている聖書を大切にすることです。一番は、日曜学校の礼拝です。そして、二番は、「いのばん」です。毎日、家でもお祈りするのです。そのようなお友達は、間違いなく、良い地に落ちた種です。この種は、イエスさまのことを意味しています。イエスさまは、一粒の種として十字架で死なれた後、何百、何千、何億、何百億、数え切れない人間を神さまの子どもの仲間、天国に入れてくださいました。すごい力があるのです。イエスさまは、御言葉を信じている僕たち私たちの心の中に宿ってくださいます。(相馬伸郎)

〔今週の暗唱聖句〕 マタイによる福音書13章8節

ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、
あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。

〈分級では〉

新年を迎えることが出来た感謝を主に捧げてから分級を始めましょう。

教会によっては、お餅つきのイベントをしているところもあるかもしれませんね。

この分級でも今年一年の神様とお友達に対する思い（抱負）を書いた紙を飛ばして遊んでみるのもいいかもしれません。

〈分級のねらい〉

四種類のそれぞれの状況は、私たちクリスチャンにとっても当てはまるのではないかと思います。

イエス様が、その生涯を通じ父なる神様に対して、私たちのために常に従順だったことを思うと、自然と御言葉を聞く態度を考えさせられます。そのイエス様に背中を押されて、イエス様と共に信仰を育んでいきましょう。

〈展開例〉

①それぞれの土地をイメージしたものを画用紙に

色を塗ったりしてつくる。良い地には茶色く染めた綿を使うと良いかもしれない。

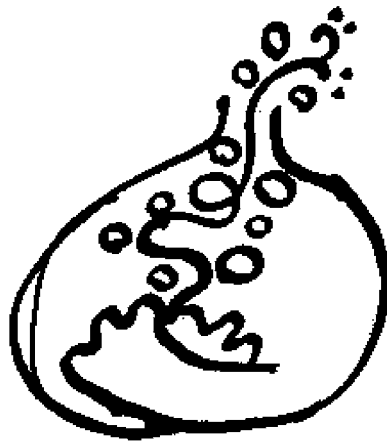
②先生が、種をイメージしたビーズなどを使ってその種を適当に配置された地の上に蒔く。ここでメッセージの復習もかねてそれぞれ質問したりして、それぞれの地に落ちた種はどうなり何を表すかを示す。

③良い地に落ちた種（信仰）が成長していくのは誰のおかげかも示す必要がある（コリントー3：6）。

④最後にみんなでそれぞれ自分の種を決め、「神様お願いします。」などの合言葉を言って良い地に蒔くのもいいかもしれない。

〈おいのり〉

神様、御言葉をありがとうございます。みんなを良い地に入れてください。そして神様と一緒に成長していくことが出来ますように。



良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍

〈ねらい〉

神様のみことばを信じて従う人には、豊かな実りが約束されていることを分かち合う。

心を新たに、喜びと希望を持って新年をスタートする。

〈展開例〉

1. みなさんは学校の授業で、種をまいたことがあるでしょう。小さな小さな一粒の種でも、お水をあげたり、陽に当てたり、一生懸命お世話をすれば、花が咲き、実がなります。とても嬉しいですね。でも、もし途中で枯れてしまったり、よく育たないとがっかりします。(できれば、鉢植えの花、稲または麦の穂、米や小豆など、何かしら実物を持ってきて見せ、お互いの経験などを具体的に話し合う。)
2. イエス様が教えてくださった、よい土地に落ちて百倍、六十倍、三十倍の実をつけた種は、どんな人のことでしょうか？

→聖書をよく読む人、神様のみことばを聞いてそのとおりにする人、などの答えに導く。

3. 今みなさんは、まだ種から芽が出たところですね。これからどんな花が咲き、実を付けるでしょうか？ 新しい年、神様から祝福をたくさんいただいて、豊かに成長したいですね。今年の目標、挑戦したいことはなんですか？

→それぞれの思いに耳を傾け、励ます。ひとりひとりの置かれている状況や、興味、関心のあるところを知り、今後のコミュニケーションに用いたい。

〈おいのり〉

神様、私たちに新しい年を与えてくださり感謝します。神様のみことばが世界中の人々に宣べ伝えられ、豊かな実を結ぶ年になりますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

実を結ぶよい土地となるために。

〈展開例〉

1. 種と土地は何を表しているのでしょうか

①種とは → (答) 神の言葉

(ヒント) 種には命がある。同じように人に命を与えることができるもの。生きていて力があるもの(ヘブル4章12節)

②土地とは → (答) 神の言葉を聞く人の心

(ヒント) 神の言葉はどこにまかれる？

2. 四つの土地

①「道ばた」とは「固い心」のことです。

心を固く閉ざしているので、種である神の言葉が心に入っていきます。神の言葉を理解しようとしないう心、受け入れようとしないう固い心です。サタンが来て御言葉を取っていってしまうので、心には残りません。

②「石だらけの所」とは「浅く薄っぺらな心」のことです。

土は少しあるので芽は出ますが、根がないので日に照らされると枯れてしまいます。御言葉を喜んで受け入れるのですが、教会へ行っていることでからかわれたり、反対されたりするとつまづいてしまうのです。教会に来なくなってしまうたり、神様から離れてしまいます。

③「茨の中」とは「思いわずらいや誘惑でふさがれた心」です。

せっかく芽が出て伸びようとしても、茨に邪魔されて大きくなれません。茨とは、心の中にあるいろいろなものです。自分を幸せにしてくれそうな楽しいこと、しなければならない勉強や生活の心配などです。それらが神様より大切になると、神の言葉はそれらにじゃまされて成長できません。

④「よい土地」とは「やわらかい心でしっかり御言葉を受け入れる心」です。

よい耳でしっかりと御言葉を聞き、理解し、深いところに、根をはるようにしっかりと受け入れる心です。そういう人は御言葉を自分の中で成長させ、100倍もの実を結ぶのです。

3. よい土地としていただくために

- ・神様の言葉を心の耳をすませて聞きましょう。礼拝の説教を聞くとき、また自分で聖書を開いて読むとき、「神様、あなたの御言葉を正しく理解できるように助けてください」と、祈りましょう。
- ・聞いた御言葉を静かに考えましょう。御言葉をとおして、神様が私にどんなことを教えておられるのかを、静かに思い巡らしましょう。
- ・聞いた御言葉が自分の中で成長するために、御言葉を覚えましょう。御言葉を聞かず、種をまくことや心を耕すことをなまけたりしていると、心は固くなったり、雑草がはえてきて実を結ぶことはできません。私たちは毎日、心の中に種をまき、耕し、深く植え付けていただくことが大切です。

4. デボーションノートを作ろう(デボーションとは神様の前に静り、神様と交わること)

用紙に年月日、聖書箇所(聖書箇所は教案誌の最後にある「いのちのパン」を利用してもよい)、要約(どんなことが書いてありますか)、心に残った御言葉、神様はあなたに何を教えていますか、などの見出しを書く。(各見出しの下に記入のための空白を作る)

デボーションのやり方の例

1. 聖書箇所をよく読む
2. デボーションノートに記入する
3. お祈りする

今日のカテキズム

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問
69、70が挙げられています。

問69 御言葉とは何ですか。

答 生ける神の言葉、イエス・キリストです。
書かれた神の御言葉である聖書と、聖霊な
る神さまが語られる神の御言葉としての教
会の説教を通して、私たちは、イエスさま
と一つに結び合わせられます。

問70 御言葉は、どのようにしてあなたに救いの
恵みを与えるのですか。

答 私たちが、神の御言葉である聖書と説教に
正しく聴き従うことによってです。御言葉
をよく聴くことこそ、神さまへの愛と奉仕
です。

※み言葉の説教をどのように聞くべきか、ハイデ
ルベルク信仰問答は次のような問答で記してい
ます。長いので、覚えるのは難しいかもしれま
せんが、紹介してください。

ハイデルベルク信仰問答

問84 聖なる福音の説教によって、天国はどのよ
うに開かれたり閉ざされるのですか。

答 次のようにです。すなわち、キリストの御
命令によって、信仰者に対して誰にでも告
知され 明らかに証言されることは、彼ら
が福音の約束を まことの信仰をもって受
け入れる度ごとに、そのすべての罪が、キ
リストの功績のゆえに、神によって真実に
赦されるということです。

しかし、不信仰な者や偽善者たちすべてに
告知され 明らかに証言されることは、彼
らが回心しない限り、神の御怒りと永遠の
刑罰とが、彼らに留まるということです。
そのような福音の証言によって、神は両者
をこの世と来るべき世において裁こうとな
さるのです。

※御言葉について教えている、ウェストミンス
ター小教理問答問89・90は、11月12日に出で
きました。覚えているかどうか、もう一度おさ
らいしておきましょう。

ウェストミンスター小教理問答

問89 御言葉は、どのようにして救いに有効とさ
れますか。

答 神の御霊が、御言葉を読むこと、特に説教
を、罪人に罪を自覚させて回心させるため、
また信仰によってきよめと慰めのうちに救
いに至るまで建て上げるために、有効な手
段とされます。

問90 御言葉が救いに有効となるには、御言葉を
どのように読み、また聞かなければなりませ
んか。

答 御言葉が救いに有効となるには、私たちは、
勤勉、準備、祈禱をもってこれに傾聴し、
信仰と愛をもって受けいれ、私たちの心の
うちに蓄え、私たちの生活の中で実践しな
ければなりません。

〈今週の聖書日課〉

日曜日	ルカ8：15
月曜日	詩編119：18
火曜日	ヤコブ1：25
水曜日	詩編19：8
木曜日	ローマ15：4
金曜日	箴言8：34
土曜日	ペトロ2：1～2

先生方へ①

いよいよ最後のタームになりました。今年度
は、教理問答を、文字通り「問答」という言
語活動をしながら、先生と生徒の間の対話を
生み出し、生徒が心に御言葉を蓄えていく助
けとなるよう、これを行うことを目的として、
分級展開例を記してきましたが、いかがだっ
たでしょうか。

(1) おどろくべき養い

- ①5000人を養う主イエスの奇跡は、四つの福音書すべてに記されています。つまり「福音」を語る際に、どうしても省くことのできない出来事として、主イエスの弟子たちに記憶されているのです。
- ②出来事の要点は、主イエスが五つのパンと二匹の魚で、5000人の人々（しかも数えてみたのは男だけの数）を、養ってくださった。それだけの人々が空腹を満たされてなお、弟子たちが残りのパンを集めると、十二の籠にいっぱいになったのです。これらの要点では、四つの福音書の記述はまったく共通です。

(2) ヨハネ福音書の叙述の特徴

- ①ヨハネ福音書は、豊かな給食を受けた群集の中に、主イエスへの誤解が広まって、もはや收拾がつかなくなる様子を描きます。主イエスを「預言者」とみなす者、この方を「王」として戴こうとする者。イエスを預言者、王と見ることは、かならずしも全面的に間違いとは言えません。しかし、その理解はきわめて浅いとことに留まっています。
- ②人々の誤解を解くために、この福音書では主イエスの長大な説教が続きますが、語れば語るほど、その誤解は大きくなり、ついには、大勢のものが主イエスのもとを離れる結果になります。
- ヨハネ福音書では、自分のささやかな「弁当」を差し出した「少年」に光を当てる読み方も魅力的でしょう。

(3) 主イエスと共に考える

- ①「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」。主イエスは、弟子フィリポに尋ねておられます。御自分では何をすべ

きかを知っておられ、あえてフィリポを試みておられるのです。主イエスから問われることは、主イエスと共に考えることです。

- ②もう一人の弟子アンデレも、大麦のパン五つと魚二匹をもった少年を見つけて主イエスに報告します。「けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう」。これがフィリポの出した結論です。二人の弟子は、この行き詰まりの中で、主イエスと共に考えることを学びます。そのことを通して、主イエスはご自分の思考、ご自分の決意の中に、彼らを招こうとされます。
- ③大きな難局の中で、自分の無力さがひしひしと心を圧迫する。キリスト者も教会も、繰りかえし同じことを経験します。主イエスなら、この難局をどう乗り越えられるか。信仰に生きるとは、主イエスと共に考え祈る習慣を身につけることです。

(4) まことの過越し、神の小羊

- ①ヨハネ福音書の5000人給食は、単なる空腹の満たしでなく、キリストこそ、命にいたるまことの糧、「天から降って来たパン」であるという、大きな使信へと展開されます（33,51節他）。その使信を導入するため、ヨハネ福音書は「ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた」と注意を促しています（4節）。
- ②パンを取り、感謝して人々に分け与える主イエスの姿は、最後の晚餐の食卓で、弟子たちの記憶に鮮明に再現されます。そして、教会は5000人給食を、自分たちの「聖餐」の食卓の中でも、繰りかえし「想起」します。主イエスが与えるまことのパン。それは永遠の命にいたる真実の糧です。ヨハネ福音書の「給食」は、キリストを食べて生きる信仰の真髄に、私たちが招きます。（小野静雄）

テキスト ヨハネによる福音書6章1～15節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問69、62

〔単元のねらい〕

主イエス・キリストは、神の国の到来の宣言を、その力あるしるしによって確かなものとされた。教会は、この神の国の先触れであり、しるしである。教会の頭は主イエスであり、その全存在は、キリストの体である。今も、主イエス・キリストは教会を通して御国を拡大し続けておられる。ヨハネによる5000人の給食の奇跡は、一人の少年が取り上げられる。子どもが、主イエスの御心の実現のために深く関わったという出来事である。我々のカリキュラムにおいてヨハネによる福音書を選択したのは、この少年に注目したいからである。子らと主イエスとが織り成すこの物語のなかで、子らの信仰と神の御子イエスさまの力ある働きが今も、織り成されて進むことを教え、励ましたい。私どもこそ、日曜学校の働きが成人の奉仕によってのみ担われるのではないことを、心すべきであろう。なお、既刊第11号にも筆者による当該テキストからの説教が掲載されています。

「僕のお弁当は、誰のもの？」

今、イエスさまは、山にいます。イエスさまは、いつものように神さまのこと、神さまの御国のことをお話しておられます。その日もまた、大勢の人々が、イエスさまのもとにやってきました。大人の男の人だけでも、5000人がいます。女の人や、子ども達を数えたら、一万人、いへもしかすると2万人くらいの人たちがイエスさまのお話を聞こうとして集まってきたのです。野球場とか、サッカースタジアムなら二万人入るところがありますね。でも、ユダヤにはそのような施設はありません。イエスさまは山にいます。皆は、一生懸命、イエスさまのお話を聞こうとして集まっているのです。この人たちは、どんな人たちなのでしょう。イエスさまは、この人たちをご覧になって、「ああ、かわいそうな人々だ」とお腹をぎゅっとなぐりながら、憐れみの心を強くもたれました。それは、この人たちに神さまの正しい教えを告げてくれる人がいなかったからです。神さまの命のことば、命の種を蒔いてくれる人がいなかったからです。この大勢の人たちは、まるで羊飼いかから離れて、さまよっている羊の群れのように見えていたのです。

さて、夕方になりました。イエスさまの説教が終わりました。夕方になれば、どうなるかというと、そろそろお腹がすいてきます。イエスさまは、そのとき、隣にいた弟子のフィリポにこう言いました。「この人たちは、お腹をすかしているね。どこでパンを買ったら、皆に食べさせることができるでしょうか。」フィリポは、びっくりして言いました。「イエスさま、ご覧下さい。これだけの人たちですよ。ちょっとだけ食べてもらうにしても、たぶん、200万円くらいはかかります。」

フィリポさんが言うのも、よく分かります。だって、二万人もいたら、一個100円のパンをひとつだけしかあげられませんよね。先生だったら、夕食を、100円のハンバーガー一個だけで済まさないわけにはいかないのだった、すごく困ります。

イエスさまのこのお話をそばで聞いていた人に、一人の少年がいました。なんと、この少年は、自分のためにお弁当を持っているのです。お麦のパン五つと魚二匹です。焼き魚か、煮魚か分かりませんが、このお弁当をつくったのは、お母さんかもしれません。先生の勝手な想像ですが、このパン五つと二匹の魚のお弁当は、この少年一人の夕食ではなかったのではないのでしょうか。先

生は、お父さんやお母さん、兄弟の分、つまり、その少年の家族みんなが食べる夕食だったのではないかなと思います。それにしては、本当に貧しいものです。でも、当時の人たちは、そのようにわずかなものを神さまに感謝して、食べていたのです。さて、その少年は、イエスさまのお話を聞いていました。そして、イエスさまが、お弁当を持っていない大勢の人たちのことをかわいそうに思っておられることを知ったのです。お弟子さんたちと相談していることを知ったのです。そこで、この少年は、いても立ってもいられなくなったのだと思います。そばにいた弟子のアンデレに、言いました。「あのお、このお弁当をイエスさまに差し上げます。イエスさまに、お伝え下さい。」アンデレは、考えました。「うーん、ありがとう。でもね、君のお弁当一つくらいでは、何にもならないよ。まあ、仕方がない。イエスさまにお話だけしてみるよ」「イエスさま、そういうわけです。何の役にもたちませんね。」

すると、イエスさまは、喜びにあふれて仰せになりました。「人々を座らせなさい」皆が、シーンとなって座りました。するとイエスさまは、大麦のパンを手にとり、感謝の祈りを捧げました。大人の礼拝式に出ているお友達は、聖餐のとき、先生がパンを手にもって頭の上に上げて、イエスさまの御言葉を語っているのを見たことがあるでしょう。少し似ている仕草ですね。イエスさまは、そのパンを配り始められました。するとどうでしょう。五つのパンがイエスさまの御手の中で、どんどん、増えてゆきます。配っても配って

もなくなりません。皆、どんどん配って行きます。食べながら配ります。魚も同じようにして配られます。どんどん、配ります。どんどん増えてゆきます。皆は食べながら、配ります。どんどん、配って、どんどん食べて、皆、とうとう、みんなのお腹は、いっぱいになってしまいました。

この少年のお弁当は100倍になりましたね。いへ、もっとすごいことになったのですよね。これは、イエスさまの奇跡です。神さまの御子の力です。でも、そのためには、確かに、一人の少年のすばらしい信仰の心と従う心がありました。

今、実は、僕たち私たちの住んでいる地球では、一日に、一つのハンバーガーを分け合って食べている子ども達がたくさんいます。イエスさまを信じている僕たち私たちは、どうすればよいのでしょうか。奇跡は起こるのでしょうか。

先週は、種まきのたとえ話を聴いて礼拝を捧げました。イエスさまは今、僕たち私たちに命の種、御言葉の種を蒔いてくださいます。それは、僕たち私たちが、必ず、100倍も実を結ぶことを信じておられるからです。だったら、僕たち私たちは、ご飯を食べるときには必ず、自分のためだけではなく「日用の糧を今日も与えたまえ」、「食べられない人たちにもご飯を届けてください」とお祈りしないではおれませんね。十戒の最後の言葉に「むさぼってはならない」とあります。もし、あなたが、イエスさまのために、持っているものを差し出すなら、働き始めるなら、今も、イエスさまが奇跡を起こされます。(相馬伸郎)

[今週の暗唱聖句] ローマの信徒への手紙6章13節

また、あなたがたの五体を不義のための道具として罪に任せてはなりません。

かえって、自分自身を死者の中から生き返った者として神に献げ、

また、五体を義のための道具として神に献げなさい。

〈分級では〉

イエス様のお働きには、どんな小さな者の奉仕でも用いられます。むしろ小さい者を用いられることがしばしばあります。

今日の箇所のはんの一部分登場する少年も見逃せません。イエス様はその少年の持っていたお弁当を通して驚くべき大きなしを与えられました。

私たちは謙遜にさせられ、信じて行うならどんな小さな働きでも、イエス様によって大きな働きへと用いられると信じます。子供たちの素直な信仰生活を認め、共に成長していきましょう。

〈分級のねらい〉

ここのお話では、着目する箇所によっていろいろなメッセージが生まれるかもしれませんが、箇所全体からの視野に立ちつつ少年に注目したいものです。

〈展開例〉

①先週使った種まきの道具があれば、その小さい

種をイメージしたものから、百倍の実を結ぶところを見せるため、大きめの紙（新聞紙）を丸めて筒状にし、内側に丸まった紙を引っ張り出していって伸ばす（実を結ぶ過程を表現するため）。

②①の様子を見せながら、今日のお話の少年の差し出した小さなお弁当をイエス様が用いられ、大きなしをあらわされたその様子を話す。この小さなものをイエス様は感謝され、大きなものへと用いられたその素晴らしさを子供たちと分かち合いたい。

③また少年の気持ちはどんなだったかを想像し、子供たちと話し合うのもいいかもしれない。

※注意としては、①の先週使った「種まきのたとえ」のものを使う場合は、先週の話と混同しないように区別が必要。

〈おいのり〉

神様、みんなのもっているものは小さいかもしれませんが、神様がそのお働きのためにお使いください。



「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいのだろうか」

〈ねらい〉

この素晴らしい奇跡に、小さな子どもの行いが用いられていることに思いを寄せ、私たちもイエス様のために、喜んで献げることができるように勧める。

〈展開例〉

1. 5000人以上の人たちが、イエス様からおなかいっぱいのお食事をいただいたお話でしたね。そのお食事は最初、誰の、どんな食べ物でしたか？
→少年が自分のお弁当(五つのパンと二匹の魚)を差し出したことを確認する。
2. 私たちはいつも神様からたくさんの食べ物をいただいている、おなかをすかせて困ることはありませんね。でも、世界中には食べるものがなくて死んでしまう人もたくさんいます。その人たちのために、私たちができることはなんでしょう？
→その人たちのためにお祈りする、献金する、など。また、食べ物を残さない、感謝していただくことも、大切であることを伝えたい。

〈つくってみよう〉

「しおりを作ろう」

○用意するもの

色画用紙3色(台紙、魚、パン用)、リボンまたはきれいなひも、サインペン、はさみ、のり、穴あけパンチ

- ①しおりとして適当な大きさに切った台紙(これがお弁当箱!)を渡す。
- ②魚・パン用の色画用紙を配り、魚二匹・パン五つを好きなように切り抜く。(お弁当箱に全部入るようにね!)
- ③魚とパンを台紙にのりで貼り、裏には名前やみことばをサインペンで書く。
- ④パンチで穴を開け、リボンまたはひもを通す。

〈おいのり〉

神様、小さな子どもも用いてくださり、イエス様のお手伝いをさせていただけることをありがとうございます。私たちにできることを教えてください。そして、喜んで神様にお仕えすることができますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

イエス様こそ私たちに与えられた命のパンである。

〈展開例〉**1. どれだけのパンが必要だったのでしょうか**

男が5000人ほどであった、と書いてあります。女の人や子どもを入れると、どれほど多くの人がいたことでしょう。

これらの人が、たとえば一人200円分のパンを食べたとしたら、男の人だけで100万円分のパンが必要です。一人1個でも5000個以上のパンが必要です。トラックで運ばないと持ってこれないでしょう。

2. イエス様の問いの意味

イエス様は弟子たちに次のようにいわれました。「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」

これほど大勢の人たちに食べさせるパンを弟子たちが用意できないことを、イエス様はよくわかっておられました。そのうえでこの問いをされたのです。

それは、弟子たちに考えさせ、弟子たちがどのように答えるかを試すことによって、イエス様がこれからしようとしておられることの中に、弟子たちを招こうとされたのです。

「ここには五つのパンと二匹の魚しかない。しかし、そんなものは何にも役に立たないだろう」というのが弟子たちの答えでした。

3. わたしは命のパンである

イエス様が五つのパンと二匹の魚を取って人々に分け与えられると、パンと魚は、配っても配ってもなくなりませんでした。人々は欲し

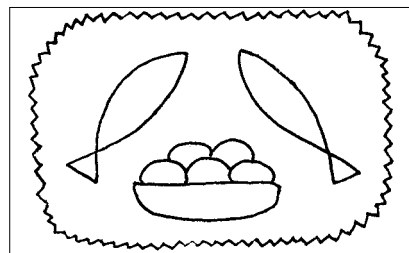
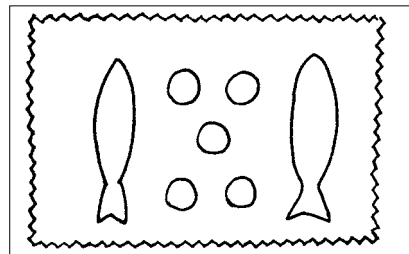
いだけパンと魚をお腹いっぱい食べました。

「わたしは命のパンである。わたしのもってくる者は決して飢えることがなく、わたしを信じるものは決して渴くことがない」という御言葉の真理を、目に見える形で、食べて満腹する形であらわしてくださったのです。

イエス様こそ、私たちに永遠の命を与えてくださる生きた命のパンそのものです。私たちに永遠の命を与え、豊かに養い、あふれるばかりに満たしてくださいます。

4. 五つのパンと二匹の魚の壁飾りを作る

〔用意するもの〕 フェルト（いろんな色）、ピンキングばさみ、ボンド、ハサミ、厚紙
(作品の例)



- ・フェルトを四角に切って厚紙に貼る。
- ・それよりも一回り小さくフェルトをピンキングばさみで切って上から貼る。
- ・さらに魚とパンの形に切ったフェルトを貼る。

〈今日のカテキズム〉

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問69、62が挙げられています。問69は先週出てきましたので、そちらを参照してください。

問62 第十戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 神さまは、私たちに必要なものを与えてくださいます。

しかし、人は、少しでも多くのものを自分のものにしようと欲しがります。むさぼりの心こそ、偶像礼拝です。それを考え、実行してはいけない、ということです。

むしろ、神さまは、私たちの心を 人の幸せを願うように造り変えてくださいました。

ですから、私たちは神さまから与えられたものに満足し、感謝し、人に与えることを喜びとします。

※自分に与えられたものに満足するばかりでなく、他人に分け与えることまでできるようになれ、ということは、旧約の昔から神さまに求められています（例えば、レビ23：22「畑から穀物を刈り取る時は、その畑の隅まで刈り尽くしてはならない。収穫後の落穂を拾い集めてはならない。貧しいものや寄留者のために残しておきなさい。わたしはあなたたちの神、主である」）、そういった教えが引照聖句として挙げられている戒めはむしろ、第八戒の「盗んではならない」の方です。つまり分け与えないことは「盗み」なのです。ウェストミンスター小教理問答問75の答にあるように「他人の生活状態を不当に妨げる事、あるいはその恐れのある事」に当たるからです。確認してみましょう。

ウェストミンスター小教理問答

問74 第八戒では、何が求められていますか。

答 第八戒が求めている事は、私たち自身と他人との富や生活状態を正当に確保し、向上させることです。

問75 第八戒では、何が禁じられていますか。

答 第八戒が禁じている事は、何事であれ私たち自身または隣人の富や生活状態を不当に妨げる事、あるいはその恐れのある事です。

※問74の引照聖句の中に申命記22：1～5があります。この箇所の中に三度「見ない振りをしてはならない」という言葉が記されています。また、テモテ5：8は「自分の親族、特に家族の世話をしない者がいれば、その者は信仰を捨てたことになり、信者でない人にも劣っています」と言っていますが、「家族の世話をしない」とは「家族が幸せに生きる権利を盗んでいる」と考えるので、「信仰を捨てたことになり」という強い表現となって表れています。「神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、または母なのだ」と言ってくださったイエスさま。5000人以上の人たちを、見捨てておけない、と憐れんでパンを与えてくださったイエスさまのお心は、第八戒の真髄と言えるのではないのでしょうか。

〈今週の聖書日課〉

日曜日	ローマ6：13
月曜日	テモテ5：8
火曜日	レビ25：35
水曜日	申命記22：1～4
木曜日	出エジプト23：4～5
金曜日	エフェソ4：28
土曜日	ローマ12：15

先生方へ②

今号で紹介している問答は、具体的な問題についての興味深いやり取りが多く、暗唱用というよりは、皆で一緒に考えるきっかけとなる材料を提供してくれるものと言えます。具体的すぎて、皆の意見が分かれたり、表現が引っかかったりするかもしれません。

非常に印象的な御言葉である。ここで為された主イエスの奇跡は、8章にある奇跡のように、単に嵐を鎮められた奇跡ではない。嵐の中で、主イエスが自ら近づいて来られて弟子たちを励まされた奇跡である。この御言葉における救いは、嵐を鎮める神の力というよりも、嵐の中で、恐れと苦難の中で、沈みそうになる舟の中で、その中にあっても、主が共にいて「安心せよ。恐れるな。」と語ってくださるという平安、主が共におられることの強さである。33節は、「弟子たち」と限定して書いて良さそうなところを、わざわざ「舟の中にいた人たち」と不特定多数を示すような言葉で記されている。世々の教会はこの波にもまれる舟とその船員の姿に、自分たち自身の姿を重ね合わせて励ましを受けてきた。

(1) 主イエスの祈りと弟子の危機 (22～25節)

弟子たちに舟で漕ぎ出せと命じられた主イエスは山で祈られた。山は神に近い場所を暗示する。主は何を祈られたのか、それを聖書は記さないが、弟子たちの弱さのため、飼い主のいない羊のようにさまよう人々の弱さのために祈られたとも考え得る。一方で弟子たちは危機に陥っていた。水に飲み込まれるということは旧約聖書の時代から、苦難、不安、そして死に飲み込まれることの象徴とされてきた。彼らは、ガリラヤ湖の何スタディオンか沖合、つまり数百メートル沖合で、生きるか死ぬかという状態に追い込まれていた。しかしその間にも主イエスの弱い者たちへの祈りは続き、さらに主は祈るだけに留まらず、自ら山を下りて、夜明けと共に漕ぎ悩む舟に向かって歩み寄って来てくださる。

(2) 弟子たちの不信仰 (26～27節)

この時こそ主イエスによって助けていただくことが最も必要だったはずの弟子たちは、近づいてこられる主イエスを拒み、救い主を幽霊、すなわち自分を襲う敵対者とまで見なし、必死に自分の手で自分自身を持ち上げようと悪戦苦闘していた。しかしたとえ私たちが神の不在を感じ、神から見放されたのではないかと恐れる時にも、そこに主イエスが届いて来てくださる。

(3) ペトロの疑いと主イエスの助け (28～33節)

31節の「疑う」という言葉には、「心が二つに分かれる」という意味がある。ただ主イエスだけに向かっていたペトロの心は、ここで二つに分かれてしまった。彼の中で、目の前の風と波の力が、主イエスが共におられるという現実と並んで膨らみ、さらに大きく広がっていった。その瞬間、ペトロは水の中に沈み始めた。

しかし主イエスは沈みかけているペトロにすぐに手を伸ばし、御手によってしっかりと捕まえてくださる。主イエスは決して沈むことのないお方であり、沈まない主イエスが私たちの手をしっかりと握ってくださっている限り、私たちが沈むことはない。苦難の時、誰もが「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と主に問われざるをえない。しかし主イエスはそう問われながらも、そこで沈まないようにしっかりと手を握ってくださっている。確かに私たちの信仰は弱く、しばしば強く揺さぶられて沈みかける。しかし主イエスはこの小さな信仰をも受け入れてくださり、「なぜ疑ったのか」と諭し、新しく信じ直すことへと、私たちの小さな信仰をもう一度起き上がらせて、励まし強めてくださる。

(吉岡契典)

テキスト マタイによる福音書14章22～33節

参照カテキズム 子どもカテキズム 問27、33

〔単元のねらい〕

ペトロは、主イエス・キリストに命じられるままに、海の上を歩く。それは、信じて歩むということがどのようなものであるのかを示す、大いなるしるしです。信仰とは、主イエス・キリストにのみ目を留め、主の招きに従って歩むことだからです。その意味で、信仰者とは、地上にあって誰でも海の上を歩くような奇跡の体験を重ねることなのです。海の上を歩くこと、それが信仰の生涯なのです。それは、子ども達の信仰も同じです。子ども達も、信仰の戦いを知り始めています。主イエスに目を留めて、進み行くことを励ますこと。たとい、沈みかけても、主が必ず御手を伸ばして捕まえてくださることを教えましょう。

「君も、海の上を歩いて行ける」

5000人の男の人たちに食べ物を与えられたイエスさまは、お弟子さんたちだけを舟に乗せて行かせました。イエスさまは、たった一人山でお祈りする必要があったのです。もうあたりはすっかり暗くなってしまっています。舟を漕ぎ出した弟子たちは、何時間か漕げば、簡単に向こう岸までつけると考えていました。ところが、1キロくらい岸から離れたあたりから強い逆風が吹いてきて、なかなか前に進めませんでした。夜中、逆風にあおられて大変な目にあってしまったのです。

夜が明けようとしたときです。イエスさまは、弟子たちのところに行きました。夜明け前は、一番暗いときです。弟子たちは、イエスさまが近づいて来られるのを見て、おびえてしまいました。「幽霊だ」と言った弟子もいます。先生は、お弟子さんたちが驚くのも、無理もないと思います。どうしてでしょう。誰だって、真っ暗な海の上を歩いている人間を見たら、その人間が自分たちのほうに向かって歩いてくるとしたら、びっくりするのは当然でしょう。

ただし、近づいて来た人は、イエスさまです。弟子たちは、イエスさまのお姿であることはわかったと思います。でも、信じられないのです。「あれは、イエスさまの幽霊だ。イエスさまが幽霊に

なってしまった。イエスさまは、死んでしまったのかもしれない。」弟子たちの、頭のなかは真っ白になってしまったのではないかと思います。

イエスさまはすぐに声をかけられました。「安心なさい。わたしだ。恐れることはない。」こう言って、ご自身であることをお示しになられます。お弟子さんたちは、イエスさまが何万という人にお腹いっぱいにご飯を食べさせられたのを、昨日見たばかりです。イエスさまは、聖書を正しく、分かりやすく教えてくださったり、信仰を教えてください。立派な先生ということだけではないことは、それで明らかになったはずですが。お弟子さんたちにも、分かってきたはずですが。ところが、この事件で、お弟子さんたちは、まだまだイエスさまがどのようなお方なのかがよく分かっていなかったことが、ばれてしまいました。でも、イエスさまの方では、改めて、海の上を歩くお姿をお見せになれることによって、ご自身が神さまの御子であることを、はっきりとお示しになられたのです。

さて、このお話は、それだけで終わりませんでした。ペトロが海の上に立っておられるイエスさまに答えて言いました。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行か

せてください。」

びっくりするような言葉です。ペトロは、どうしてそんなことを言ったのでしょうか。単純に、嵐のなかでイエスさまが来てくださったことが、嬉しかったからでしょうか。イエスさまなら、自分だって、海の上を歩かせてくださることがおできになると考えたのでしょうか。それとも、弟子たちのリーダーとして、自分もイエスさまのように歩いてみせたかったのでしょうか。はっきりとは分かりません。しかし、聖書が告げるのは、イエスさまが、「来なさい」と仰った、本当に命令してくださったということです。

さあ、ペトロは、どうしたでしょう。命じられるままに、舟を降りました。そして海の上に立ったのです。そればかりか、一步一步、イエスさまの方に歩き始めたのです。何歩、歩いたのでしょうか。ペトロは突然、強い風に気がつきました。そして怖くなりました。すると、どうでしょう。沈みかけてしまいました。ペトロは、またもやとっさに大声を出しました。「主よ、助けてください。」すると、イエスさまは、さっと手を伸ばして、力強い御手で、ペトロをつかまえてくださったのです。そして、イエスさまは、お叱りになられました。「信仰の薄い者よ、何故、疑ったのか。」

今日のお話は、僕たち私たちに何を伝えるためにマタイによる福音書の中に記されたのでしょうか。

一つは、イエスさまが本当に、神さまの御子で、天も地も、目に見えるものも見えないものも、すべてのものをお造りになられた神さまであること。二つ目は、イエスさまは、弟子たちが悩み苦しんでおられるときに、助けに来てくださるお方であること。だから、心配する必要がないこと。三つ目は、イエスさまがお命じになられるなら、海の上を歩くこともできること。その他にも、理由があると思います。

でも、このお話は、それで終わりません。ペト

ロが何故、沈んでしまったのか、分かりますか。それは、ペトロが強い風に気がついたからです。でも、強い風が吹いていたのは、最初からですよ。でも、ペトロは最初、イエスさましか目に入りませんでした。とにかく、イエスさまのところに早く近づきたい。そう考えて、イエスさまだけをめざし、イエスさまだけを見て、歩き始めたのです。ところが、いよいよイエスさまに近づいたとき、心に余裕ができました。余裕というのは、それまでは、イエスさまだけを見ていたのに、風を見たということです。イエスさま以外を見たのです。そして、自分が海の上を歩いていることに、もしかすると、余裕、自分の力のように思えてきたのかもしれませんが。とにかく、ペトロは、イエスさまから目を離したのです。すると一気に、沈みかけました。

それは、何を意味しているのですか。それは、信じて歩むということは、イエスさまから目を離さないことだということです。イエスさまから目を離したら、信仰の生活はできなくなるのです。でも、イエスさまを見ていると、僕たち私たちは、神さまの子として、神さまの祝福のうちに、イエスさまと一緒に歩めます。それこそが、奇跡のなかの奇跡です。先生も、何度も経験してきました。この教会も、何度も何度も、奇跡を経験してきました。(例話を……)

けれども正直に言うと、かっこいいことばかりではなかったのです。沈みかけたこともありました。でも、今、先生は、ここでこのお話をしています。この聖書のお話を、先生自身の経験として、この教会の今の経験としてお話しているのです。

イエスさまは、今も生きておられます。イエスさまは、近づきたいとお願いする人に、「来なさい」と命じてくださいます。イエスさまだけに目を注ぐ人には、今でも、海の上を歩くような不思議な、すばらしい奇跡を経験するのです。これからも、イエスさまから目を離さないで歩きましょう。日曜学校の礼拝に出席することが、一番です。

(相馬伸郎)

[今週の暗唱聖句] コリントの信徒への手紙 二 4章18節

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。

見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。

〈ねらい〉

「安心なさい。わたしだ。怖れることはない。」と声をかけ、その存在を明らかにして下さるイエス様。大嵐や、波にのまれそうな時、一歩たりとも前に進めないような時にも、見守っていて下さる。そしてイエス様から、近づいてきて下さる。私たちの歩みをいつでも見守っていて下さるイエスキリストから私たちもペトロのように目を離さないで信じ信頼して、神様に愛されていることを喜び、神様を愛して、歩んでいきましょう。

〈展開例〉

子どもの頃、「忍者ハットリくん」というアニメがありました。ハットリくんが水の上を歩いていたのを覚えています。右足が沈まないうちに左足を出し、左足が沈まないうちに右足を出せば、水の上を歩けるのになあ……とハットリくんを見ながら考えていました。でも、ペトロさんは、水の上を歩いたのですよ。あら、ふしぎ。どうやって？ イエス様を信じる信仰によって歩いたのですよ。素晴らしい。

イエス様は、神様にお祈りするために一人で山に登りました。ガリラヤ湖に浮かんでいるお弟子さんたちの舟を見守っておられました。すると風のために大波になり、舟はゆらゆらゆれて、前に進めなくなりました。真夜中の月明かりの中、イエス様が湖の上を歩いて弟子たちの舟に近づいてきました。でも、弟子たちは、「あ、幽霊だ」と言っておびえ、舟の中は大騒ぎになりました。イエス様はすぐ、声をかけられました。「安心なさい。わたしだ。怖れることはない。と励ましてくれました。イエス様は私たちがあわてたり、怖いとき、困ったとき、悩んだとき、このときと同じように見守っていて下さって、すぐきてくださり、助けて下さいます。「私がそばにいつも一緒にいますよ」と声をかけ、励まして愛して下さるお方なの

です。イエス様を信じる時、どんな不安なことでも消えてなくなるのです。お弟子さんたちはうれしくなり、どんな嵐も怖くなくなりました。

ペトロさんが立って、イエス様に、「主よ、あなたでしたら、私に命令して、水の上を歩いてそちらに行かせて下さい。」といいました。ペトロさんは、愛するイエス様に近づきたい、おそばにゆきたいと思ったのです。ペトロさんは、イエス様は神様なので、イエス様の命令があれば、水の上でも歩けるという強い信仰を持ったのです。イエス様は、ペトロの信仰を知って、「来なさい。」と言われました。ペトロはうれしくて、大喜びで嵐の中、舟からおりて、水の上を歩きました。一歩一歩、大好きな愛するイエス様の目を見ながら、歩いていきました。イエス様と目と目が合い、心がイエス様だけを考えているとき、恐れは全くありませんでした。ほんとうに、心から信頼していました。

その時、激しい風と大波がペトロにおそいかかりました。ペトロさんは、イエス様から目を離してしまい、怖くなりました。その時、突然沈みかけました。「主よ、助けてください。」とペトロさんは大声で叫びました。イエス様は、すぐに、力強い手を伸ばして、沈みかけて死にそうになったペトロさんを捕まえ、引き上げて助けて下さいました。「どうしてわたしから、目を離したのですか。どうして私を信じないで怖がったのですか。」とペトロさんの不信仰をしかりました。ペトロさんは愛のおしかりを受けて、もうイエス様から目を離さないようにしよう、イエス様をどんな時にも信じ、信頼しようと思いました。

私たちもこのところからイエス様の愛と力強い救いと、平安を知りました。お弟子さんたちと同じように、教会学校に来て、「わたしだ。」という神、イエスキリストを信じ、信頼して、信仰を告白し続ける生活をしましょう。

〈ねらい〉

イエス様を心から信じ、信頼して歩む、ということ分かち合う。このドラマティックな奇跡を、情景と共に深く印象づけたい。

〈展開例〉

1. 皆さんは船に乗ったことはありますか？強い風が吹き、波が激しくなって船が揺れたらとてもこわいですね。その他に、皆さんがこわいと思うことはなんですか？
→地震・火事・雷・暗闇？ 子どもたちのことばに、耳を傾ける。
2. 自分の力ではどうしようもない時、私たちはどうしたらいいのでしょうか？神様が助けてくださると、心から信じることができますか？先生たち、大人でもこわいことはたくさんあります。でも、神様を信じているから、安心することができるのです。

〈絵を描こう〉

○用意するもの

画用紙、クレヨン（時間に余裕があれば絵の具も）

○礼拝でのお話を思い起こし、分かち合いながら、それぞれに絵に表現する。

できあがった絵は、一回り大きい色画用紙などに貼り、題（「嵐を鎮める主」）・学年・名前を書きこんで、しばらく教会に掲示すると良い。絵について他の子どもたちや先生に声をかけられれば励みになるし、教会員に教会学校の働きを覚えていただくことにもつながる。

〈おいのり〉

神様、私たちがこわい時、そばにいて助けてください。どんな時も神様を信じて従うことができますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」

〈ねらい〉

神の子、イエス様から目を離さないで歩む。

〈展開例〉**1. 嵐の中で**

弟子たちは一晩中、舟をこいでいました。こいでもこいでも強い風と波で、思うように舟は進みません。あたりは真っ暗です。弟子たちはどんなに心細かったでしょう。体もくたくたに疲れていました。こんなとき、イエス様が一緒にいてくれればと思ったに違いありません。

2. 突然、イエス様が……

夜が明けころ、イエス様は湖の上を歩かれるという、私たちの思いもつかない方法で近づいて来られました。弟子たちは幽霊だと思い、恐ろしくなりました。

そんな弟子たちにイエス様は、「わたしだ。恐れることはない」と語りかけられます。「わたしだ」という言葉は「わたしはある」という意味です。「幽霊などではない。わたしだよ」という意味だけでなく、「わたしは神である」という意味です。わたしはあなたを助ける神であるとおっしゃっているのです。

3. わたしも歩かせてください

ペトロは「あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩かせてください」といいました。ペトロは「神の子、イエス様、あなたでしたら」といっているのです。「まことの神であるあなたの言葉があれば、私も水の上を歩くことができます」という信仰です。

このペトロにイエス様は「来なさい」といわれました。ペトロは主イエスの御言葉に信頼し、水の上を歩き始めました。

4. 風を見て恐ろしくなり……

突然、ペトロは沈み始めます。強い風を見て恐ろしくなったからです。イエス様だけを見つめて歩き始めたときには、強い風がふいていても怖いとは思いませんでした。しかし、ペトロの心の中に、この風が自分を溺れさせてしまうかもしれないという恐怖が生まれました。

「主よ、助けてください」とペトロは叫びました。イエス様はすぐに手を伸ばし、ペトロを捕まえてくださいました。それからすぐに嵐は静まりました。

5. 信仰の薄い者よ

イエス様はペトロに向かって「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」といわれました。

ペトロはイエス様を信じて歩き始めました。しかし、風を見たとき、イエス様を信じる信仰と強い風に対する恐怖で、心が二つに分かれてしまいました。

イエス様を信じていれば怖いものがなくなるわけではありません。私たちもペトロのように恐怖で心が支配されそうになることがあります。しかし、イエス様はすぐに助けに来てくださいます。「わたしだ。恐れることはない」と力強く私を導いてくださいます。

6. みことばカードを作ろう

- ・きれいな絵や色のついたメッセージカード（名刺大）を用意する
 - ・それぞれが暗記したい御言葉を書く
 - ・誰かにプレゼントしてもよい
- （聖書箇所例）詩編50：15、ヨハネ16：33、ヘブル13：5、イザヤ40：31、イザヤ43：4、一ヨハネ4：16、ヨハネ14：6、マタイ11：28、ペトロの手紙一5：7、ヨハネ14：18、ローマ8：28、テサロニケ一5：16～18

〈今日のカテキズム〉

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問

27、33が挙げられています。

問27 イエスさまの王としてのお働きは何ですか。

答 私たちの王さまとなってくさることで、弱い私たちが悪に滅ばされないように戦い、私たちを従わせ、治め、お守りくださいます。

この王さまこそ真の王さまです。ですから、私たちは心を込めて従います。

問33 聖化の歩みとは何ですか。

答 神さまの子どもとして、罪に死に、神さまの御子イエスさまのお姿に似せられていくことです。神さまに愛されている喜びのうちに、私たちも神さまを愛して歩みます。

※問27はウ小教理では問26、問33はウ小教理では問35にあたります。ご参照ください。

※人生において、嵐とも思えるような状況に遭った時、どうしても揺らいでしまうわたしたち人間……。ペトロを責めることはできません。天地創造の父なる神、その御子イエス・キリストを堅く信じることへと導かれたいものです。次に記すカテキズムは以前にも出てきたものですが、覚えているかどうか、おさらいしてみましょう。

ハイデルベルク信仰問答

問28 神の創造と摂理を知ることによって、わたしたちはどのような益を受けますか。

答 わたしたちが逆境においては忍耐強く、順境においては感謝し、将来についてはわたしたちの真実な父なる神をかたく信じ、どんな被造物も この方の愛からわたした

ちを引き離すことはできないと確信できるようになる、ということです。

なぜなら、あらゆる被造物はこの方の御手の中にあるので、御心によらないでは動くことも動かされることもできないからです。

〈今週の聖書日課〉

日曜日 コリント二4：18

月曜日 ヤコブ1：3

火曜日 テサロニケー5：16～22

水曜日 詩編55：23

木曜日 ローマ5：3～5

金曜日 ローマ8：38、39

土曜日 使徒17：24～28

先生方へ③

そのような教理問答を、有無を言わず暗唱させるのは、正しくありません。立ち止まって、その文言で納得できるか、できないとしたら、問答の文章のほうが正しくないのか、自分の至らなさをゆえに納得できないのか、聖書に聞く必要があります。前号でお勧めしたように、教理問答の引照聖句を、一緒に一つ一つ丁寧に開いて読む作業をして、話し合ってみてください。結論を急ぐ必要はありません。時間内で話し合えるだけ話し合って終わってしまってもいいのです。自分で考える力を引き出してあげられるように導きたいものです。そのような話し合いを導くためには、教師の側での準備と祈り・黙想が不可欠になります。どうぞよき備えができますように……。

私たちの信仰の本質と、教会の本質とがこの御言葉の中に現されている。

(1) 主イエスの問いかけへの人々の反応

(13～14節)

「イエスとは誰か」ということについて、この時人々の間に定まった見方はなかった。ここで述べられている様々な反応は、確かに主イエスの中に神の働きを見る好意的な声ではあったが、同時にイエスはキリスト（救い主）ではなく、メシアには及ばないという留保付きの声であった。

(2) 主イエスの問いかけへのペトロの応答

(15～17節)

しかしペトロの口が、イエスを救い主メシア、つまりキリストであると真理を告白した。イエスがメシア・救い主であり生ける神の子であるということ、これこそ信仰の本質を表す告白である。信仰とはこの事実を告白し信じることである。そしてこの告白がペトロの口から突如発せられたことの裏には、神の導きがあった。イエスが神であり救い主であるという告白は、私たちの内側に宿ってくださる神が、そこまで私達を導いてくださるゆえに成せる告白である（コリントー12:3）。主イエスへの正しい信仰告白は、それを告白している者が既に神に結び付けられていることの証明である。

(3) 主による教会の建設（18～20節）

主イエスが語られたペトロへの御計画とは、彼を教会の礎とするという厳かなものであった。カトリック教会はこの箇所を教皇制度の根拠とし、教皇はペトロの職務を受け継ぐ者であり、教皇こそが教会の土台であるとしてきた。しかしプロテ

スタント教会はペトロの告白とその信仰こそが、教会の土台であると理解している。しかし何より重要なことは、その信仰という土台を据えてくださるのが主であるばかりか、さらにその土台の上に教会を建て上げてくださるのも、他ならぬ主御自身であるということである。教会は主のものであり、そうであるからこそ「陰府の力もこれに対抗できない」のである。「陰府の力」とは死の神である「ハデスの門」という言葉であり、当時人は死によって、決して帰ってくる事の出来ない死者の国のその門の中に閉じ込められてしまうと考えられていた。しかし主の教会において、人間にとって克服不可能な死の力さえも無力なものとなるのである。「つなぐ」とは「排除する」、つまり禁ずるという意味を持っており、一方「解く」とは「許可する」、つまり天の国への入場を許すという言葉である。すなわち教会は、天国の門を地上において開閉させ得る程の重要な存在なのである。

ペトロはこの後、この告白にもかかわらずその同じ口から、「私は主イエスを知らない」と三度も語った。彼は主に信仰を言い表しながらも依然として弱さの中にあったが、主はペトロの告白と、彼への約束を無にはされなかった。主はペトロの罪を十字架によって清算し、すべてを赦してくださり、ペンテコステの日には彼に聖霊を注いで、彼を約束どおり教会の土台として用いてくださった。

このペトロの歩みを、彼の上に建てられた私たちの教会もまた歩む。教会に集う私たちは、弱く不確かな者であるが、教会を建て上げ、今もその上にかしらとして立たれている方は、唯一確かなお方である。私たちと教会はこの方によって立つ。

（吉岡契典）

テキスト マタイによる福音書16章13～20節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問22、23

〔単元のねらい〕

この箇所は、次主日の御言葉とあわせて、マタイ福音書における主イエスの歩みにおいて、一つのクライマックスを構成している御言葉である。主イエスの地上の生涯の最大のクライマックスは、なんと言っても十字架である。その地上の歩みの半ばにおいて、その十字架を見通すことができるような、一つの頂点がここにある。ここにおいて、主イエスが「まことの神」、「救い主」であることが明らかにされるのである。そのために、ペトロの口が用いられて、信仰を告白する。これは、御父が与えたもうた信仰告白である。この告白を通して、主イエスこそまことの神、救い主であると告白できる幸いを知って感謝したい。また、キリストを土台として建てられる教会においてこそ、真実にこの信仰に生きることができるのであって、教会が与えられている幸いを共に喜び、感謝したい。

「あなたこそ救い主、生ける神の子です」

主イエスは、お弟子さんたちを連れて、フィリポ・カイサリアというところに行きました。フィリポ・カイサリアというのは、ガリラヤの北、ヘルモン山の麓に位置する高原地方で、ヘルモン山からの地下水が湧き出す、湧き水の豊かなところで、緑も濃く、有名な避暑地でした。主イエスの時代には、多くの外国人が、このフィリポ・カイサリアを訪れていたようです。しかし、そこはまた偶像礼拝が盛んな場所でもあり、とりわけ、皇帝礼拝のための施設が設けられてからは、有名な皇帝礼拝の場所でもありました。

主イエスは、いったいどうして弟子たちをフィリポ・カイサリアに連れて行ったのでしょうか。避暑地に連れて行って休息するためであったのか、まさか偶像礼拝、皇帝礼拝をするためではないでしょう。主イエスは、このフィリポ・カイサリアで弟子たちに問いかけられました。「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」。

主イエスと弟子たちのまわりには、多くの異教の神々、偶像がありました。皇帝礼拝をしている人々もあります。立派な施設があつて、さまざまな神々が神として礼拝されています。その中で、主イエスは弟子たちに問いかけます。「あなたは、わたしのことを何者だと言うのか」、「目の前にい

るこのわたしに何を見るのか」。

主イエスが弟子たちに問いかけられた状況は、今の日本のわたしたちの状況に似ていると思います。日本で生きていくと、まわりには多くの偶像があり、異教の神々に囲まれています。人はそれぞれ思い思いに神々を礼拝し、お守りを持ったり、占いをしたりしています。そして、日本は、数十年前まで、天皇という神がいると言っていた国でもあります。同じ人間であるのに、その人のことを神であると言っていたのです。そのような中で、主イエスは、わたしたちにも問いかけておられます。「あなたがたは、わたしを何者だと言うのか」。

このとき、おそらくほかの弟子たちも口々に自分の思いを告白したでしょう。その中で、弟子たちを代表して、ペトロさんの告白が聖書に書き留められました。ペトロは主イエスに答えました。「あなたはメシア、生ける神の子です」。メシアというのは「救い主キリスト」ということです。ペトロさんは、「あなたこそまことの救い主、キリストであられます。あなたこそ生けるまことの神です」と告白しました。

この告白はとても驚くべきことです。まわりの人々は、主イエスのことを預言者の一人であると考えていたようです。主イエスは、しばしばたい

へん力ある御業、奇跡を行い、病の人をいやしておられました。そのような不思議な御業を見て、だれしも、この人はふつうの人ではないと思っていました。しかし、それでも、「人」であると思っていました。預言者の一人であろうと思っていたのです。もちろん、主イエスは、「人」であられ、一人の人間です。しかし、主イエスは、御父がお遣わくださった独り子なる神、救い主であるお方でもあります。ペトロはそのことを信じて、目の前にいる主イエスに対して、「わたしはあなたをただの『人』とか、『預言者』とは思いません。あなたはまことの神であられます。あなたは、御父がお遣わくださった救い主、キリストであられます」と告白したのです。

この告白は、まわりの多くの偶像の神々、偽りの神々をきっぱり拒否するということにほかなりません。偶像や皇帝を礼拝することを拒否して、「あなたこそまことの神の御子であられます」と告白して、主イエスを礼拝したのです。

主イエスは、このペトロの信仰告白を喜ばれました。「あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」。このような信仰告白は、ペトロ自身の心の中から生み出されたものではなく、天の父から授けられたものであるということです。ペトロに人間の力ではない、神の御力が確かに働いていること、そのことを主イエスは喜ばれました。

わたしたちは、主イエスのことをなんと言って告白するのでしょうか。「あなたこそまことの救い主、人となられた生ける神の子です」と告白できるでしょうか。できるならば、それは、神の御力が働いて、御父がわたしたちに与えてくださった信仰の告白なのです。「主イエスさまこそ救い主、まことの神さまです」と言うことができる、

そのような心を与えてくださった神さまをほめたたえて、感謝いたしましょう。

主イエスは、このような信仰を喜ばれ、ペトロにおっしゃいました。「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない」。「この岩の上に」と言われます。「この岩の上に」とは、ペトロの告白した「信仰告白の上に」ということです。そして、ペトロの信仰告白は、「主イエスこそまことの救い主」というものでした。ですから、「キリストの上に」、「キリストを土台として」教会が建てられるということです。

主なる神、御父は、御自身の独り子イエス・キリストを土台として、教会を建ててくださいます。だからこそ、「陰府の力もこれに対抗できない」。主イエスの御業、神の愛から、わたしたちを引き離すことはだれもできないのです。

わたしたちは、この主イエス・キリストを土台とする教会に集められて、神さまを礼拝しています。教会に集められて、主イエス・キリストに結び合わせられてこそ、「主イエスさまこそ生ける神の御子、まことの救い主キリストです」と告白できます。教会が与えられて、お友だちと一緒に集まって、「イエスさまがいちばん！」と言って賛美できることは、とても素晴らしいことですね。教会が与えられ、信仰の友だちが与えられていることを喜びましょう。教会に来ることを大切にしてい、ペトロの信仰告白、「主イエスさま、あなたこそ生ける神の子キリストです」という告白を自分のものといたしましょう。主イエスさまと父なる神さまが働いてくださって、神さまの愛から離れることのないように、いつもわたしたちを守ってくださいています。(望月 信)

[今週の暗唱聖句] マタイによる福音書16章16節

シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。

〈ねらい〉

幼い子どもたちは、今は親に連れられて毎週教会へ通ってきます。しかし、いつの日か、自分の口で信仰を告白することを待ち望み、私たちは教会学校で子どもたちと共に歩んでいます。

今日の箇所では、主イエスが「まことの神」「救い主」であることが明らかにされます。そのために神様の導きによりペトロの口が用いられて、信仰を告白します。

私たちも子どもたちも「主イエス様こそ救い主、まことの神様です」と告白できることを神様に感謝しましょう。

〈展開例〉

ある時、イエス様がお弟子さんたちに、「あなたたちは、私を何者だと思えますか」って質問したんだよ。（イエス様の絵を見せるとよいでしょう。）

みんなだったら、なんて答えますか。「イエス様はどんな方ですか」（一人ずつ聞くのもよいでしょう。もし、「神様」といった答えが返ってき

たら、いっぱいほめてあげましょう。また、それは、神様が言わせて下さったことも伝え、共に感謝しましょう。）

すると、お弟子さんの一人ペトロさんがこう答えました。「あなたはメシア、生ける神の子です。」これは、「あなたはただの人ではなく、まことの神様、そして、救い主、天国へと導いて下さるお方です」という意味です。

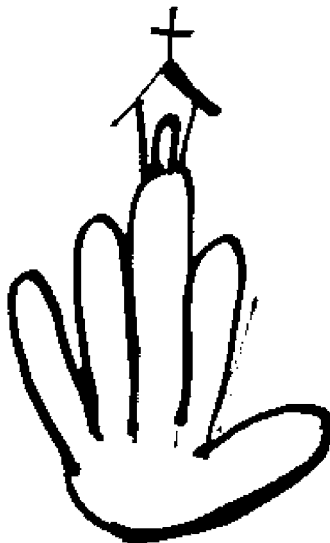
みんなもこのペトロさんのように神様によってイエス様のことが告白できるとよいですね。

それでは、続けて言ってみましょう。

「イエス様、あなたこそ救い主、生ける神の子です」

〈おいのり〉

神様、小さい私たちも、ペトロさんのように「イエス様こそ生ける神の子キリストです」と言えるようにして下さい。そして、主イエス様と神様が働いて下さって、神様の愛から離れることのないように、いつも私たちを守っていて下さい。アーメン。



「あなたはメシア、生ける神の子です」

〈ねらい〉

自分の信仰を神の前で告白し、言い表すことの大切さ、重要さをペトロの信仰告白を通して理解を深め、確信へと導く。また、異教の地に於いて様々な神理解がなされている中で、我々のとるべき態度(信仰告白)がどんな逆境にも耐えられしっかりと地上でつながれること、そしてそれが天の国の鍵を授けられる特権へと導かれることを共に喜びを持って語り合えるようにしたい。

〈展開例〉

みんなは神様のことを信じていますね。それを誰かに教えたことはありますか？ 誰でもいいです、お友達でも、誰でもいいです。それを伝えるときになぜだかドキドキしてしまうかもしれませんね。見たこともない神様を信じているって言うとお友達などが変な風に感じてしまわないとか、神様っていないって言う人がたくさんいるっていうことをみんなは知ってるからだよね。

「神様なんてないんだよ」

「そんなの信じているなんて信じられない」

という人たちの前で、

「神様って絶対いるんだ！」

というのはとても勇気のいることです。

本当の神様を伝えるのは、とっても難しいことなのです。でもね、それよりドキドキしてしまうことがあるんだ。何だと思う？ それは神様に向かって「神様、信じています！」とハッキリ言うことなんだ。私たちの弱い心をすべてご存知なのに「神様を信じます」なんて、本当に神様の前で言えるかなあ？ どうだろう？ これはとっても大切なことなんだよ。実は、このことをキチンと心で信じて、言えることができれば、信じていない人にもちゃんと伝えられるんだ。ペテロさんの信仰をもう一度しっかり聖書から学んでみようね。

ペトロさんはイエス様に

「あなたはメシア、生ける神の子です。」

とハッキリ言いました。メシアとは救い主、私たちを罪から救ってくださる方、ということです。私たちもペトロさんのようにハッキリ神様を信じます、と言えるようになりたいですね。

〈ワーク〉

1. ペトロさんはイエス様に

「あなたは〇〇〇、生ける神の子です。」と言いました。

〇〇〇は何か？

→メシア

2. イエス様はペトロさんに

「天の国の鍵をあげよう。」と言いました。どうしたら私たちもその鍵をもらえることができるかな？

→神様の前でハッキリ「神様を信じています。」と答えることができた。

3. その鍵はどんな形をしているか、絵を書いてみよう。

→絵は色々想像豊かに書かせるのも良いし、想像で言わせるのも楽しい。何れにしても信じることによって私たちに大きな恵み、特権が与えられることを期待させたい。

4. どうやったら神様に自分が信じていることをお伝えできるかな？

→自由に話し合おう。洗礼式や信仰告白時に神と教会の前で誓約することなどを話し、理解を深めてもよい。

〈おいのり〉

神様、私たちに神様のことを信じる心をお与えください。そしてハッキリと言い表すことができますように、私たちの信仰を強めてください。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

〈ねらい〉

イエス様を生ける神の子と告白できる幸い。

〈展開例〉

1. イエス様ってどんな方？

人々はイエス様のことを「洗礼者ヨハネ」「エリヤ」「エレミヤ」「預言者の一人」などといっていました。偉大な人、神から遣わされた預言者の一人として見ていたのです。

あなたは「イエス様とはあなたにとって、どんな方ですか」と聞かれたら何と答えますか。

- ・立派な生き方をした偉い人
- ・十字架で殺されてしまったかわいそうな人
- ・神の御子、私の救い主

2. 「わたしを何者だと言うのか」

今の世の人々もイエス・キリストをいろいろな方で表します。立派な生き方を教えた人、人格者、偉大な宗教指導者、キリスト教を始めた人など。

イエス様を信じるとは、イエス様にならって正しい生き方をすることだと思っている人もいます。でもそれは道徳であって信仰ではありません。

ペトロはこう答えました。「あなたはメシア、生ける神の子です」。ペトロはイエス様を単なる偉い先生ではなく「真の神の御子、救い主です」と告白したのです。

3. 「あなたは幸いだ」

イエス様はそんなペトロに「あなたは幸いだ」といわれました。ペトロが正しい答えをしたので、ほめたわけではありません。「そのように告白できるようにして下さったのは、神様の力によるのです。ペトロ、あなたはその祝福を受けたのだ」といっているのです。

ペトロは、イエス様が病気の人を癒されたり、

5000人の人々を満腹させたり、嵐を静めるなどの、多くの力あるみわざを見てきました。そのようなみわざをとおして、神様はペトロに正しい信仰告白の備えをしてくださいました。

イエス様を正しく告白することは、人の力ではできないことです。父なる神様が与えてくださるものです。ですから「イエス様こそ生ける神の御子、救い主です」と告白できる人は、本当に幸いな人なのです。

イエス様を神の御子と信じる人は、困難や誘惑に押しつぶされてしまわないように、神様の恵みの力でおおっていただけます。神様は信じる私たちを神の御子イエス様によって、終わりまでその信仰を守り支えてくださいます。

4. この岩の上に教会を建てる

イエス様は「この岩（信仰告白）の上にわたしの教会を建てる」といわれました。

教会はイエス様を信じる人たちの集まりです。神様は教会につながる私たちにも、ペトロが告白したのと同じ信仰を与え、神の恵みで満たしてくださいます。どんな悪しき力も教会に打ち勝つことはできません。

5. 考えてみよう

①もし、イエス様が神の御子でなかったら……

「生ける神の子です」といったペトロの信仰告白を受け入れたイエス様は、大嘘つきになってしまいます。

②イエス様はあなたにとってどんな方？

（その人の生き方があらわされます）

- ・趣味としてのイエス様（気の向いたときにだけお祈りしたり、教会に行く）
- ・スーパーマンとしてのイエス様（困ったときだけ思い出して、助けを求める）
- ・まことの神の御子、私の救い主（どんなときでもイエス様を信頼し、従っていく）

〈今日のカテキズム〉

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問22、23が挙げられています。問23の方を記します。

問23 主イエス・キリストとお呼びするのはなぜですか。

答 イエスとはお名前で「罪からの救い主」、キリストはお働きを表し、「神さまから油を注がれた方」という意味です。このお方が私たちの主として与えられました。ですから、私たちは、喜びと感謝をもって主イエス・キリストとお呼びするのです。

※「キリスト」の意味について、カルヴァンが書いたジュネーヴ教会信仰問答は次のように答えています。

ジュネーヴ教会信仰問答

問34 次に「キリスト」という名は何を意味しますか。

答 この言葉は彼の職務をさらに良く表すものです。すなわち、彼は御父から、王として、祭司として、預言者として、「油注がれたもうた」ことを意味します。

問35 どういうふうにして、あなたはそのことを知っているのですか。

答 聖書ではこの三つの役目に油注ぎを適用するからです。そして、私たちのいうこの三職はしばしばキリストに帰せられています。

問36 しかし、どのような種類の油を彼は注がれたもうたのでしょうか。

答 それは目に見える油ではありません。昔の王たち、祭司たち、預言者たちを聖別するに当たって用いられたのは、そのような目

に見える油でしたが、それよりも優れた油、すなわち聖霊の恵みであります。それは外的な油注ぎの指し示す真理そのものです。

※イエス・キリストを告白する文言として、次のどちらかのカテキズムを暗唱出来るようになりましょう。ウ小教理の「神の選民の」は「あなたの」と言い換えて生徒たちに問いかけてみると、実感が湧いてくるかもしれません。

ウェストミンスター小教理問答

問21 神の選民のあがないの主とは、どなたですか。

答 神の選民の唯一のあがないの主は、主イエス・キリストです。このかたは、神の永遠の御子でありつつ、人となられました。それで、当時も今もいつまでも、二つの区別された性質、一つの人格をもつ、神また人であり続けられます。

ハイデルベルク信仰問答

問18 それでは、まことの神であると同時にまことの正しい人間でもある、その仲保者とはいったいどなたですか。

答 わたしたちの主イエス・キリストです。この方は、完全な贖いと義のために、わたしたちに与えられているお方なのです。

〈今週の聖書日課〉

日曜日	マタイ 16：16
月曜日	イザヤ 61：1
火曜日	詩編 45：8
水曜日	テモテ 2：5～6
木曜日	ヘブライ 7：24～25
金曜日	ルカ 2：11
土曜日	マタイ 1：21～23

イエス様は、山の上で、顔は太陽のように輝き、服は光りのように白くなりました。イエス様がモーセとエリヤと話し合っていることは、ペトロにも分かりました。そのとき、ペトロは、仮小屋を三つ建てましようと言います。ペトロらしい発言と言えましよう。その気持ちは分かります。このような栄光に輝くイエス様の姿を見続けていたかったのです。いつでも、イエス様がモーセとエリヤと話せる場所を用意しておきたいのです。また、ペトロは、イエス様の栄光の姿を留めおくために、自分でも何かできることがあると思っています。

そのようにペトロが語っているとき、光輝く雲が覆い、天から声がありました。そのとき、三人の弟子たちは、これを聞いてひれ伏し、非常に恐れました(6節)。彼らは、その光を見ること、また、天からの声を聞くことに耐えられず、恐れ之余りに顔を地に伏せたのです。この出来事は、好奇心をそそるものであるより、聖なる光景への畏敬、畏怖、恐れを呼び起こすものです。ペトロが気軽に口を挟めるような状況とは、全く違うのです。人間の目が見続け、人間の耳が聞き続けるには、余りにも眩しすぎる光栄であり、御声です。ですから、この物語を語ろうとする者は、まず、畏敬の念をもってテキストを向き合うことから始めねばなりません。

7節によれば、彼らは、イエス様から、手で触れていただき、立ち上がることができました。弟子たちが顔を上げたとき、モーセとエリヤは見えず、イエス様も以前の姿であったかもしれせん。しかし、ここに真の礼拝があります。栄光の主の輝きを知り、栄光の主を見続けることができない自分を知るとき、人は、ひれ伏すしかないので。同時に、そのとき、イエス様が手を差し伸べ、私たちの顔を上げ、イエス様を見る者としてくださいます。私たちは、イエス様の憐れみによって、見ることができないことを見、聞くことができない声を聞く恵みへと、招かれています。

今日のテキストは、文脈を正しく理解し、話しの流れを掴むことが、特に大切です。弟子たちは、イエス様が十字架に進まれる直前に、栄光の主の御姿を拝することを許されました。ここに現れたモーセとエリヤは、旧約を代表する二人であり、旧約聖書の律法と預言を象徴的に表わしています。ルカによる福音書の平行記事によれば、十字架が律法と預言を満たすものであることを、彼らは話し合ったのでしょう。モーセとエリヤによって代表される旧約聖書全体の教えが、十字架のなかで成就します。

イエス様ご自身の本当の姿は、今日の箇所が示していますように光り輝く栄光の姿です。そのお方が、光りと輝きを消し、十字架の暗さのなかに入ってきてくださいました。これは、私たちの罪のためです。十字架の暗さは、私たちの罪の暗さです。イエス様は、十字架の暗闇のなかにあっても、栄光の主であり、光り輝くお方であります。弟子たちは、「これは私の愛する子、私の心に適う者、これに聞け」という声を聞きました。十字架に進み行くなかで、弟子たちは、イエス様が神様の愛する御子であることを覚えることができるように、この出来事は起こったのです。

また、終末の完成前に現れるエリヤとは、洗礼者ヨハネのことです。律法学者は、新しいエリヤの到来を預言できますが、洗礼者ヨハネがその預言の成就者であることを知りません。そして、ヨハネは、無惨な殺され方をします。エリヤの後に現れた真の救い主イエス様も、彼らによって、殺されます。光が消されてしまいそうです。しかし、イエス様は、三日後に復活されます。そして、復活後に弟子たちは、栄光の主を語り始めます。闇は光に勝つことはありません。暗闇が、この世と私たちの心を被うかもしれせん。しかし、それは、罪の暗さであっても、イエス様の暗さではありません。何が起きても、どのような暗闇のなかでも、栄光の主を仰ぎましよう。(岩崎 謙)

テキスト マタイによる福音書17章1～13節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問22、24

〔単元のねらい〕

先週の箇所と一つに結ばれている御言葉である。主イエスは、ペトロの信仰告白を受けて、御自身の救い主キリストとしての働きが十字架にあること、苦しみを受けて殺されることにあることを明らかにされた。マタイ16章21節～28節をお読みいただきたい。ここで主イエスが明らかにされた救い主キリストの姿は、このときの弟子たちの受け入れられるものではなかった。ペトロに与えられた信仰告白は、まことに天の御父が現したものであった。こうして、とまどいと不安、恐れの中に置かれた弟子たちに、恵みの出来事が与えられる。それが今朝の御言葉である。主イエスは、まことの人であられるが、同時に真実に神の御子であられ、栄光の内に光り輝くお方である。それは、とりわけ、苦難を経て栄光を受けられるのである。その栄光をかいま見る機会を与えられて、弟子たちの信仰は守られ、強められた。やがて復活の主イエスと出会い、聖霊を注がれて、弟子たちは、この出来事の意味を悟ることになったであろう。主イエスのお姿が変わった驚きを子どもたちと共有し、「これに聞け」と約束されている、この神の約束に信頼することに立つことへと子どもたちを招きたい。

「白く光り輝く主イエスさま」

今朝も、聖書の御言葉を一緒に聴くことができ嬉しです。先ほど聴いた御言葉、びっくりしましたね。何が起きたのでしたか。

主イエスは三人の弟子たちを連れて、山に登られました。ペトロ、ヤコブ、ヨハネの三人を連れて、高い山に登られた。おそらくはお祈りをするためです。ときどき、主イエスは、人々から離れて、静かなところに行って、お祈りをされます。三人のお弟子さんだけを一緒に連れて、お祈りをするために山に登られました。そのお祈りをしているときに、驚きました。お弟子さんたちの見えている前で、主イエスの姿が白く光り輝くように変わったのです。顔は太陽のように輝いて、服は光のように白くなりました。主イエスさまが、白く明るく光り輝いておられたということです。これはいったい何事でしょうか。見てみると、さらに驚いたことに、モーセとエリヤが現れて、主イエスさまと話をしておられます。これはいったいどういうことなのでしょう。

このことがわかるためには、少し戻って、お話ししなければなりません。先週のことを思い出し

ましょう。先週は、主イエスとお弟子さんたちがフィリポ・カイサリアに行ったお話でした。ペトロさんが「あなたこそ生ける神の子、まことの救い主キリストです」と信仰を告白して、主イエスはとても喜ばれました。「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる」とおっしゃって、神の子救い主キリストを信じる信仰の上にこそ教会を建てる約束されました。

先週のお話はそこまででしたが、そのペトロの信仰告白のあと、続いて、主イエスは弟子たちにいろいろな話をなさいました。主イエスがこれから何をなさるのか、救い主キリストとしてどのようなお働きをされるのか、ということについてです。主イエスが「神の子救い主キリスト」であるならば、救い主キリストは何をしなければならないのか、何のために遣わされているのか、主イエスはお弟子さんたちにお話しされました。

そのお話はお弟子さんたちにとって、驚くべきものでした。主イエスは、御自身が十字架につけられて殺されると、そうおっしゃったからです。苦しみを受けて殺されるとおっしゃったのです。

今、わたしたちは、あまり驚かないかもしれませんが、でもよく考えましょう。わたしたちは、教会に来て、最初から、十字架につけられたお方として主イエスさまを知っています。でも、このときのお弟子さんたちは、まだ主イエスの十字架を知りません。主イエスは、まだ十字架につけられておらず、弟子たちと生活を共にして、福音を宣べ伝えていました。また、お弟子さんたちにとって、救い主キリストとは、イスラエルの国を再建して、ダビデの王国を打ち立てる、地上の王様のことでありました。イスラエルの国は、今はローマ帝国に支配されている。そのローマの支配を打ち破って、ダビデの王国を回復してくださる。そのような英雄であったのです。主イエスは、やがて立ち上がって、そのような英雄として活躍される。弟子たちはみな、そのことを期待していました。ですから、ペトロは、十字架につけられるとおっしゃる主イエスをさえずって、そんなことを言うてはいけませんと、主イエスをさどそうとしたほどなのです。けれども、逆に主イエスは、そんなペトロをおしかりになりました。「あなたはわたしの邪魔をするのか」とおっしゃって、厳しくペトロをおしかりになったのです。

そのように、御自身が十字架につけられて殺される。そうしてこそ救い主としての働きを成し遂げることができる。あなたたちも自分を低くして、自分の十字架を背負いなさいと、主イエスは弟子たちにお教えになりました。そのようにお教えになりながら、ガリラヤへと帰って来たのです。お弟子さんたちは、主イエスのお話はどのようなことであるのか、とまどいながら帰って来ることになりました。主イエスさまのおっしゃることは本当であろうか。主イエスさまのお言葉を信じてよいのであろうかと、迷ったり、疑ったりする心が湧き起こっていたかもしれません。

そのような迷いや疑いを解決する近道は何か。主イエスはそのことをご存じでした。それはお祈りすることです。主イエスと一緒に祈りするこ

と。だから、主イエスは、お弟子さんを連れて山に登り、一緒にお祈りをしました。そして、天の御父は、そのお祈りに答えてくださいました。すばらしい出来事を与えて、お弟子さんたちに答えてくださいました。

お祈りしていると、主イエスさまの姿が光り輝いてきました。白い光に包まれて、これは、神の御子の栄光の光です。主イエスさまはまことの神さまであり、神の御子であられる。そのことは確かなことであると、不思議な出来事を通して証されたのです。モーセさんとエリヤさんが現れて主イエスと話をします。旧約の預言者であるモーセとエリヤさんです。主イエスさまがこれからなさろうとしておられることは、旧約聖書において預言され、約束されていることなのです。旧約聖書は、主イエスの十字架を指し示しています。そして、光り輝く雲に覆われて、天からの声が聞こえます。「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」。天の御父が、この主イエスこそまことの神の御子、神の御心に適うお方であると、そうはっきりとおっしゃいました。このお方に聞いて、信頼すればよいのです。このお方を疑う必要はない。そういうことです。

主イエスさまが十字架につけられ、苦しまれて殺される。これはたいへんつらいこと、悲しいこと、厳しいことです。しかし、その道を通してこそ、主イエスは、栄光を受けられます。そこに神の御心があるのです。

お弟子さんたちは、このような不思議な出来事を心に刻んで、やがて主イエスがよみがえられたときに、この救い主キリストの御業を知り、理解することができるようにと整えられました。主イエスさまは、十字架を堪え忍んで、その苦しみを経て栄光をお受けになるお方です。主イエスの十字架のお姿を見つめてこそ、まことの神としての姿、その栄光を見ることが出来ます。聖書は、この主イエスを見つめなさいと、わたしたちに語りかけているのです。 (望月 信)

〔今週の暗唱聖句〕 マタイによる福音書17章5節

これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け。

〈ねらい〉

主イエスは私たちに必要な助けを与えてくださる。だからどんな時でも主の言葉を聞き、ただ主に信頼して歩んでいこう。

〈展開例〉

ある日、イエス様はペトロとヤコブ、ヨハネの三人のお弟子さんたちだけを連れて、お祈りをするために高い山に登られました。お祈りしていると驚いたことに、お弟子さんたちのいるところでイエス様のお姿が変わってきました。顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなりました。そしてもっと驚いてしまうのがそこにモーセとエリヤが現れて、イエス様とお話をはじめました。

ペトロは「主よ。私たちがここにいてのは素晴らしいことです。お望みでしたら私がここに仮小屋を三つ建てましょう。ひとつはあなたのために、ひとつはモーセのために、もうひとつはエリヤのために」と言いました。でもあんまり驚いてしまって、本当は自分でも何をいっているのかわかっていませんでした。

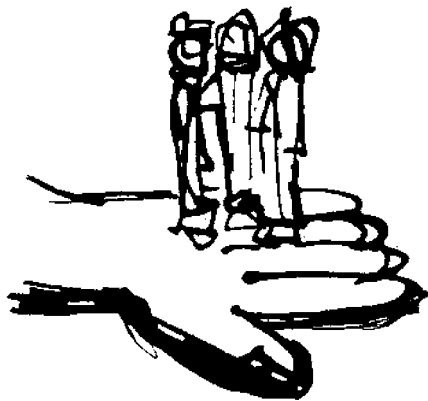
ペトロが話しているうちに今度は光り輝く雲が出てきて、イエスさまとモーセとエリヤを包み込んでしまいました。すると光り輝く雲の中から「こ

れは私の愛する子、私の心に適う者。これに聞け」という声がしました。三人のお弟子さんたちはその声を聞くとなんだかとても怖くなって、顔をあげて見ていられなくなりました。気がつくといエス様が三人の手をとって、「起きなさい、恐れることはありません」と言われました。顔を上げるともうイエス様はいつものお姿ではかには誰もいませんでした。

雲の中から「これは私の愛する子」と言われたのはどなたでしょうか。父なる神様ですね。父なる神様がご自分からイエス様は神の子です、とはっきりおっしゃっているのです。素晴らしいですね。イエス様は怖がって下を向いたお弟子さんたちに「恐れることはありません」といって手をとってくださいました。私たちがこまっているときも、イエス様は必ず手をとってくださいます。だからどんな時でも神様の声を聞き、神様にしっかりつながって歩いていきましょうね。

〈おいのり〉

神様、弱い私たちが倒れてしまってもいつも助けてくださることをありがとうございます。どうか私たちがいつでもどこでもどんな時でも神様の声を聞いて従っていけるように助けてください。



声が雲の中から聞こえた

〈ねらい〉

イエス様は信頼していた三人（ペトロ、ヤコブ、その兄弟ヨハネ）だけを連れて、祈りに没頭するために高い山に登られた。これから苦しみを受ける使命を確認するためであったろう。すると、イエスの姿が目の前で見ることが困難なほどで光り輝いた。目をあけると旧約を代表する二人と共に話し、イエスの姿は権威ある者の姿として描写され、その聖書全体、歴史全体にもこの光景の意味の深さを読者に伝えようとしている。子供たちにはその驚くべき光景が前週のペトロの信仰告白と、この後起こる事態（十字架）との応答であるように、できるだけ然的に伝えるようにしたい。

〈展開例〉

イエス様はお祈りをするためにペトロさん、ヤコブさん、その兄弟のヨハネさん三人を連れて、高い山に登られました。誰にもじゃまをされずにじっくりとお祈りするためです。すると、イエス様の姿が顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなってしまいました。みんなは太陽を見たことがありますか？ まぶしすぎて見るできませんね。イエス様の顔が太陽のようになってしまっていることができなくなってしまったのです。まぶしい中よく見てみると旧約聖書出てくるモーセさんとエリヤさんがなんとイエス様とお話をしていたのです。すると天から「これは私の愛する子、私の心に適う者。これに聞きなさい」と声が聞こえてきました。そこにいた弟子たちはひれ伏しとても驚きました。

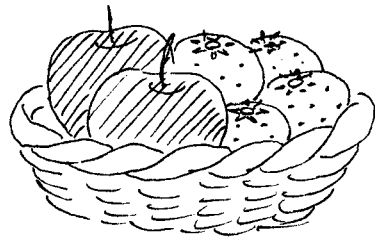
神様は見ることはできませんが、実はいつも光り輝いています。その神様を私たちは本当は見ることができないのに、イエス様ご自身が地上に降りてくださって見えるようにしてくださいました。感謝しましょう。

〈ワーク〉

1. イエス様のお姿が変わり、顔が太陽のように輝き、服は光のように白くなりました。イエスさまはいったいどのようなお方なのでしょう。
→まことの神であるお方。神の尊い独り子。だから、「これはわたしの愛する子」という声がしたのですね。
2. 「これに聞け」という声が雲の中からしました。これとはどなたのことですか。
→主イエス・キリスト
3. イエス様に聞くととは、わたしたちにとって、どういうことですか。
→自由に話し合おう。聖書の御言葉に信頼して、学ぶこと。礼拝に出席して、説教を聞くこと。イエス様に依り頼んで、ただこのお方に信頼すること。

〈おいのり〉

神様、まことに信頼して、聞き従うべきお方、主イエス様を与えてくださり、ありがとうございます。十字架につけられ、私たちのために死んでくださるお方にこそ依り頼むことができますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

イエス様が栄光に満ちた方であることを学ぶ。

〈展開例〉

1. 輝くお姿

イエス様はペトロ、ヤコブ、ヨハネをつれて高い山に登られました。お祈りをしていると突然、イエス様のお姿が変わりました。顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなりました。スポットライトが当てられて、白く輝いたように見えたのではありません。イエス様の内側から神様の光が輝き出したのです。

それはイエス様が人間の姿をとる前、神様のところにいらっしゃったときの、聖く輝く栄光のお姿でした。

2. モーセとエリヤが

いつの間にかモーセとエリヤが立っていて、イエス様と語り合っていました。

モーセとエリヤは、もう何百年も前に天国に行った預言者です。彼らは、イエス様がこれから十字架にかけて死なれることについて話をしていました。

3. 神様の声

すると雲の中から神様の声が聞こえてきました。「これはわたしの愛する子、これに聞け」弟子たちは恐ろしくなり、ひれ伏しました。

4. この出来事の意味

- ① イエス様は、栄光に輝く神様であること
このお姿こそ神の御子の本当のお姿です。
イエス様は、私たちが想像できないくらいすばらしく、栄光に満ちたお方です。
- ② イエス様の十字架が神様の御心であること
モーセとエリヤは旧約聖書を代表する預言者です。この出来事から、イエス様が十字架にかかることは、旧約聖書の時代からの神様の救いの御計画だということがわかります。
ペトロはこの出来事を目撃したとき、理解で

きませんでした。イエス様が復活されたあと、このときのことを思い出して、イエス様の救いは確かであると力強く伝えています。
(ペトロの手紙二1章16～19節)

③ 私たちも変えられる

イエス様がこの世に再び来られるとき、信じる私たちも栄光の体に造り変えられます(フィリピ3章21節)。また、主と同じ姿に日々造りかえてくださるとの、すばらしい約束が与えられています(コリント二3章18節)。

5. ワークシート

イエス様の栄光のお姿を記している箇所です。下線にあてはまる言葉を入れましょう。下の文字の中に答えが隠されています。探してみましょう。(縦、横、斜めで言葉をさがす。同じ字を二回使ってもよい)

- ① 「そのとき、人の子が大いなる力と _____ をおびて _____ に乗って来るのを、人々は見る。」(ルカ21章27節)〈再臨のイエス様〉
- ② 「しよくだいの中央には、人の子のような方がおり、足まで届く _____ を着て、胸には _____ をしめておられた。その頭、そのかみの毛は、白い _____ に似て、 _____ のように白く、目はまるでもえさかる _____、足はろでせいれんされた、しんちゅうのように _____、声は _____ のとどろきのものであった。」(ヨハネの黙示録1章13～15節)〈天でのイエス様〉

あ ゆ ら ば ほ く
る き じ の せ も
か ん お こ ろ も
が の え い こ う
や お お み ず し
き び よ う も う

【答え】えいこう くも ころも きんのおび
ようもう ゆき ほのお かがやき
おおみず

〈今日のカテキズム〉

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問

22、24が挙げられています。問24を記します。

問24 主イエス・キリストは、私たちの救いのために、どのようなお働きをしてくださったのですか。

答 主イエス・キリストは、私たち罪人の身代わりとして十字架に死に、三日目に永遠のいのちによみがえられました。ですから、私たちは、罪赦されて 神と共に永遠に生きる祝福に生かされています。

※あがない主としてイエスさまは、預言者・祭司・王の職務を「へり下り」と「高举」とのどちらの状態においても果たされる、とカテキズムは教えます。今日のお話にてでくるようなイエスさまの高い状態のお姿を見る時、同時に、この後十字架に向かわれるということ、更に低い状態のお姿をも取られたということを覚える必要があります。私たち罪人は高い者への賛美は惜しまないのに、低い状態にある者を忘れ、ないがしろにしてしまう傾向があるからです。実際、今日のお話で光り輝くイエスさまの姿を見たベトロは、十字架の時、イエスさまを否定してしまいました。

ウェストミンスター小教理問答

問27 キリストのへり下りは、どの点にありましたか。

答 キリストのへり下りは、次の点にありました。キリストが生まれられたこと、それも低い状態であられたこと、律法のもとに置かれたこと、この世の悲惨と神の怒りと十字架ののろいの死とを忍ばれたこと、葬られたこと、しばらく死の力のもとに留められたことです。

問28 キリストの高举は、どの点にありますか。

答 キリストの高举は、次の点にあります。キ

リストが三日目に死人の中からよみがえられたこと、天に昇られたこと、父なる神の右に座しておられること、終わりの日に世をさばくためにこられることです。

ハイデルベルク信仰問答

問43 十字架上でのキリストの犠牲と死から、わたしたちはさらにどのような益を受けますか。

答 この方の御力によって、わたしたちの古い自分が この方と共に十字架につけられ、死んで、葬られる、ということです。それによって、肉の邪悪な欲望が もはやわたしたちを支配することなく、かえてわたしたちは 自分自身を感謝のいけにえとして、この方へ献げるようになるのです。

問45 キリストの「よみがえり」は、わたしたちにどのような益をもたらしますか。

答 第一に、この方がそのよみがえりによって死に打ち勝たれ、そうして、御自身の死によって わたしたちのために獲得された義に わたしたちをあずからせてくださる、ということ。第二に、その御力によってわたしたちも今や新しい命に生き返らされている、ということ。第三に、わたしたちにとって、キリストのよみがえりは わたしたちの祝福に満ちたよみがえりの確かな保証である、ということです。

〈今週の聖書日課〉

日曜日	マタイ7：1～13
月曜日	ローマ4：25
火曜日	コリントー15：16～20
水曜日	ペトロー1：3～5
木曜日	エフェソ2：4～6
金曜日	コロサイ3：1～4
土曜日	フィリピ3：20～21

テキスト ルカによる福音書10章25～37節

ルカによる福音書では、この「善いサマリア人」の喩えに続いて、「マルタとマリア」の物語が始まります。この流れを、「隣人を愛すること」と「神様を愛すること」の対比と見ることも可能です(27節)。つまり、私たちの助けを必要としている隣人を助けることで示す愛と、私たちが足もとに座って御言葉を聞くことをもって示す愛との対比です。静と動の両者の愛が、永遠の命に至る道筋となっています。

「善いサマリア人」は喩えという文学ジャンルに属しています。物語の細部に意味を持たせて理解するより、全体から一つのメッセージを聞き取るべきです。全体が語っていることは、隣人愛とは何かです。また、喩えを解く鍵の言葉は、「それを実行しなさい」(28節)と「あなたも同じようにしなさい」(37節)の繰り返しにあります。隣人愛とは何かを知っているという認識のレベルで留まっていることはできません。隣人愛の実践が中心テーマです。行いが問われています。ここに、イエス様の御言葉を聴く厳しさがありません。自分の実践を顧みることなしに、イエス様に近づくことはできません。

イエス様が、この喩え話を語ることによって言おうとされたことは、律法学者の自己正当化を打ち砕くことです。彼は、永遠の命を受け継ぐためには神様への愛と隣人愛とが必要なことを知っています(27節)。イエス様が、知っているだけでは駄目で、「行いなさい」(28節)と最初の実践命令を語られたとき、彼は「隣人とは誰ですか」という問いによって自分を正当化しようとしていました(29節)。彼は、隣人愛の実践でも自信があったのでしょうか。もし、イエス様が、「隣人とは同胞のユダヤ人です」とお答えになられたなら、「私は、同胞の民族の悲惨を憂い、これほどの犠牲を払って愛しています」と語り始めていたかもしれません。しかし、イエス様は、彼に「善きサマリア人」の喩えを語ることによって、隣人愛の欠如を認めざるを得ない地点まで彼を追い込みました。

イエス様の鋭さは、ユダヤ人律法学者に、隣人愛の模範者としてサマリア人を提示したことにあります。それも、ユダヤ人の祭司もレビ人も行うことができなかったことを、サマリア人が行っています。そして、彼が助けたのは、エルサレムからエリコの町に至る途上であることを覚えるなら、おそらくユダヤ人です。ユダヤ人の宗教的指導者が同胞の苦境を知りつつ通り過ぎるなかで、サマリア人が自己犠牲を払ってユダヤ人を助けています。イエス様は、これと同じ実践をユダヤ人律法学者に求めました。彼は、サマリア人の苦境を見たならば、自己犠牲を払ってサマリア人を助けるという隣人愛の実践へと進まねばなりません。これをせずして、自分は隣人愛の戒めを守っているという自己正当化に留まることはできません。

この喩えを理解するには、当時のユダヤ人とサマリア人との対立を念頭に置く必要があります。ユダヤ人はサマリア人を蔑視しています。そのサマリア人がユダヤ人の宗教的指導者に見捨てられたユダヤ人を助けています。隣人愛とは、民族的垣根を越えるものです。「その人を見て憐れに思い」(33節)という心の震動が、民族の違いやあらゆる違いを超えさせる力となって、助けを必要としている人の傍らに、自らを立たせます。イエス様の問いかけは、この心を持っているかです。この心がないなら、ユダヤ人であることも、祭司やレビであることも、自らの誇りとはなりません。

当時の社会的文脈を覚えるとき、この喩えは革命的とも言える新しさをもっています。そのことに驚くなかで、私たちの関心は、喩えを超えて、喩えを語られたイエス様ご自身に向かいます。これだけの実践を要求できるイエス様とは誰なのか。また、イエス様ご自身の隣人愛とは何か、つまり十字架の愛に、思いが向かいます。その時、私たちは深い悔い改めをもって、イエス様の足もとで御言葉を聴く弟子になるように導かれます。

(岩崎 謙)

テキスト ルカによる福音書10章25～37節

参照カテキズム 子どもカテキズム 問4

〔単元のねらい〕

善きサマリヤ人のたとえから、私たちのために命を捨ててくださった主イエスの愛を見つめたい。このテキストから隣人愛を学ぶことにとどまらず、むしろそのようにして律法主義的倫理教育に陥ってしまわぬように注意して、徹底的にキリストの福音を語るように心がけたい。そのようなキリストへの集中だけが、その危険を回避するだろう。そして子どもたちと共に、キリストの愛に促され、それぞれの隣人のもとに派遣されたい。

「あなたの隣人は誰ですか？」

もうすぐ学年が終わりますね。この一年で、皆さんもたくさん友だちが出来たでしょうか。子どものころ「本当の友だちは自分が困っている時にも離れずにいてくれて手を差し伸べてくれる人だ。そういう友だちができるといいね、そしてまず自分がそういう友だちになってあげなさい」と、学校の先生から言われたことをよく覚えています。例えば、誰かが教室でいじめられて、力の強いいじめっ子の方にみんながついたとしても、いじめられている子のために最後までそばにいるのが本当の友だちだと言えるかもしれません。そんな友だちが一人でもいれば、その人は本当に幸せですね。それだけで生きていく力がわいてきます。勇気がわいてきます。私たちにはそういう友だちがいるでしょうか。今日はそんなことを考えながら神様のお言葉に聞きたいと思います。

イエス様は、聖書の学者さんからこういう質問を受けました。「先生、何をしたら永遠の命を受け継ぐことができるのでしょうか？」イエス様を試して、何かおかしなことを言ったらおとしめてやろうとたくらんでいたのです。でもイエス様は平気で答えられました「それはあなたも知っているでしょう、聖書の先生なのだから。聖書に何と書いてあるか、あなたの考えを言ってみてください。」ムムっとしたかもしれませんが、学者さんはこう答えました。「神様を愛することと、私の

隣人を自分のように愛することです。」それを聞いてイエス様は言われました。「そうです、それが正しい答えです。分かっているではないですか。ではその通りに行えばよい。大事なのはそれを実行することです。そうすれば永遠の命を得られますよ。」これを聞いて学者さんは腹を立てました。あなたは頭ではそれを知っていても、実行できていないと責められたように思ったからです。でも彼は、自分は家族や友だちのことをちゃんと愛していると思っていました。そしてそうやって、愛して当たり前の人を愛することで、十分に「隣人を愛している」ことになると思っていたのです。だからイエス様に「では隣人とは誰のことを言うのですか？」と問い返します。

イエス様は答えられました。「ある人が旅行をしていました。エルサレムから自分の村のエリコに帰っていく道の途中で追いはぎに襲われて、着ている服をはぎ取られて、血まみれになるまで殴られて、死んだようになってしまいました。そこへまずこの人と同じユダヤ人で、神殿で働く祭司が通りかかりました。でもその人を見ると逃げるようにして道の向こう側を通っていきました。次にレビ人が来ました。この人もユダヤ人です、仲間のはずです。でも同じようにさっさと行ってしまいました。こうして二人の仲間に見捨てられたのです。でもそこに一人のサマリヤ人が通りかかりました。彼は血だらけのその人を見ると憐れに

思い、近寄って怪我の手当てをしてくれて、自分のろばにのせて、宿屋に連れて行って介抱してくれました。でもお世話をしてもらいながら、その人は不思議でなりませんでした。どうしてこのサマリア人は、ユダヤ人のわたしを介抱してくれるのだろう。いつも私たちはサマリア人のことを馬鹿にして、差別してきたのに。あいつらと友だちになってはいけないと……。でもサマリア人のその人はそんなこと気にもしていないように、懸命に介抱してくれました。そして翌日になると宿屋の主人にお金を払って、『私はもう行かなければなりません、この人を介抱してあげてください。お金が足りなければ、後でまた払いますから』と言って出発していきました。』

このようにお話になった後で、イエス様は学者さんに問いました。「この三人の中で誰が追いはぎに襲われた人の隣人になったと思いますか？」学者さんは、決まりが悪そうに答えました。「……助けてあげたサマリア人です。」そこでイエス様は言われました「行きなさい、あなたも同じようにしなさい。」

このイエス様のお話をどう思いますか。最後のイエス様の質問に皆さんならどう答えますか。この質問はこういう風に言い換えることもできるでしょう、「この三人の中で誰が襲われた人の“本当の友だち”になったと思いますか？」その答えは、皆さんにもよく分かっていると思います。

こういう友だちになることができるでしょうか。先生は「できません」と言うしかありません。皆さんはどうでしょう？ 隣人になるとは、このサマリア人のように、その人が本当に苦しい時にそばに居続ける本当の友だちになるということです。自分のお金や時間を捨ててまで、このサマリア人は襲われた人の本当の友だちであろうとしました。私たちはなかなかそのように人を愛することが出来ません。そういう自分の愛の貧しさや、弱さ、勇気のなさを悲しく思います。それは私た

ちの“罪”なのです。罪人である私たちは、どうしても他人より自分を大切にしてしまう。

では私たちは永遠の命を受け継ぐことができないのでしょうか。私たちの罪を見続けるならば、そうなります。でもイエス様を見上げるならば、答えは変わります。私たちがすべきことは、自分の弱さにため息をつくことではなくて、私たちのために本当の友だちになってくださったイエス様のことを考えることです。サマリア人は襲われた人のために自分のお金や時間を捨てましたが、イエス様は私たちのために命を捨ててくださいました。それは私たちのことを愛してくださったからです。「友のために自分の命を捨てること。これ以上に大きな愛はない。(ヨハネ15:13)」とイエス様は言われましたが、私たちの友となるために、その言葉どおりに十字架で死んでくださり、神様の怒りを私たちの身代わりに受けてくださったのがイエス様です。

イエス様はそうにして、御自分を愛するよりもさらに大きな愛で、私たちを愛して愛しぬこうとしてくださいました。イエス様のことを友だちにしたい人たちのために、そのようにしてくださったのです。今日のお話のサマリア人が、自分を馬鹿にして嫌っていたユダヤ人を助けたように、イエス様は、自分に唾を吐きかけ、十字架にかけて汚い言葉を浴びせた人間たちのために、私たちのために、自分の命を捨てて、本当の友だちになってくださいました。

私たちはこのイエス様を信じることで、罪赦され、永遠の命を受け継ぐことができます。このイエス様が、どんな時も、私たちの本当の友だちでいてくれます。だから私たちは、たとえ世界中の人から見捨てられても、一人ではありません。私たちが本当に苦しい時こそ、イエス様はそばにいてくださいます。そのイエス様が命じられます。「行きなさい。そしてあなたも同じようにしなさい。」 私たちも誰かの隣人になることができますように、一緒に祈りましょう。(坂井孝宏)

[今週の暗唱聖句] ヨハネの手紙 一 3章16節

イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。

そのことによって、わたしたちは愛を知りました。

だから、わたしたちも兄弟のために命を捨てるべきです。

〈ねらい〉

主イエスは私たちのために御自分の命を捨てて十字架にかかって下さった。この主イエスがどんな時も私たちの本当の友達でいてくださる。私たちも隣人が本当にこまっているときに助けてあげられる人になろう。

〈展開例〉

みなさんは普段はあまり仲がよくないお友達がとても困っているときに助けてあげられますか？
イエス様はあるときこんなお話をされました。

あるひとりのユダヤ人がエルサレムエリコへ旅行をしている途中で強盗におそわれてしまいました。お金だけでなく洋服も盗られ、自分で動けないくらいひどいけがもしてしまいました。そこへ神殿で働く祭司が通りかかりました。でもひどい怪我をしている人をみて、何も助けないで行ってしまいました。次に通ったのは神様の御用をするレビ人でした。この人も祭司と同じように何も助けてあげようとしなくて行ってしまいました。最後にやって来たのはユダヤ人と仲の悪いサマリア人でした。このサマリア人は動けないでいるユダヤ人を見てかわいそうに思い、そばに来て傷の手当てをし、自分のロバに乗せてやどやに連れて行きました。次の日になるとやどやの主人にお金をわたして、けがをしたユダヤ人の手当てをしてくれるように頼みました。

祭司もレビ人も神様にお仕えする人で同じ

ユダヤ人なのに、傷ついて困っている人をほったらかしにしていってしまいました。サマリア人はそのころユダヤ人ととっても仲が悪かったのに、自分のお金や時間を捨ててまで傷ついたユダヤ人を助けてあげました。さあ、この三人の中で傷ついたユダヤ人の本当のお友達は誰でしょう？ 普段はとっても仲が悪くても、困ったときに助けてくれたサマリア人ですね。私たちはこのサマリア人のように、誰かの本当のお友達になれるでしょうか。自分がそんをしてまで、というのはむずかしいですね。

イエス様は十字架にかかった時に、自分を十字架にかけた人たち、私たちもその一人だけれど、その人たちのために「どうぞ彼らを許してあげてください」と父なる神様にお祈りしました。ご自分の命を捨てて、私たち一人一人のために十字架にかかってくださったのです。そのイエス様がどんな時でも友達でいてくださいます。私たちもこのイエス様を見上げるとき、心の中に愛が生まれて、周りの人が困っているときに、心から助けてあげられると思います

〈おいのり〉

神様、イエス様が私たちの身代わりとなって十字架にかかってくださりありがとうございます。私たちもイエス様が愛してくださったように、周りの人を愛することが出来るようにしてください。



「行って、あなたも同じようにしなさい。」

〈ねらい〉

となり人とは何か、譬えなどを用いて集中的に学びたい。発展的に、隣人とはとなりに座っている人、隣の家、隣の学校、隣の国……。神を喜び、愛と平和をもたらす源流がこの隣人愛であることを具体的に結び合わせて理解していきたい。

〈展開例〉

ある法律や聖書に詳しい人がイエスさまをちょっと困らせようと色々考えていました。そこで、質問をしました。「先生、何をしたら永遠の命をいただくことができますか？」

そこでイエスさまは言いました。

「律法、聖書にはなんて書いてありますか？
あなたはそれをどうやって理解していますか？」

『心を尽くし精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くしてあなたの神である主を愛しなさい。また、隣人を自分のように愛しなさい。』と聖書に書いてあります。」

イエスさまは、

「正しい答えですね。では、あなたが隣人になりなさい。そうすれば永遠の命がいただけます。」

聖書に詳しい先生は、自分はそんなことづくに実行していると思って、イエスさまに更に言い寄りました。神様の言葉をちゃんと心で聞いてそれを実行できる人、その人が永遠の命をいただくことができるんですが、この人は実行していませんでした。

この後に出てくるイエスさまのお話で、怖い人に襲われてしまった人が道ばたに倒れている人の話を聞きました。倒れている人を無視する人、知らんぷりして通り過ぎてしまう人は、永遠の命をいただくことができません。それはその人の隣人になっていないからです。困った人のことを助けてあげられる人、自分のように隣の人を愛することができる人、そのような隣人になりなさい、とされました。頭で「分かった！」とだけ思わないで、それをちゃんと行いなさい、とされました。

〈ワーク〉

1. 聖書に詳しい人はどうしてイエスさまを困らせようとしたのでしょうか。
→自分が誰よりも聖書に詳しく、自信があったから。また、自慢することで自尊心を高めようとする、誰にでもある罪として理解したい。
しかし神様の前では全く太刀打ちできない。
2. 旧約聖書にある「心を尽くし精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くしてあなたの神である主を愛しなさい」（申命記6：5）を開いてみよう。
3. 「隣人を自分のように愛しなさい。」も旧約聖書です。レビ記19：18を開いてみよう。
4. 今、となりにいる人が病気で困っていたとします。あなたはどうやって助けてあげますか？
話し合ってみよう。
→自分のように気遣い、神様に祈る。そのことが隣人愛に繋がることを子供と共に理解していきたい。

〈おいのり〉

神様、私たちはつい自分のことばかり考えてしまいます。神様、どうか自分のように隣人も助けることができますように。そして永遠の命を受け継ぐ者となりますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

隣人を愛するとは？

〈展開例〉

1. 隣人とは誰ですか

イエス様は「何をしたら永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」と尋ねた学者に、「隣人を自分のように愛しなさい」といわれました。（ここでいう学者とは律法学者のことで神様の掟を詳しく研究し、指導する人です）

するとこの学者は、心の中でこう思いました。「私は家族を愛している。仲間のユダヤ人も愛している」。それで、自分の正しさを示そうとしていいました。「では、わたしの隣人とはだれですか」。そこでイエス様は、ひとつの物語をもって答えられました。

2. 誰が隣人になったのか

祭司・レビ人

・襲われた旅人と同じ信仰を持つユダヤ人。神様に仕える人。

→見て見ぬふりをした。関わりたくなかった。

サマリア人

・ユダヤ人から軽蔑され嫌われていた人。

サマリア人とユダヤ人は敵対関係にありました。（注を参照）

→旅人を見て憐れに思い、介抱した。

イエス様の問い 「だれがこの人の隣人になったと思うか」

イエス様は「だれが隣人ですか」とはいいません。「だれが隣人になったと思うか」と問うています。

この人は私の隣人だから愛する。この人は私の隣人ではないから愛さなくてもよいのだ、などと勝手な区別をしてはならないのです。

誰が隣人なのかが問題ではなく、助けを必要としている人の隣人に、あなたがなりなさい、あなたも行って同じようにしなさいとイエス様はおっしゃっています。

3. そんなことができるの？

もし、あなたの嫌いな人が助けを必要としていたら、その人のことを心から心配したり、助けてあげることができますか。

私たちには難しいことです。でもイエス様は、私たちのそのような罪を、よくご存じです。

イエス様は私たちのこの罪を背負って十字架におかかりになり、罪を滅ぼし、よみがえられました。十字架の上でイエス様は、御自分をのしる人たちのために祈られました。このお方だけが本当の意味で人を愛することができるのです。

イエス様の愛をいただくときに私たちは初めて、関わらないようにと道の向こう側を通るのではなく、憐れみの心を持って近づくことができます。

あなたの助けの手を必要としている人が、あなたの周りにいるはずです。イエス様はそのためあなたを、その人の近くにおいてくださっているのです。

「わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。」

（ヨハネの手紙一 4章19節）

（注）サマリアは北王国イスラエルの首都。紀元前722年、アッシリア王国によって陥落。イスラエルの指導者たちはアッシリアに捕囚として連れて行かれ、また外国から多くの人々がサマリアに移住した。この結果、異教の宗教が持ち込まれ、偶像礼拝も強いられ、その後、離婚も行われるようになった。そのため純粋なユダヤ人たちはサマリア人と交際せず、蔑視するようになった。サマリア人たちは彼ら自身の礼拝する聖所、祭司職、宗教的儀式を作り出した。

4. 寸劇（台本は次ページ）

配役 旅人、強盗、祭司、レビ人、サマリア人、宿屋の主人、ナレーター（できれば小道具も用意する）台本を見ながら簡単な動作をつけて演じる。

〈善きサマリヤ人の劇〉

(※漢字が読めない場合はルビをふるとよい)

ナレーター ここはエルサレムからエリコに下る道です。なんか、こわそうな道です。旅人は帰りの道を急いでいました。

旅人 ああ、おそくなってしまったなあ。急いで家に帰ろう。(強盗登場)

強盗 ヤイヤイヤイ！ ちょっと待ちな！

旅人 わあ〜！ おまえたちはだれだ？

強盗 見てわからねえか！ おれは強盗だ。さあさあ、その荷物をだまっておきな。おいていきな。(紙の棒などでなぐる)

旅人 痛い、痛い！ やめてくれ！ たすけてー……、ううう……。 (旅人、倒れる)

ナレーター ああ、たいへんです。旅人は強盗におそわれてしまいました。誰か助けてあげないと死んでしまいます。だれか通らないでしょうか。あつ、向こうから祭司がやってきました。神様のお仕事をする人です。

祭司 おや！ 人が倒れている。どうしたんだろう。強盗におそわれたんだろうか。でも、これからお仕事だし、時間もないなあ。服もよごれたら困るからなあ。だれかまた助けてくれる人がいるだろう。悪いが、このまま通り過ぎよう。

ナレーター あれあれ。祭司は行ってしまいました。早く助けてあげないと、旅人は死んでしまうかもしれないのに……。あつ、まただれか来ます。レビびとのです。神様のために働いている人ですから、きっと助けてくれるでしょう。

レビ人 「自分自身を愛するように、他の人を愛しなさい」

そうだ、そうだ。そのとおり。

ここらへんはぶっそうな道だから早く行かなければ。こわい、こわい。

あれっ！ あんなところに人が倒れているじゃないか。かわいそうに。きっと強盗にやられたんだろう。助けてやらないとだめかな……。いや、もしかして近くにまだ強盗がいるかもしれない。早く行かないと、こっちまであぶないぞ。しらんぷり、しらんぷり。

旅人 う〜ん……。たすけて〜。

ナレーター あれあれ、レビびとは行ってしまい

ました。もうすぐ暗くなります。早く助けてあげないとたいへんです。あつ！ まただれか来ました。あれはサマリヤびとです。みんながきらっている、サマリヤびとです。サマリヤびとと旅人のユダヤ人はとてもなかが悪いんです。また通り過ぎていくのでしょうか？

サマリヤ人 もうすぐ暗くなるなあ。急がないと。あれっ！ あんなところに人が倒れている。(すぐかけ寄り)

ど、どうしたんですか？ あれあれ、こんなにひどいケガをして……。

ひどいなあ！ きっと強盗にやられたんだ。

しっかりするんですよ！（手当をする）

よっこらしょ！（抱きかかえる）さあ、早く、近くの町へ急ごう！

ナレーター サマリヤびとは、旅人を近くの宿屋に連れて行きました。

そして、きずの手当を宿屋の主人にたのみました。

サマリヤ人 ところでおかみさん、私は明日の朝早く出かけなければなりません。

すみませんがこの人が元気になるまで、めんどうみてもらえませんか。

宿屋の主人 いいですよ。安心していってらっしゃい。

サマリヤ人 それはよかった。(お金を取り出す) とりあえず、これだけ払っておきます。もし足りないようだったら、帰りにまた払いますからね。よろしくお願いします。

旅人 こんなにもよくしていただいて。なんておれいを言ったらよいか……。私たちユダヤ人は、あなたがたサマリヤびとにいじわるをしたり、ひどいことをしてきたのに……。それなのにあなたはユダヤ人の私を見捨てないで、親切にしてくださった。私の命をも助けてくださった。

サマリヤ人 神様が喜んでくださることをしただけです。早くよくなって下さいね。

旅人 はい、本当にありがとうございます。

ナレーター さて、この旅人のとなりびとになった人は、だれだったのでしょうか。

旅人のてきであったサマリヤびとでした。

「あなたも行って同じようにしなさい」とイエスは語っておられます。

〈今日のカテキズム〉

※参照カテキズムとして子どもカテキズム問4が挙げられています。

問4 私たちの神さまが私たちに望んでおられることは何ですか。

答 神さまを愛すること、家族やお友だちを愛することです。

※十戒の要約を次の問答で確認してみましょう。

ウェストミンスター小教理問答

問42 十戒の要約は何ですか。

答 十戒の要約は、心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なる私たちの神を愛すること、また自分を愛するように私たちの隣人を愛することです。

※これを言えた「律法の専門家」は「では、わたしの隣人とはだれですか」と質問しました。追いはぎに襲われた人は、三人にとって「家族やお友だち」ではなく、知らない人だったと思います。知らない人、さらには敵でさえも愛せよとイエスさまは教えられます。

※追いはぎに襲われた人は半殺しにされたとあります。放っておけば死んでしまう状態でした。見殺しも殺しかもしれません。自分で手をかけて殺さなければ「殺してはならない」という戒めを守っていることになるのかどうか、次のカテキズムを見ながら、一緒に考えてみましょう。

ハイデルベルク信仰問答

問107 しかし、わたしたちが自分の隣人を そのようにして殺さなければ、それで十分なのですか。

答 いいえ。
神はそこにおいて、ねたみ、憎しみ、怒りを断罪しておられるのですから、この方がわたしたちに求めておられるのは、わたしたちが自分の隣人を自分自身のように愛し、忍耐、平和、寛容、慈愛、親切を示し、

その人への危害をできうる限り防ぎ、わたしたちの敵に対してさえ善を行う、ということなのです。

ジュネーヴ教会信仰問答

問197 殺人を犯しさえしなければ差し支えないのですか。

答 決してそうではありません。すなわち、ここで語ったもうのは神でありますから、単に外的な行ないに律法を課するだけでなく、さらに心の感情に対しても、むしろ特に後者にたいして課せられるからであります。

問198 いわば「隠された殺人」とでも言うべき種類のものがあることを暗に言われ、それについて神がここで私たちの注意を喚起しておられるとあなたは見ているわけですね。

答 その通りであります。すなわち、憤りや憎しみ、そして何らかの害を与えようとする欲望は、神の前に殺人と看做されるのであります。

問199 憎しみを少しも抱きさえしなければ、私たちがこの戒めを十分果たしたことになるのですか。

答 決してそうではないのです。というのは、主なる神は憎しみを罪として審き、隣り人を傷つける如何なる悪も禁じたもう時、同時に、私たちにすべての人を心から愛し、誠実に彼らを守り・保護する努力を要求しておられるのを示したもうからです。

〈今週の聖書日課〉

日曜日	ヨハネー3：16
月曜日	マタイ7：12
火曜日	ルカ6：36
水曜日	ローマ12：10
木曜日	コロサイ3：12
金曜日	ペトロー3：8
土曜日	マタイ5：44～45

〔イエスの愛された二人の姉妹〕

マルタとマリアは姉妹でした。この二人の住んでいた「ある村」(38節)とは、エルサレムに近いベタニア村で、ヨハネによる福音書11章によると、二人にはラザロという兄弟がいたことが分かります。また、「イエスは、マルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。ラザロが病氣だと聞いてからも、なお二日間同じ所に滞在された」(ヨハネ11:5、6)とあり、イエスがとても心にかけていた家族であったことの一端を知ることができます。

マルタがイエスを自分の家に迎え入れたのは、この時一度ではなかったでしょう。この小さな家族を、イエスは愛され、何度となくお泊まりになったのでしょう。ですから、マルタが「いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていた」(40節)こと自体がとがめられることはないのが自然です。きっと、マリアもそのマルタのもてなしの準備を受け入れていたことでしょう。

しかしながら、マルタの方は、イエスのそばに近寄って「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください」(40節)と言ってしまいます。

このマルタの言葉を受けて、イエスは優しく諭しながら、答えます。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」(41、42節)と。

このように優しく諭すことのできる清い態度を持つ者こそ、「柔和で謙遜な者」(マタイ11:29)と言うのでしょう。たとえそれが真っ向から主の教えに反抗する者であっても、「神は彼らを悔い改めさせ、真理を認識させてくださる」(テモテ二2:25)ことを信じて、いつも優しい態度で接することが大切です。

〔ただ一つの必要なこと—ただみ言葉による生活〕

「主の足もとに座って、その話に聞き入っていた」(39節)マリアは、イエスに「良い方を選んだ」と言われました。また、それは、「取り上げてはならない」ものでした。ここは、幾分注意深い理解が必要です。イエスは、決してマルタとマリアの態度を比べておられるのではなく、また、マルタのもてなしを拒んだり、マリアの態度そのものを特別ほめているのでもないということです。むしろ、大切なことは、マリアが心を傾けて、イエスの話されることに集中していたにもかかわらず、マルタはそれを認めず、かえって、もてなしをすることのみに重きを置いたという事実にあります。

つまり、イエスさまのお話を直接聞くときも、人をもてなすときも、大切なことは、神さまによるこぼれるようにするということなのです。ですから、この時、イエスさまは、ただ、み言葉に聞くことだけがなくてならぬもの、とおっしゃったというよりも、み言葉に聞きつづける態度をいつもとり続けること、み言葉によって真に生きることの大切さを教えられたのです。

テモテへの手紙一では、「神の家でどのように生活すべきかを知ってもらいたい」(3章15節)と言われ、その生活とは、「わたしたちが常に信心と品位を保ち、平穏で落ちついた生活をするためです。これは、わたしたちの救い主である神の御前良い良いことであり、喜ばれることです。」(2章2節)と教えられています。この「常に信心と品位を保つ」ためになくてならないただ一つのこととは、実に、イエス・キリストの救いにあずかって、まことの神を真に喜び続けることにほかならないのです。人生の主な最高の目的が、神の栄光をあらわし、永遠に神を全く喜ぶことである(ウェストミンスター大教理問答問1)ことをいつも心にとめて、道はずれることなく、共に、み言葉の真実を求めて生きましょう。(宮武輝彦)

テキスト ルカによる福音書10章38～42節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問70

〔単元のねらい〕

現代社会にあっては、大人と同様子供たちも多忙な生活を過ごしている。しかし、「必要なことはただ一つだけである」との主イエスのみ言葉を心深く刻みつけたい。

私たちの命は神の口から出るひとつひとつの言葉によって生きる。私たちがおのおのの人生においてまず何をおいてもなすべきは、神の国と神の義とを求めることである。私たちの命と人生におけるこの根本的な事柄を、「マルタとマリア」の箇所を通して今一度確かめたい。

「必要なことはただ一つ」

あるときイエスさまは、マルタとマリアというふたりの姉妹の家をお訪ねになりました。イエスさまはマルタとマリアを愛しておられました。ふたりも、イエスさまが大好きでした。イエスさまがわが家に来てくださった一ふたりはもちろん大喜びで、イエスさまをお迎えしたのです。

でも、ふたりがイエスさまをお迎えするそのしかたは、ことになっていました。

お姉さんのマルタは台所でいそがしく立ち働いていました。イエスさまに美味しいごちそうを召し上がっていただいて、喜んでいただこうと一所懸命だったのです。

では、マリアはどうしていたでしょうか。マリアは、イエスさまの足もとに座って、み言葉に聞き入っていました。

妹のマリアは台所にいませんでしたから、マルタはひとりで食事の準備をしなければなりません。とても忙しかったのです。そして、妹が手伝ってくれないことにはらだったのでしょうか。イエスさまのところに近づいて、こうお願いしたのです。主よ、わたしの妹はわたしだけに食事の準備をさせて、手伝ってくれません。何とも思いません。あなたから、妹に手伝ってくれるようにおっしゃってください。

イエスさまはマルタにどのようにおこたえになったのでしょうか。わかった、今すぐマリアに言っ

て、あなたの手伝いをさせることにしようとおっしゃったのでしょうか。そうではありませんでした。イエスさまはこうおっしゃいました。

「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」(42節)

マリアはイエスさまの足もとに座って、み言葉を聞いていました。私たちが主の日ごとに、マリアがしているようにイエスさまのみもとに集まってみ言葉を聞きますね。つまり、礼拝をささげます。

イエスさまは、この礼拝こそが私たち人間にとってただひとつ必要なこと、すべてのことの中でいちばん大切なことだということをあきらかになさったのです。イエスさまをもてなそうとしたマルタの気持ちはわかります。けれども、イエスさまをあがめ、み言葉に養われることは、どんなにすばらしいごちそうをつくることよりも大切なことなのです。なぜなら、私たちは自分で自分の命を養っているのではないからです。私たちの命はイエスさまのみ言葉によって守られ、支えられ、養われているからです。もしもみ言葉を取り上げられてしまったなら、私たちはだれひとり生きてはいけません。

ですから、イエスさまの足もとに座ることこそ

がいちばん大切なことなのです。マルタはマリアからそれを取り上げてはならなかったのです。このことがわかったなら、マルタもマリアと同じように、イエスさまの足もとに座ったにちがいないのです。

ウェストミンスター小教理問答の問1は、人生の目的は神さまの栄光をあらわし、神さまを喜ぶこと、すなわち礼拝にこそあると教えています。私たちの生活にはさまざまなことがありますね。皆さんも勉強したり、部活をしたり、お家の手伝いをしたり、毎日忙しく過ごしているかもしれません。

けれども、マルタさんのようにいろいろな気遣いで心がばらばらにならないように、人生におい

てただ一つ必要なことを、いつも忘れずにいてください。人生の目的は神さまをあがめることにあることをいつも覚えていてください。そうすれば、日々の生活に必要なものはすべて与えられます。

マルタさんはイエスさまをもてなそうとしました。私たちもイエスさまにお仕えして、イエスさまのお喜びになる人生を生きたいですね。神さまはきっとそのような人生を備えてくださいます。

けれども、私たちがイエスさまをもてなすよりも先に、イエスさまが私たちをもてなし、養ってくださっています。イエスさまは私たちのひとりひとりをも、ご自身の食卓に招待してくださるのです。この幸いを今朝もともに覚えましょう。

(木下裕也)

[今週の暗唱聖句] ルカによる福音書12章31節

ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる。



〈ねらい〉

人生の目的は神様をあがめることであって日々忙しい中でも必要なことはただ一つである。礼拝こそが全てのことの中で一番大切なことである。

〈展開例〉

ある時、イエス様がマルタとマリアの家を訪ねました。マルタは台所でイエス様に喜んでいただこうと忙しく働いていました。しかしマリアはイエス様の足元でお話を聞いていました。マルタは、「主よ。私の妹は私だけに食事の準備をさせて手伝ってくれません。何ともお思いになりませんか。あなたから妹に手伝ってくれるようにおっしゃってください。」とイエス様に言いました。そこでイエス様は優しく諭しながら、「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし必要なことはただ一つだけである。マリアは良いほうを選んだ。それを取り上げてはならな

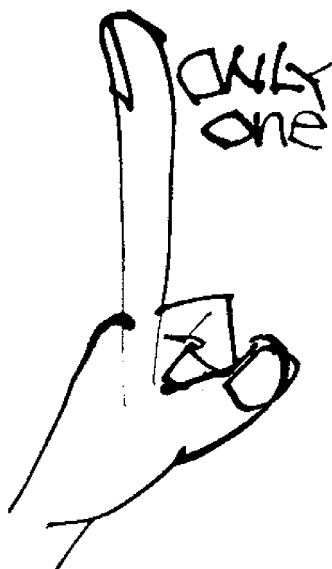
い。」と言われました。

無くてはならないただ一つのこと、それは礼拝をささげることです。僕達私達も毎週日曜日に礼拝に来るよね。そうして聖書の神様のお話を聞いたり、賛美したりするよね。皆が日曜の朝、テレビが見たかったり、友達と遊びたいなと思ったりすることもあると思うけどまずなにより一番に主の日の礼拝を守ることは大事なことです。

毎日の生活の中で、おうちの人に聖書を読んでもらい、お祈りをしようね。神様は喜んでよりいっそう私たちを愛し、もっともっと幸せにしてくださいます。

〈おいのり〉

神様、毎日の生活の中で、第一に礼拝すること、また聖書を読んでもらってお祈りすることができるよう導いてください。



あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。

〈ねらい〉

聖書は、何をするにも神様への心からの感謝の思いを持って行うことが大切であると教えておられます。いくら大切な働きでも、そこに神様への感謝の思いが無いならば神様は喜ばれません。教会の奉仕は大切な働きです。しかし、神様への感謝の思いを忘れて、自己満足から行ったり、奉仕をしていない人を非難したりするならば、神様は悲しまれるでしょう。

そのようにならないためにも、わたしたちはまず、神様がわたしたちにお語りになっている御言葉にこそ聞いて行かなければなりません。マルタとマリアの物語を通して、主の御言葉を聞くことの大切さと、どのようにしたら、神様が喜ばれる奉仕ができるのか。子供たちと一緒に考えましょう。

〈展開例〉

1. イエス様がマルタとマリアの家に来られた後、マルタさんは何をしましたか。また、マリアさんは何をしましたか。
2. マルタさんは妹マリアさんのことで、イエス様に何かをお願いしました。何をお願いしましたか。聖書の箇所からその部分を探して読んでみましょう。

3. それに対してイエス様は、マルタさんに何とお答えになりましたか。聖書の箇所からその部分を探して読んでみましょう。
4. 41節でイエス様はマルタに、「あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している」とおっしゃいましたが、マルタは何をそんなに思い悩んでいたのでしょうか。
5. 42節でイエス様は「必要なことはただ一つだけである」とおっしゃいました。それは何のことだと思いますか。
6. イエス様は、マルタさんがイエス様をもてなすために働いていたことを怒られたのでしょうか。
7. どうやったら、イエス様が喜ばれるような働きをすることができるか。みんなで話し合ってみよう。

〈おいのり〉

愛する天の神様。わたしたちのためにいつも御言葉を与えてくださり感謝します。毎日、聖書を読んで神様の御言葉を聞くことができるようにお守りください。神様のごようのために、どんなことでも感謝をもってすることができるよう導いてください。主イエス・キリストの御名によってお祈ります。アーメン。



〈ねらい〉

なくてはならないものとはなにか。

〈展開例〉

1. 心を乱したマルタ

マルタはイエス様を精一杯、おもてなししたいと思っていました。あれもしなくちゃ、これもしなくちゃとマリアは忙しくて目が回りそうでした。ふとイエス様の方を見ると、妹のマリアが、イエス様の足下に座って、その話に聞き入っていました。

「どうしてマリアは何も手伝ってくれないの。私にばかりさせて」とマルタはいらいらしてきました。「マリアにも手伝うようにおっしゃってください」とイエス様に向かっていました。

2. イエス様の答え

「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだ。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」

マルタの何が問題だったのでしょうか。

①心がとり乱された奉仕

マルタは忙しさの中で、いつの間にか主への感謝の思いではなく、マリアやイエス様への不満でいっぱいになってしまったのです。

そのような心では主に喜ばれる奉仕はできません。マルタもイエス様の前にひざまずき、御言葉によって整えられる必要があります。

そうすればマルタのおもてなしも、主に喜ばれるものとなったことでしょう。

②イエス様の最も喜ばれる奉仕とは

イエス様の最も喜ばれる奉仕とは何でしょう。神の御子であるイエス様にとって、おいしい料理やお茶を用意することよりもまず、イエス様の御言葉に耳を傾けることが一番のおもてなしであり、主の喜ばれることです。

神様の前でどうしても必要な一つのことは

神様の御言葉に耳を傾けることです。私たちは神様の御言葉によって生きる者だからです。

これをマリアから取り去ってはならないし、マリアにとって、なくてはならないものでした。マリアにとってなくてはならないものは、マルタにとっても、なくてはならないものでした。このことを抜きにしてどんなに一生懸命に奉仕をしたとしても、主に喜ばれる奉仕とはなりません。それは自分のことをしているにすぎません。

3. 神の前に静まる

神様の御言葉に耳を傾けること、これが神様に造られた人間としての本来の姿でした。毎日、神様の前に静まり、御言葉に聞きましょう。

4. 御言葉を分かち合いましょう

同じ聖書の箇所を読み、それぞれが教えられたことを発表して分かち合いましょう。(1月7日の分級で作成したデポジションノートを利用してよい)聖書箇所は教師が選んでください。

〔有名人の聖書観〕

ジョージ・ワシントン「神と聖書なしに、この世を正しく統治することは不可能である」

アイザック・ニュートン「いかなる世界の歴史におけるよりも聖書の中には、よりたしかな真理がある」

トーマス・エジソン「聖書だけが、私たちに救い主を示してくれます。そのことによって聖書は、私たちの全生涯を造り変えることができる力の泉となるのです」

ゲーテ「私が獄につながれ、ただ一冊の本を持ち込むことを許されるとしたら、私は聖書を選ぶ」

ナポレオン「聖書はただの書物ではない。それに反対するすべてのものを征服する力を持つ生き物である」

〈今日のカテキズム〉

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問70が挙げられています。1月7日にも出てきましたが、もう一度記します。

問70 御言葉は、どのようにしてあなたに救いの恵みを与えるのですか。

答 私たちが、神の御言葉である聖書と説教に正しく聴き従うことによってです。御言葉をよく聴くことこそ、神さまへの愛と奉仕です。

※説教展開例で出てきているウェストミンスター小教理問答の問1を覚えているかどうか、おさらいしてみましょう。

ウェストミンスター小教理問答

問1 人のおもな目的は、何ですか。

答 人のおもな目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことです。

※聖書についてのカテキズムとして、ウェストミンスター小教理問答問89と90は、これまでも何度か取り組みましたので、今回はジュネーヴ教会信仰問答を取り上げてみようと思います。ジュネーヴ教会信仰問答では、聖書については問300～308で教えられています。全体的に興味深いやり取りが繰り広げられているのですが、紙面の関係で、問302～305の問答を記します。

ジュネーヴ教会信仰問答

問302 そこ（聖書）から実りを受けるためには、それをどのように用いねばなりませんか。

答 私たちが御言葉を天上の確かな真理として心からの固い確信を持って受け入れ、それに素直に己れを委ね、己が意志と精神をそれに服従させ、心からこの御言葉を愛し、

生活の中で実を結ぶよう、これをひたすら我が心に刻み、固くそこに根を下ろさせ、最後にその規範に従って整えられるならば、その時私たちは定められた通り救いに至るのです。

問303 これらすべては私たちの能力の及ぶところでしょうか。

答 いいえ、そのうちの一つすら全く出来ません。上に挙げたのは全てただ神のみが為したもうことであり、神は御霊の恵みによってこれらを私たちの内に実現してくださるのです。

問304 しかし、御言葉によって向上するためには、私たちがこれを読み・聞き・思い巡らすことに誠意を傾け、あらゆる努力をすべきではないでしょうか。

答 まことにその通りであります。銘々が、個人的に日毎聖書を読む修練をしなければならぬとともに、特に信仰者の交わりの中で救いの教理が説き明かされる集いに、全員が熱心に通わねばなりません。

問305 ということは全員が一緒に同じ教えを聞くために集まるのでなく、銘々が家で一人で読んでいては十分でないとはあなたは考えるのですか。

答 可能である時、すなわちその能力がある時には集まる必要があります。

〈今週の聖書日課〉

日曜日 ルカ12：31

月曜日 ヤコブ1：21

火曜日 ネヘミヤ8：8

水曜日 テモテニ3：14～15

木曜日 ルカ10：16

金曜日 ヘブライ4：2

土曜日 エフェソ4：20～24

テキスト ルカによる福音書15章1～7節

〔見失った羊のかけがえのない重み〕

まことの神、主イエス・キリストの養われる羊の群れとして、しばしば、神の民は物語られます。(ヨハネ10章1～18節、エゼキエル書34章16節) また、マタイによる福音書18章12～14節には同様のたとえ話があり、そこでは、「小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」とされています。

イエスによって、このたとえが話された時、まず、「話を聞こうして」「イエスに近寄った」(1節)のは、人々から外目で判断されて疎外されていた、徴税人や罪人(罪ある者ではなく、罪人とされた者の意味)たちの一団でした。このとき、まず、熱心に主の言葉に聞こうとした者たちをイエスが進んで受け入れたこと自体が、ファリサイ派の人々や律法学者たちにはとても不満なことでした。しかし、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」(2節)とは、イエス・キリストが、この罪人とされた人々の仲間の一人と呼ばれることを厭わなかったという恵み深い出来事を変えて物語るものでもあります。

イエス・キリストが教えられたこのたとえ話は、一匹の羊にたとえられた、ほんとうの罪人一人のたましいの重みを伝えるものです。この一人の重みを大胆に伝えるために、イエスは、百匹の羊のうちの一匹の羊として、物語るのです。それは百分の一という比率ではなく、かけがえのない一人のたましいとしてです。

この百匹の羊を養う羊飼いの熱心について、イエスは、「見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか」と、わたしたちに問いかけます。

この見失った羊一匹の重みは、この一匹の羊を見つけたときの大きな喜びによって表されます。それは、羊飼いい人にとどめられるものではなく、「友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』」(6節)

と呼びかけるほどのものです。

〔キリストにある教会の交わり〕

このように、まず、まことの神ご自身が、罪ゆえに本当の自分を失った罪人の救いを熱心に求めておられるのです。「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子(イエス・キリスト)をお遣わしになりました。ここに愛があります」(ヨハネの手紙一4章11節)とは、このたとえ話の言わんとする真理を証言するものです。

はじめの人アダムの不従順において、全人類は罪に墮落しましたから、「悔い改める必要のない」(7節)人を地上に住む人々の中に求めることはできません。むしろ、だれもが、悔い改めて、神に立ち返ることが必要です。ですから、「悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある」(7節)との宣言は、キリストによってのみ、ほんとうの罪人は救いに入れられるという強い必然を同時に伝えるものでしょう。

わたしたちの教会の交わりは、「彼(キリスト)にあって、彼が完全に所有しておられる栄光に参与しているので、この世で、キリストと共なる栄光の初穂を分有している。またその保証として、神の愛の自覚、良心の平和・聖霊による喜び・栄光の望みを享受する。……」(ウェストミンスター大教理問答問83)ものです。

今、ここで、神の憐れみを受け入れ、一緒に、主イエスの御名をほめたたえること、そのこと自体が、まさに、十字架の死から復活され、天に上げられたキリストの祝福の中にあることです。「弱い人、乏しい人」を憐れんでくださる主のみ業に期待し、共に祈り続けましょう。

(エフェソ2:4,5、詩編72:12-14、詩編119:176)

(宮武輝彦)

テキスト ルカによる福音書15章1～7節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問31

〔単元のねらい〕

人の命が物のように扱われ、人の価値がさまざまなこの世的なもののさしではかられることがおそらく一般化している社会に、大人も子どもたちも生きている。そうした中で、神が私たちの命と存在とを無条件に愛してくださること、そこにこそ私たちの生きるもといが据えられていることを、主イエスがお語りになった「見失った羊のたとえ」を通して今一度確かめたい。

「一匹の羊を愛するイエスさま」

聖書はイエスさまを羊飼いに、私たち人間を羊にたとえています。羊飼いは羊を愛して、一匹一匹の羊の名を呼び、養い、憩わせ、さまざまな危険から命がけで守ります。イエスさまも、そのようなよき羊飼いです。

ところである時、イエスさまはこんなお話をなさいました—もしも百匹の羊を持っている人がいたとして、その人が一匹の羊を見失ってしまったとしたら、その人は九十九匹を野原に残してでも、いなくなった一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。そして見つけたなら、喜んでその羊を担いで帰り、多くの人々を集めてお祝いをしないだろうか。

このイエスさまのお話を聞いて、皆さんはどう思いますか。ある人は言うかもしれません。九十九匹を置き去りにしておいてたった一匹を捜しに行くのはどうだろうか。その九十九匹がもしも獣に襲われたなら、いったいどうするのだろうか。一匹と九十九匹とでは、九十九匹のほうが大事に決まっているではないか。

たしかに計算の上ではそうかもしれません。けれども、よく考えてみてください。あるお母さんに十人の子どもがいて、そのうちのひとりがいなくなってしまったら、そのお母さんはあと九人もいるからかまわないなどと考えるでしょうか。きっといなくなったひとりのために深く嘆き悲しみ、心配するはずです。

イエスさまは羊飼い、私たちは羊です。見失った一匹の羊を、このわたしだと考えてみてください。そのあなたを、九十九匹を残してまで捜し回ってくださるのがイエスさまなのです。なぜなら、イエスさまにとってはあなたのたったひとつの命も、かけがえのない命だからです。そこでは、九十九匹と一匹というような計算は成り立たないのです。なぜならイエスさまは、一匹の羊に九十九匹の羊たちにもまさるともおとらない、限りない愛を注いでくださるお方だからです。

神さまは、わたしの目にあなたは価値高く、貴いと私たちのひとりひとりに仰せになります（イザヤ書43章43節）。

ある人はまた、こう考えるかもしれません。羊飼いが九十九匹の羊を野原に残してまで、いなくなった一匹を捜しに行ったのは、その一匹が九十九匹を残して捜すにあたいするほど価値の高い、特別にすぐれた羊だったからだろう。

でも、そうではありません。いなくなった一匹も、おそらくほかの九十九匹と特別変わるところのない羊であったことでしょう。

つまり、神さまは私たちがすぐれているかどうか、いろいろなことができるかどうか、そのようなことは問題になさらないのです。神さまにとっては、私たちに何ができかできないかということをごえて、私たちひとりひとりの存在そのものが宝石のように価値高いのです。私たちの命そのもの

のを限りなく愛し、いつくしんでくださるのです。なぜなら神さまが私たちを造られたからです。私たちの命も、尊くかけがえのないものとして造ってくださったからです。

だからこそ、一匹の羊がいなくなったことは、羊飼いにあって耐え難い痛みであり、苦しみであったのです。だからこそ、羊飼いは九十九匹を置き去りにしてまで、一匹の羊を捜し回ったのです。

このイエスさまのお話は、たんなるたとえ話ではありません。神さまがどれほどこのわたしのひとつの命、一匹の羊を愛しておられるのかを、私たちは神さまが私たちの救いのためになしてくださったみわざを通して知るのです。

それは私たちの命を罪から救うために、み子イエスさまを十字架につけられたというみわざです。

イエスさまの命こそ、ほんとうにかけがえのない、貴い命でした。けれども神さまは私たちの罪を贖うために、このイエスさまの命を犠牲となさったのです。それほどまでに私たちの命を価高いものと見なしてくさるのです。私たちを愛されるのです。

そして、羊飼いが見つけ出した一匹の羊をかついで喜ぶように、私たちがイエスさまの贖いによって罪赦され、神さまと和解し、悔い改めてご自分のもとに帰ってくることを、最高の喜びとしてくださるのです。

(木下裕也)

[今週の暗唱聖句]

イザヤ書43章4節

わたしの目にあなたは価高く、貴く

わたしはあなたを愛し

あなたの身代わりとして人を与え

国々をあなたの魂の代わりとする。



〈ねらい〉

神様が無条件で私たち一人一人の命を尊び愛してくれていることを知る。

〈展開例〉

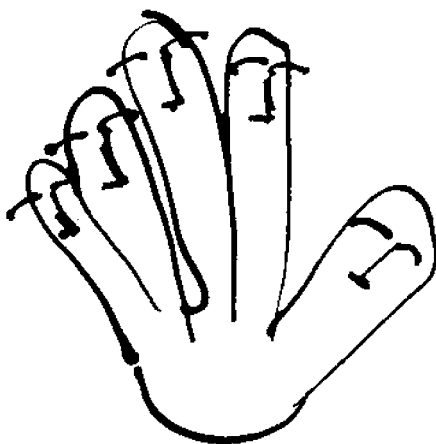
聖書ではよくイエス様を羊飼いに、人間を羊にたとえています。イエス様はある時、お話されました。百匹の羊を飼っている羊飼いが、一匹の羊がいなくなったら、他の九十九匹を残してでもいなくなった一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。そして見つけたら喜んでその羊を担いで帰り、友達や近所の人々を呼び集めて「見失った羊が見つかったので一緒に喜んでください。」と言うであろうというたとえです。

私たち、〇〇ちゃんも〇〇君も迷子になり、いなくなったらお父さんやお母さんやお家の人が見つかるまで一生懸命捜すよね。そういう風にイエス様も私たち〇〇ちゃん〇〇君のことをとっても

大事に思っています。時々いけないことをしてしまう子でも、ごめんなさいができる子でもできない子でも、私達のことをとっても大好きで愛してくれています。その愛は、神様が、私たちの悪いことのために、ご自分の子のイエス様を十字架にかける程に、私たちを愛してくださっています。それは私たちを神様がかけがえの無いものとしてお造りになったからです。ですから〇〇ちゃんも〇〇君も神様の御言葉を守って、お家のひとの言うことをよく聞いて、皆と同じ位大事なお友達にも優しくしようね。神様の御言葉を守って皆のこと大事に思っている神様と一緒に幸せに過そうね。

〈お祈り〉

神様、私たち一人一人のことをとても大切に愛してくれてありがとうございます。お友達にも優しく親切にできるようにして下さい。



「見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください」

〈ねらい〉

多いか、少ないか、儲かるか、儲からないか、損をするか、得かするか、というような功利的な基準で、すべてのことが判断されるような世の中です。しかし、神様はそのような基準ではなく、一人一人の人間の命をかけがえのないものとして創造され、愛しておられます。一人の命の尊さは、決して何人の命とも比較することはできません。したがって、罪による滅びへと向かっていた罪人の命が、滅びから救われたという喜びは、決して他のどんなことにも代えられない大きな喜びなのです。

一人一人の命の尊さと、その一人一人の命に救いのために注がれている神様の大きな愛を子供たちと一緒に味わいましょう。

〈展開例〉

1. イエス様が人々にお話をしておられた時、そこにいたファリサイ派や律法学者が、突然、イエス様に不平を言い出しました。彼らは何と言ったのでしょうか。
2. どうしてファリサイ派の人たちはそのことが我慢できなかったのでしょうか。

3. イエス様はファリサイ派の人々の疑問に答えるために「見失った羊」のたとえをお話なさいました。そもそもどうして、この羊は迷子になってしまったのでしょうか。みんなで考えよう。
4. 羊飼いは、一匹の羊が迷子になったことを知ってどうしましたか。
5. 迷子になっていた一匹の羊が見つかった時、その羊飼いは何と言いましたか。
6. 羊飼いは九十九匹の羊よりも一匹の羊の方が好きだったのでしょうか。
7. 迷子になった羊とは誰のことでしょうか。
8. この羊飼いは誰のことでしょう。

〈おいのり〉

愛する天の神様。イエス様を信じる前のわたしは、迷子になった羊と同じでした。しかし、イエス様はそんなわたしを愛してくださり、わたしを救うために十字架にかかってくださいました。どうか、これからも迷子にならないようにいつもイエス様と一緒に生きることができるよう助けてください。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

一匹の羊を捜し求め、見つけ出してくださるイエス様の愛の大きさを知る。

〈展開例〉**1. 一匹一匹に名前がつけられている**

羊飼いは羊の一匹一匹に全部、名前をつけています。羊飼いでない人が百匹もの羊を見たら、なんだか全部同じような顔に見えるかもしれません。でも羊飼いは顔や姿だけでなく、どの羊がどんな性格で、どんなくせを持っているのかまで全部知っています。

ですから羊飼いが家に帰るとき、百匹のうちの一匹がもし見あたらなければ、どの羊がいなくなったのがすぐにわかるのです。

迷子になってしまった羊は、どうなるのでしょうか。羊はとても弱い動物です。獣に殺されてしまうか、えさが十分に食べられずに死んでしまいます。ですから羊飼いは、急いで迷子になった羊を捜しに行かなければなりません。

2. 迷子になった羊とは

迷子になった羊とはだれのことでしょう。神様から離れて迷い出た私たちのことです。

イエス様は一匹の羊を見つけ出すまで捜し続ける羊飼いのように、私たち一人一人を捜し出して、神様のもとに連れ戻してくださいます。イエス様は良い羊飼いだからです。

3. 大きな喜び

あなたは大切なものをなくしてしまったことがありますか。やっとそれが見つかったとき、ついに見つけた！ と叫びたいくらい嬉しいですよ。

羊を見つけた羊飼いは、喜びにあふれて羊を肩にかついで帰ってきます。友人や近所の人を呼んでパーティーを開くほどの喜びです。いな

くなった自分の羊が戻ってきたからです。

一人の人が悔い改めて神様のもとに帰るとき、天では大きな喜びが起こります。失われた命が戻ってきたからです。

4. たった一匹なのに？

もしあなたが百匹の羊を飼っていたら、一匹ぐらいいなくなってもしかたがないとあきらめてしまうのでしょうか。一匹は百分の一の価値しかないのでしょうか。

神様は私たち一人一人を特別に愛してくださっています。それは私たちにすぐれた能力や価値があるからではありません。神様は私たち一人一人を、かけがえのない存在としてお造りになったからです。

5. イエス様の愛

羊飼いは羊を見つけ出すまで捜し回りました。危険な所や遠くまで捜しに行きました。

同じようにイエス様は、自分では帰ることのできない私たちを捜し出して、肩にかついでくださり、父なる神様のもとに連れ帰ってくださいました。

神様はどれほど私たちを愛してくださっているのでしょうか。神のひとり子であるイエス様の命を私たちにくださるほどでした。それによって私たちの罪をゆるし、再び神様のもとに帰ることができるようにしてくださったのです。

※参考絵本「きみのかわりはどこにもいない」
メロディー・カールソン(いのちのことば社)

6. 羊飼いのジグソーパズル（次ページ参照）

①コピーして色をぬる ②裏返しにしてジグソーパズルになるように線を描き、ハサミで切る ③表にしてパズルを完成させる。(拡大してみんなでやってもよい)



〈今日のカテキズム〉

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問31が挙げられています。

問31 救いとは何ですか。

答 神さまの子どもとされることです。そのために、神さまは私たちの罪を赦して義と認めてくださいました。ですから、私たちは、喜びと感謝をこめて、「私たちの父なる神さま、私の天のお父さま」とお呼びします。

※見失った羊を探すように、滅びるしかないわたしたち罪人を探し出して救うため、世に来てくださったイエスさま。そのことを思いながら、次のカテキズムに挑戦してみましょう。

ウェストミンスター小教理問答

問20 神は全人類を、罪と悲惨の状態のうちに滅びるままにされましたか。

答 神は、全くの御好意によって、永遠の昔から、ある人々を永遠の命に選んでおられたので、彼らと恵みの契約を結ばれました。それは、ひとりのあがない主によって、彼らを罪と悲惨の状態から救助して、救いの状態に入れるためです。



〈今週の聖書日課〉

今週は、まことの羊飼いの姿を描いている聖書箇所をまとめて読んでみましょう。

日曜日	ヨハネ10：11～18
月曜日	詩編23編
火曜日	エゼキエル34：1～10
水曜日	エゼキエル34：11～16
木曜日	エゼキエル34：17～22
金曜日	エゼキエル34：23～28
土曜日	エゼキエル34：29～31

先生方へ④

キャンプや修養会に行って、参加者の様子を見て思うことがあります。それは、学校のこと、趣味のこと、テレビのこと、好きな人のことなどの話では、ものすごくしゃべるのに、分団や分級の時間になると、たどたどしいしゃべり方になる人が多いということです。それは、信仰の問題についての言葉を知らないからだと思います。聞いたことのない言葉をしゃべれるようになる人間はいません。外国語学習もまず耳から、と言います。家庭や教会で年長者が語る信仰の言葉を聞きながら、子どもたちは自分たちなりの信仰の言葉をつむぎだしていけるようになります。子どもたちに聞かせられる信仰の言葉を、私たち大人が語れているかどうか、反省したいと思います。まずは聖書そのものからのみ言葉をどれだけ心に蓄え、語れているか。そして今年1年ご紹介してきた教理問答の言葉。これらの言葉は先輩たちがつむぎだし、語り伝えてきた遺産です。これを私たちのところで止めてしまわず、次の世代へと継承できているかどうか。語られなければ伝わりません。

テキスト ルカによる福音書15章11～32節

〈父の愛のたとえ〉

ルカ15章11～32節に記されているイエスのたとえ話は「放蕩息子のたとえ」と呼ばれています。しかし、後半の25～32節も合わせて考えるならば、「二人息子のたとえ」と呼んだ方がよいのかも知れません(11)。このたとえ話は、「徴税人や罪人」だけではなく、「ファリサイ派の人々や律法学者たち」をも念頭に置いて語られているからです(1-3)。しかし、前半の“弟編”と後半の“兄編”を一つのたとえ話として結び合わせているのは、「この息子は死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかった」(24,32)と言って弟息子の帰還を喜ぶ父の愛です。失われた者を探し出して慈しむ父の愛です。そのようにこのたとえ話を読むならば、内容的には「父の愛のたとえ」と呼ぶのが一番よいのかも知れません。

〈父の愛と弟息子〉

当時のユダヤ社会においては、父親が死ぬ前に遺産の分配をするということがよくありました。ただこの場合でも、父親が生きている間は、父親がその財産の使用権を確保するのが常でした。このたとえ話の兄息子の場合、財産の分け前にあずかりながら、なお父親が使用権を持っていたようです(31節参照)。しかし、弟息子の場合、財産の分け前にあずかりますと、日たため内にすべてをお金に換えて、「遠い国」に旅立ってしまいます。このせつかけぶりにはあきれてしまいます。案の定、滞在先の国で放蕩に身を任せ、せっかく貰った財産のすべてを使い果たしてしまいます。この弟息子が「遠い国」に行ったのは、自由と独立を求めてのことであつたと思われますが、同時にあらゆる面で父親の支配から逃れようとしたために、身を持ち崩してしまうこととなつたのです。自由と独立を得るところか、それとは正反対に、

罪と悲惨の奴隷となつてしまいます。弟息子の場合、父子の絆を断ち切るような仕方では自由と独立を求めた結果、「失われた者」となつてしまいました。

しかし、罪と悲惨のどん底生活の中で彼は我に返り、父のもとに帰りたいと願うようになります。17～19節と21節を比較すると、後者には「雇ひ人の一人にしてください」が欠けています。父親が帰ってきた息子の言葉を遮るようにして、祝宴準備のための指示を与え始めたということでありましょう。父親の喜びがどんなに大きなものであつたかがわかります。神はたとえ私どもが完璧でなくても、悔い改めの一步を踏み出すならば、喜んでご自身との交わりの中に受け入れてくださるのです。

〈父の愛と兄息子〉

兄は、父親との関係において、ある意味では模範的であつたと言えます(29a)。しかし、問題は、父の心を理解することなく、表面上父の言いつけを守っていたに過ぎなかつたという点にあります。この日も兄は戻ってきた弟のために祝宴を催した父の喜びを理解できないで、祝宴に出ようとしません。彼には、「死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったから」(32)と言って、皆で楽しみ喜ぼうとする父の心がわからないのです。その意味でこの兄息子も心では父から離れており、この点で弟息子と同じく「失われた者」でした。

しかし、父親はこの兄息子に対しても等しく憐れみと関心を示しています(28)。イエス様が当時のファリサイ派、律法学者たちを念頭においてこの兄息子のたとえを話されたことは明らかです。
(宮崎彌男)

テキスト ルカによる福音書15章11～32節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問21、67

〔単元のねらい〕

よく知られた放蕩息子のたとえには、聖書全体の要約とも言える内容が込められている。父なる神のもとを離れたゆえの罪の悲惨と、父なる神のもとへ帰ることこそが救いと祝福であるということをストレートに伝えたい。すでにたとえ話の内容をよく知っている子供たちにも、父と二人の息子のそれぞれの立場・気持ちなどを深く考えさせることを通して、登場人物たちに自分を重ね合わせて理解することができるようにしたい。そして、一人一人が実際に罪を離れ、父なる神のもとへ帰ることができるように導きたい。

「神さまの家に帰ろう」

ある人に二人の息子がいました。その人はたくさんのお金を持っていました。ふつう、財産は、親が死んでしまった後に子供たちにゆずり与えられます。しかし、あるとき弟は、自分がもらえる財産を今もうくださいと言いました。そして、財産をもらおうと、さっさと遠い国に旅立っていきました。弟は先のことを何も考えず、今お金がたくさんあって、楽しく暮らせれば良いと考えたのです。すると案の定、財産を無駄づかいしてしまって、お金は全部なくなってしまいました。

みんなはおこづかいをもらっているでしょう。お金はよく考えて大切に使いなければいけません。何も考えず、好きなものを好きなだけ買っていると、本当に必要なものが買えなくなってしまいます。

必要なものとは例えば食べ物です。弟は、お金を無駄づかいしてしまい、ついに食べるものにも困ってしまいました。飢饉まで起こって、食べ物がなくなってしまったのです。弟は豚の世話をする仕事をしましたが、しかし豚が食べるいなご豆さえ食べることができませんでした。

弟の間違いは、ただお金の使い方にあったのではありませんでした。父親のもとを離れて、自分勝手に自由に生きていこうと思ったこと自体が、間違いだったのです。そして、この弟の姿は私たちに何を教えているか、分かるでしょうか。これ

は、父なる神さまのもとを離れてしまったすべての罪人の姿を教えてください。罪とは、神さまから離れて自分勝手に生きること、そして私たちをみじめな姿にしてしまうものです。弟はお腹が空きました。そして、満たされなかったのはお腹だけではなく、心もまた満たされず、寂しく不安な気持ちになったことでしょう。私たちも神さまから離れてしまうとき、体も心も満たされないのです。

しかし大切なのはこの後です。弟は、そのようにみじめな姿になったとき、初めて自分は罪を犯したということに気づきます。そして、お父さんのもとに帰って、もう一度やり直そうと決意します。私たちも、自分のみじめな罪に気づいたなら、その後が大切です。弟のようにはっきりと罪を認め、悔い改めなければいけません。

そして、弟がそのように決意して家に帰ると、父親は温かく弟を迎えてくれました。このときのお父さんの姿はとても印象的です。弟が家に向かったとき、まだ遠く離れていたのに、お父さんの方から弟を見つけ、走り寄ってきてくれたのです。ひょっとすると、弟にはまだこのとき不安があったかもしれません。勝手に家を飛び出して、財産まで使い果たしてしまった自分を、お父さんは家に入れてくれるだろうか。しかし、家に帰ったとき、お父さんの方から走り寄ってきてくれ

たのです。そして、食事でお祝いまでしてくれたのです。お父さんにとっては、いなくなっていた弟が帰ってきたということがとてもうれしいことだったのです。

私たちにも、教会に来て、神さまを信じていても、ときどき不安があるかもしれません。神さまはこんな自分を本当に愛してくれるだろうか、受け入れてくれるだろうか、という不安があるかもしれません。お祈りしていても、心配になることがあるかもしれません。でも、この放蕩息子の父親が走り寄って抱きしめてくれたということ覚えていてください。神さまの方から、私たちのもとに走り寄ってきてくださるのです。それは、神さまがイエスさまを私たちのもとに送ってくださったということにもあらわれています。神さまの方から私たちに近づいてくださるのです。だから安心して、私たちは父なる神さまのもとに帰っていけるのです。

さて、このたとえ話には、兄のことも終わりに出てきます。そして、この兄も実は父のもとを離れてしまった者として出てきます。確かに兄はずっとお父さんと一緒にいたのですが、弟が帰ってきて、お父さんが喜んでいられるのを見ると、とても怒ったのです。今までずっと従ってきた自分でももらえなかったような子牛の食事で自分勝手な弟を迎え入れたことに腹が立ったのです。不公平ではないかと思ったのです。そして、兄は怒って家に入ろうとしませんでした。兄もまたお父さんのところから離れてしまったのです。お父さんから離れ、お父さんに文句を言ったのです。

しかし、お父さんはこの家に入ろうとしない兄に対しても、自ら出てきてなだめてくれました。そして、兄の言い分を受け止めながら、大切なことを語ってくれました。それは、今まで兄はお父さんのものをすべて自分のものであるという祝福にあずかってきたということ、そして帰ってきた弟を喜ぶのは当たり前のことではないか、ということでした。つまり、お父さんは決して不公平をしているのではないのです。そして、お父さんはみんなを愛したいと願っておられるのです。このことを、お父さんは兄に伝えたのでした。

私たちも、もし他の誰かが神さまから祝福されているのを見てうらやましがったり、怒ってしまったりするとき、このお父さんの言葉を思い出すようにしましょう。そして、神さまは自分に対しても大きな祝福を与えていてくださるということを感じましょう。

ここには、弟と兄の二人の兄弟が出てきましたが、これは自分という一人の人間の中に、弟のようなどころも兄のようなどころもあるということです。好き勝手なことをしてはみじめで不安になってしまう自分、まじめにしているように見えて誰かをねたんでいる自分、どちらも自分の中にあります。でも、大切なことは、そのどちらにもお父さんは近づいてくださったということです。神さまは、私たちのためにイエスさまを与えてくださり、私たちのもとに近づいてきてくださる方です。だから私たちもまた、心から信頼して神さまのもとに帰るのです。

(石原知弘)

〔今週の暗唱聖句〕 ルカによる福音書15章24節

食べて祝おう。

この息子は、死んでいたのに生き返り、
いなくなっていたのに見つかったからだ。

〈ねらい〉

神さまのところ（礼拝や教会学校）から離れると私たちは罪を犯します。そのことに気づいたら、すぐに神さまところに帰りましょう。神さまは、罪を赦してくださり、そのことを喜んでくださいます。

〈展開例〉

放蕩息子のお話は教会に紙芝居があると思いますので、それを利用しながら、以下展開していきます。またこのお話をイエス様がみんなに下さったことを強調して下さい。

（幼稚科では、弟息子のことだけに触れることにします。）

お父さんとは、神さまのことです。そして弟息子とは私たち人間のことです。（先生、子どもたち一人一人の名前を呼びながらお話します。）

私たち人間は神さまに造られました。だから本当はいつも神さまのことを思って、一緒にいられたら一番幸せなことなのです。みんなが、大好きなお父さんお母さんと一緒にいて安心して暮らしているようにね。

弟息子は、お父さんから離れて、自分の好きなように暮らしたいと思うようになり、お父さんからたくさんのお金をもらいましたね。

弟息子は自分が楽しくなるように毎日遊んで暮らしましたから、お金はすぐになくなりました。

お金がなくなるとお友達もいなくなり、そして最後に食べるものもなくなりました。はだしになり、服もぼろぼろ、お腹もべこべこでもう死にそうと思ったときお父さんのことを思い出したのです。そして自分が悪いことをしたことを心からあやまろうと決めて家に帰っていったのです。

お父さんは弟息子を遠くから見つけて、走って

いって抱きしめ、食べ物、着るもの、履物を用意しお祝いをしてくれました。息子はどんなにうれしかったでしょう。心が温かくホカホカになりました。（みんなを抱きしめてあげてください。）

みんなは、悪いことしたら、それに気づいてあやまりましょう。そのことを神さまは喜んでくださいます。神様はなんて温かいお方なのでしょう。そしてイエスさまはそのことを教えてくださいました。教会に来て、イエスさまのお話を聞いて、神さまのところへ帰る道を教えてもらいましょうね。

〈やってみよう〉

放蕩息子は失われたものとなりました。息子はすべてを失ってはじめてもっとも大切なことに気づき、父の家へ帰ることができました。さあ、放蕩息子の絵をかいて、カードを作ってください。生徒の数だけ作ってどこにかくしましょう。お父さんの絵、または家の絵を用意して、放蕩息子のカードを見つけた生徒はそこに貼って遊んでください。全員が見つけられたらゲーム終了。

これは余談ですが、この展開を考えながら、ロズさんだ歌があります。それは日本昔ばなしのエンディングテーマソング。これはある教会の幼児クラスの終わりにいつも歌いながら踊った懐かしい曲でした。「いいな、いいな、人間っていいな。♪……僕も帰ろ、おうちに帰えろ。でんでんでんぐり返ってばいばいばい」。

〈おいのり〉

天のさま、私たちが悪いことをしたとき、心から神さまに謝ることができるように、神様のところに帰ることができるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

〈ねらい〉

この「放蕩息子」のたとえは、15章から始まっている「見失った羊」のたとえ、「無くした銀貨」のたとえと同じテーマです。すなわち、神様は、罪を犯し、神様から離れてしまったわたしたち人間をそれでも愛してくださり、わたしたちが罪を悔い改めて、神様のもとに立ち返るのを待っておられる、ということを教えています。

しかし、この「放蕩息子」のたとえでは、他のたとえ話以上に、神様から離れて生きることがいかに悲惨であるのかを教えています。また、自分勝手に神様から離れ、好き勝手にしている人間を、それでも愛し、赦してくださる神様の愛が、まさにわが子を愛する父親の愛として深く語られています。

子供たちの日常生活のことにも触れながら、わが子を愛する神様の深い愛について一緒に考えましょう。

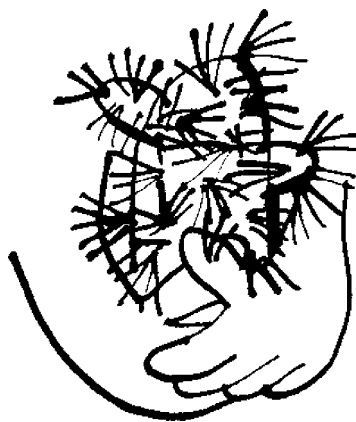
〈展開例〉

1. 弟はどうしてお父さんに財産を分けてくれるよう頼んだのでしょうか。弟の気持ちをみんなで考えよう。
2. 弟は財産を分けてもらった後、どうしましたか。

3. その後、弟はどんな生活をしましたか。また、その結果、どうなりましたか。
4. 飢え死にしそうになった弟は何を考えましたか。聖書から探して読みましょう。
5. 息子が帰って来たとき、お父さんはどんな気持ちになったでしょう。聖書の中にあるお父さんの行動から、その理由を考えよう。
6. お兄さんは、弟が帰ってきてどんな気持ちになりましたか。また、お兄さんはどうしてそんな気持ちになったのでしょうか。
7. お父さんはお兄さんより、弟の方が好きだったのでしょうか。
8. あなたがお兄さんだったら、どうしますか。

〈おいのり〉

愛する天の神様。神様の愛を忘れて、つい自分勝手に、わがままに生活してしまう私をお赦しください。しかし、それでも神様はそんな私をいつも見守って愛していてくださいます。どうか、神様の愛を忘れないで毎日生活できますようにお守りください。罪を犯したときは、神様に心からごめんなさいと言って、神様の所に帰ることができるよう導いてください。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。」

〈ねらい〉

罪人が悔い改めて神に立ち帰ることを神は何よりも喜んでくださる。

〈展開例〉

1. 三人のポイントを整理してみよう

〔弟〕

- ・父がまだ生きているのに財産を分けてほしいと願った。→父の支配からのがれて、独立したいと考えた。
- ・父のもとを出て行った。→自由に自分勝手に暮らせば幸せになると思っていた。
- ・我に返った。→惨めな自分になって初めて、神様に対しても父に対しても罪を犯していたことがわかった。悔い改めて父のもとへ帰る決心をした。

〔父〕

- ・遠く離れていたのに、息子を見つけて→父は毎日毎日、息子の帰りを今か、今かと待っていた。
- ・走り寄って首を抱き、接吻した。→待っているだけでなく、息子を見つけると父の方から走りよって受け入れた。
- ・食べて祝おう。→いなくなった息子が帰ってきたことを心から喜んでいる。この喜びは祝宴を開く（共に喜び祝う）ほど大きい。

〔兄〕

- ・兄は怒って家に入ろうとしなかった。→父のやり方が不満。父の喜びが理解できない。
- ・いつつけに背いたことは一度もない。→自分はまじめで正しいと思っている。形式的に戒めを守っていたが、父の心から遠く離れていた。

2. 誰のことをあらわしているのか？

このたとえは、取税人や罪人を受け入れるイエス様に不平をいったパリサイ人や律法学者に対して語られたものです。父、弟、兄は誰のこ

とを表しているのでしょうか。

父……神様

弟……取税人や罪人（罪人と見なされていた人、大きな罪を犯した人、みんなから嫌われのけ者にされていた人たち）

兄……パリサイ人や律法学者（神様の掟を自分の力で守り、天国に入れると考え、教えていた指導者）

3. 弟と兄に対する父の愛

父は弟を見つけて走り寄り、抱きしめて受け入れます。神様は私たちが悔い改めて神様のもとに立ち帰るとき、喜んで迎え入れてくださいます。大きなゆるしと愛で包み込んでくださいます。

ここに出てくる弟とは、取税人や罪人のことです。イエス様はみんなから嫌われていた彼らの友となってくださいました。

そんな父に対して文句をいう兄は、もう一人の放蕩息子です。いつも父のそばにしながら父の心から離れていました。その兄に対して「あなたも私のところに帰って一緒に喜び祝おうではないか」と悔い改めの中に招きます。

神様の前に自分は正しいといえる者は誰もいません。イエス様は、自分が正しいと思っていたパリサイ人たちをも神様との交わりの中へと招いておられるのです。

4. 登場人物になったつもりで、手紙を書いてみよう

- ①弟から父へ……悔い改めの手紙
- ②兄から父へ……不満の手紙
- ③父から弟へ……ゆるしと喜びの手紙
- ④父から兄へ……なだめと招きの手紙

まず、それぞれの気持ちについて話し合ってみましょう。それから①から④のどの手紙を書くか選びましょう。できたら発表し合ひましょう。

〈今日のカテキズム〉

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問
21、67が挙げられています。

問21 神さまは、あなたもほかの人も、罪人を滅
びるままにお見捨てになりましたか。

答 いいえ、ちがいます。
神さまは、神の民となるように 最初から
私たちを選んでくださいました。罪から救
い出してくださるあがないの主を与えてく
ださったのです。

問67 信仰と悔い改めとは何ですか。

答 聖霊のお働きによって与えられる、救いの
恵みです。イエスさまを救い主として受け
入れ、信頼することと、罪を認め、罪を憎
み、神さまに向かって歩むことです。

※命に至る悔い改めについて教えている問答を見
てみましょう。

ウェストミンスター小教理問答

問85 罪のため私たちに当然な神の怒りとどのろい
とを免れるために、神は、私たちに何を求
めておられますか。

答 罪のため私たちに当然な神の怒りとどのろい
とを免れるために、神が私たちに求めてお
られる事は、キリストがあがないの祝福を
私たちに伝えるのに用いられるすべての外
的手段を、忠実に用いて、イエス・キリス
トを信じ、命に至る悔い改めをすること
です。

問87 命に至る悔い改めとは、何ですか。

答 命に至る悔い改めも、救いの恵みです。そ
れによって罪人は、自分の罪を本当に自覚
し キリストにある神のあわれみを理解し
て、自分の罪を歎き憎みつつ、罪から神へ
と立ち帰り、新しい服従をはっきりと目指
し努力するようになるのです。

〈今週の聖書日課〉

日曜日	ルカ15：11～32
月曜日	使徒20：17～24
火曜日	箴言2：1～5
水曜日	箴言8：33～36
木曜日	イザヤ55：1～3
金曜日	エゼキエル36：25～32
土曜日	イザヤ1：15～17

先生方へ⑤

しかし、信仰の言葉を語ると言っても、言葉
を振りかざして、行いがいないがしろになっ
ては、おかしいことになります。「行いを伴
わない信仰は死んだものです。(ヤコブ2：
26)」そう聞くと、何一つ聖書の戒めを守れ
ない自分に気づき、自分には聖書や教理問答
から語る資格はない、と思われるかもしれま
せん。しかし、わたしたちにも語れることが
あるのです、痛みを伴いますが。信仰の体験
談を話したことがおありの方なら思い出して
いただけるでしょう。信仰の言葉を語るとい
うことは、結局、自分の弱さをさらけ出すと
いうことです。問題は子どもたちの前でそれ
ができるかどうかです。先生面をしては
できないことです。むしろ、子どもたちと一
緒に神さまからみ言葉をいただくという気持
ちになり、子どもたちの目線に立たなければ
できません。

ですから、まずは信仰の先輩たちの言葉を借
りて、信仰について対話を始める。そうすれ
ば、そののち、自分たちの言葉で自由に信仰
について語れるようになっていくでしょう。
そのように育った人たちが集まったキャンプ
や修養会が実現するのが楽しみです。

テキスト ルカによる福音書19章1～10節

〈徴税人のかしら〉

エリコの町は古くから栄えた町で、エルサレムへの街道に面し、交通の上でも商業の上でも重要な位置を占めていました。ザアカイはこの町で徴税人のかしらとして時のローマ政府に仕える働きをしていました。その頃、ユダヤの徴税人と言えば、征服者であるローマのために自国民から税を取り立てるということで、同胞ユダヤ人からは憎まれ、軽蔑されていました。しかも不正な取り立てで私腹を肥やす者も多かったのです。このため、徴税人は、ユダヤ人でありながら、宗教的にも社会的にもユダヤ人社会の仲間入りを許されず、「罪人」と同様の扱いをされていたのです(19:7参照)。

ザアカイはそのような「徴税人のかしら」として収入も多く、金持ちでしたが、孤独で満たされない生活を送っていました。そのザアカイが、主イエスと出会うのです。

〈主イエスとの出会い〉

イエス様がエリコに来られることを聞き知ったザアカイは、何とか会ってみたいと思いました。この方は「徴税人や罪人」とも自由に交際をする方だと聞き及んでいたからです。しかし、通りに出てみると、人ばかりで一ぱいです。背の低かったザアカイを親切に前方へと案内してくれるような人はいませんでした。金持ちであっても隣人との付き合いのなかったさびしい徴税人のかしら、ザアカイ。それでも、ザアカイは何とかイエスを見たいとの切実な思いを持っていました。彼は先回りして、いちじく桑の木に登ってイエスを見ようとするのです。こっけいな姿です。でも、ここに私たちは救いを求める切実なザアカイの姿を見ることができるのではないのでしょうか。

この時、ザアカイにとってとても嬉しいことが

起こります。通りかかったイエス様が上を見上げ、木の上のザアカイに声をかけて下さったのです。「ザアカイ、急いで降りてきなさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」(5)と。思いもよらないことでした。でも、ザアカイはこの時直感的に悟ったに違いありません。この方は自分の悩み、自分の孤独を本当にわかって下さる方だと。ザアカイはすぐに降りてきて「喜んでイエスを迎えました」(6)。

〈今日救いがこの家を訪れた〉

主イエスが来られたのは、「失われた者を捜して救うため」(10)です。ザアカイは、ユダヤ人(「アブラハムの子」(9))でありながら、神の民ではないとみなされていました。人がそう見れば、いつしか自分もそのように思うようになって、神との関係においても、人との関係においても「失われた者」となっていました。そのようなザアカイをイエス様は探し出し、名前を呼んで救い出されるのです。イエス様から呼びかけられた時、ザアカイは嬉しくてたまりませんでした。救いの喜びの中から彼は誓います。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施し、不正な取り立てをしていたならば、それを四倍にして返します」(8)と。これはザアカイの悔い改めの告白と言ってもよいでしょう。

このように生まれ変わったザアカイに対し、主イエスは「今日救いがこの家を訪れた」と宣言されます。今やザアカイは主イエスによって神との交わりを回復することができただけでなく、悔い改めの告白により社会的信頼回復への道を歩み始めることとなりました。これこそザアカイが主イエス・キリストによって受けた救いです。彼はもはや「失われた者」ではありませんでした。

(宮崎彌男)

テキスト ルカによる福音書19章1～10節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問24、58

〔単元のねらい〕

よく知られたザアカイの話は、主イエスとの出会いがどういうものであるかを教えてくれる。罪と孤独の中で出会いと救いを求める人間、しかしそのような人間にご自身の方から近づいて来られる主イエス、そして出会いを通して私たちの生き方を変えてくださる救いの恵みをストレートに伝えたい。すでにこの話の内容をよく知っている子供たちにも、あらためてこの出会いのすばらしさが臨場感をもって味わえるように語りたい。そして、一人一人があらためて主イエスを求め、主イエスに出会い、主イエスに変えられることができるように導きたい。

「イエスさまのもとへ急ごう」

イエスさまがエリコという町に来られたとき、たくさんの人がイエスさまを見に来ていました。その中に、ザアカイという人がいました。ザアカイもイエスさまを見たかったのです。しかし、彼は背が低い人でした。ただでさえ人がいっぱいいるのに、背が低いザアカイにはとてもイエスさまを見ることはできませんでした。しかしザアカイはあきらめませんでした。どうしてもイエスさまを見てみたかったのです。彼はなんといちじく桑の木によじ登って、そこからイエスさまを見ようとしたのです。私はこのエリコという町に行ったことがあるのですが、そこに大きないちじく桑の木があるのを見ました。こんな木の上に登るなんて、ザアカイはどうしてもイエスさまを見てみたかったんだなあと思いました。

ところで、どうしてザアカイはそこまでしてイエスさまを見てみたかったのでしょうか。イエスさまが有名な人だったからでしょうか。私たちも、もし有名なスポーツ選手やタレントの人が近くにいたら、見に行くかもしれません。人がたくさんいて見えなければ、ジャンプしてみたり、壁にのぼってでも見ようとしたりするかもしれません。

ザアカイは、そのような気持ちでイエスさまを見たいと思ったのでしょうか。そういう気持ちもあったかもしれません。でもそれだけではなかったような気がします。というのは、このザアカイ

は、おそらくさびしい人ではなかったかと思うからです。そして、そのさびしさを満たしてくれるかもしれないと期待して、イエスさまをぜひ見たいと思ったのではないかと思うのです。

彼は徴税人の頭でした。徴税人とはみんなから税金を集める人ですが、実はこのころの徴税人はお金を多くだまし取っていました。それで、ザアカイもお金持ちであったと書いています。しかもこのエリコという町は特にたくさん税金が取れる町でしたから、その徴税人の頭であったザアカイはたいへんなお金持ちであったと思います。しかし、そのお金はだまし取ったお金ですから、徴税人は町の人たちからはとても嫌われていました。ザアカイは、お金はたくさん持っていました。でも、お友達はほとんどいなかったのではないかと思うのです。だから、ザアカイが木に登ったというのも、ただ背が低くて前が見えなかったからというだけでなく、みんなから離れて一人でイエスさまを見るしかなかったからでもあると思うのです。木の上のザアカイの姿は、とてもわくわくしているような姿でもあり、しかし、とてもさびしそうな孤独な姿でもあるのです。

そんな木の上のザアカイのところで来られると、イエスさまは言われました。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」。ザアカイはびっくりしたのではな

いでしょうか。たくさんの方がいる中から、まさか自分に声をかけてくださるとは。しかも木の上によじ登っているような自分を呼んでくださるとは。何より、罪深い自分のような者の家に泊まってくださいとは。ザアカイは急いで木から降りてきました。そしてイエスさまを喜んで迎えました。

このとき、周りの人たちは文句を言いました。イエスさまが罪深い徴税人なんかの家に泊まることをよく思わなかったのです。ひょっとしたら、イエスさまをお泊めしようと一生懸命準備していた町の人もいたかもしれません。それなのに、よりによってザアカイのような奴の家に泊まるなんて、イエスさまも人を見る目がない、と思ったかもしれません。

しかし、ザアカイ自身も、自分が罪深い者であることを分かっていたようです。そして、このままではいけないということも分かっていたようです。ザアカイは、自分の財産を貧しい人たちに与えること、そしてこれまでだまし取っていた分は四倍にして返すことを、イエスさまに伝えました。イエスさまは、「今日、救いがこの家を訪れた」と言ってくださいました。ザアカイは、イエスさまとの出会いによって心も生活も変えられたのです。罪を認め、悔い改め、人のものを取る生活から人に与える生活へと変えられたのです。イエスさまには、このように私たちを変える力があるのです。イエスさまと出会うことは、お金持ちになることよりはるかに素晴らしいことだからです。

私たちも、このような期待をもって、いつもイエスさまを待ち、イエスさまと出会いたいと思い

ます。教会に来て、イエスさまのお話を聞くということは、ザアカイが木に登ったように、イエスさまを見に行くということです。みんなはいつもわくわくしながら教会に来ていていると思います。でも、ときどき、イエスさまはこんな自分は喜んでくださらないのではと思って、少しさびしい気持ちで来ることもあるかもしれません。そして、教会の後ろの方に一人で座っていることがあるかもしれません。

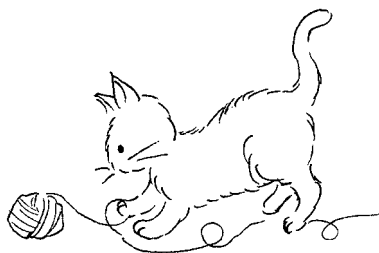
しかしザアカイのことを思い出してください。イエスさまは木の上のザアカイに声をかけました。私の見たエリコの木は、葉がとてもいっぱいあって、そこに登ったらなかなか見つからないのではと思えるような木でした。でも、イエスさまはザアカイをしっかり見つけて、声をかけてくださったのです。ザアカイは、イエスさまを見ようと木に登りました。でも本当は、イエスさまがザアカイを見てくださったのです。イエスさまは、失われたもの、つまり罪を犯して孤独でいる人を捜して救うために来られたからです。

どんなに教会の後ろの方にも、イエスさまはみんなを見つけてくれます。どんなにさびしい心で教会に来て、イエスさまはみんなにやさしく声をかけてくれます。だから、みんなもイエスさまの声を聞いたら、急いでイエスさまのところに行きましょう。イエスさまを救い主として信じ、自分がしてしまった悪いことは悔い改め、そのようにしてイエスさまのもとに喜んで行きましょう。

(石原知弘)

[今週の暗唱聖句] ルカによる福音書19章10節

人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。



〈ねらい〉

私たちの寂しい心と悪い行いをイエスさまが変えてくださることを知る。

〈展開例〉

ザアカイのお話は教会に紙芝居があると思いますので、それを利用しながら、以下展開していきます。

ザアカイは、お金持ちだったけれど、お友達が誰もいませでした。そしてみんなから嫌われていました。とても寂しい人だったのです。

みんなは、寂しいと思ったことあるでしょう。お友達や兄弟とけんかをして「○○ちゃんなんて嫌い」と言われた時？ 一人でお留守番した時？ いろんな時を思い出してみてください。寂しいと思うことはとてもとてもつらいことです。

だから、背の低いザアカイはイエス様が見てみたいと思って必死で木に登りました。

イエス様ならこの寂しい思いを助けて下さるかもしれないと思ったからでしょう。そして、イエスさまがザアカイの名前を呼んで、「ザアカイ、急いで降りてきなさい、今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」と言われたとき、どんなにうれしかったことでしょう。イエス様とお食事をしてお話をして、ザアカイは自分のしている悪いことに気づいてイエス様に言います。「わたしのお金

を貧しい人達にあげます。そしてだましたお金を人々に返します。」と。

よかったですね。ザアカイはもう寂しくありません。寂しい思いを喜びに変えてくださり、悪い行いを正しい行いに変えてくださることができるのはイエス様だけです。みんなは今日、教会に来ることができてよかったですね。

そして、聖書の中に書かれてあるイエス様のお話を聞くことができてよかったですね。寂しいときにも、イエスさまがきっと「○○ちゃん」と声をかけてくださいます。悪いことをしていたら、「ごめんなさい」と言えるようにしてくださいませ。みんなのころは喜びでいっぱいになるでしょう。

〈歌って踊ってみよう♪〉

『ふくいん子どもさんびか』(いのちのことば社)
35番にふりつけを加えてうたってみましょう。

〈おいのり〉

今日、教会に来ることができてありがとうございます。イエスさま、私たちが寂しいときに助けてください。そして悪いことをしたときに「ごめんなさい」と言って、正しいことをできるようにさせてください。イエスさまのおなまえによってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

みんなが良く知っているザアカイの物語を通して、イエス様に会うことの素晴らしさ、不思議さ、嬉しさを子供たちと一緒に味わいましょう。いま、学校でのいじめや、様々なことで孤立している子供もたくさんいます。また、いじめる子供も実は心の中に孤立感をもっています。そういう子供たちに対するイエス様からの励ましのメッセージ、喜びのメッセージとして、共に励まされましょう。

〈展開例〉

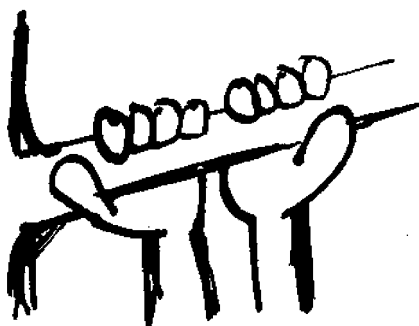
1. ザアカイさんはどんな人でしたか。聖書の中から、ザアカイさんのことが分かる言葉を三つ探してください。
→①徴税人の頭、②金持ち、③背が低い
2. ザアカイさんが、いちじく桑の木に登ったのは何のためでしょう。
3. イエス様はそんなザアカイさんを見て、何とおっしゃいましたか。
4. イエス様の言葉を聞いて、ザアカイさんはど

んな気持ちでしたか。

5. それを見ていた人たちは何と言いましたか。
6. どうしてみんなはそんなことを言ったのでしょうか。
7. イエス様はどうしてザアカイさんのところにわざわざ泊まるとおっしゃったのでしょうか。
8. イエス様の言葉を聞いたザアカイさんは、イエス様に何と言いましたか。
9. どうしてザアカイさんはそんなことを言ったのでしょうか。ザアカイさんの気持ちをみんなで考えましょう。

〈おいのり〉

愛する天の神様。いつも、わたしの所に来てくださり、わたしに言葉をかけてくださいますこと感謝します。わたしは決して一人ぼっちではありません。どうか、いつもイエス様と一緒にいてくださることを感謝して毎日生活できますようにお導きください。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



「ザアカイ、急いで降りて来なさい。」

〈ねらい〉

イエス様に出会う幸いと喜びを味わう。

〈展開例〉

1. お話のポイントを整理しよう

〔ザアカイは人々からどう呼ばれていたか〕

「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった」

ザアカイはお金をたくさん持っていました。が、幸せではありませんでした。彼はみんなの嫌われ者でした。

それはザアカイがローマ政府の税金を集める仕事をしていたからです。そのころユダヤ人はローマ政府に支配されていたので徴税人は敵のために働く裏切り者と見られていました。

また、そのころの徴税人はたいてい税を多くだまし取っていたので、罪人だと思われていました。

〔イエス様はザアカイをどう呼ばれたか〕

「ザアカイ、急いで降りて来なさい」

「ザアカイ」とイエス様は親しく名前を呼ばれました。ザアカイとイエス様は、前からの知り合いだったのでしょうか。いいえ、ザアカイはイエス様がどんな方か見ようとして、木に登ったのですから、イエス様にお会いしたのはこの日が初めてでした。

たとえ私たちがイエス様を知らなくても、イエス様は私たちのことをよくご存じです。神様から遠く離れてしまった私たちを捜し出して救うために、イエス様は来てくださったからです。

〔ぜひ、あなたの家に泊まりたい〕

イエス様は名前を呼ばれただけでなく、ザアカイと一緒に食事をし、家に泊まってくださいました。

ザアカイはイエス様と交わり、心が変わられ

ました。ザアカイのむなしかった心は喜びでいっぱいになりました。イエス様が自分に目をとめ、本当の友達になってくださったからです。

〔今日、救いがこの家を訪れた〕

イエス様との出会いによってザアカイの生き方は大きく変わりました。イエス様の愛がザアカイに注がれたとき、今まで貧しい人たちの苦しみをしても何も感じなかった氷のような心が溶かされたのです。

ザアカイは、イエス様にお会いして、自分のことばかりでなく、他の人々のことも大切にする人に造りかえられました。

イエス様は今日、私たちに語りかけておられます。「ぜひ、あなたのところにも泊まりたい」と。イエス様は失われたものを捜して救うために来られたからです。

2. ザアカイにインタビューしてみよう

（マイク、またはマイクの代わりになるようなものを用意する。一人がアナウンサーとなり、質問する。ザアカイ役は1つの質問が終わったら次の人と交代する）

【質問例】

- ①どのようにしてそんなにお金を貯めたのですか。お金がたくさんあって幸せでしたか。
- ②どうして木に登ったのですか。木登りは得意なんですか。
- ③どうしてイエス様を見てみたいと思ったのですか。
- ④イエス様とはお知り合いだったのですか。
- ⑤名前を呼ばれたとき、どんな気持ちがしましたか。
- ⑥イエス様はどんな方でしたか。
- ⑦イエス様と出会ってから生活がどのように変わりましたか。

〈今日のカテキズム〉

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問24、58が挙げられています。問24は2月4日に出てきていますので、問58を記します。

問58 第八戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 私たちのもっているものすべては、神さまから与えられたものです。人の体やもの、時間を盗んではならないということはもちろん、自分自身のお金、持ち物、時間をも大切に用いなければならない、ということです。私たちは、自分自身を神さまにおさげし、十分の一献金をささげて、神さまに栄光をお返しします。

※寂しかったザアカイに与えられた慰めは、私たちにも与えられることが約束されている慰めです。その「ただ一つの慰め」についての問答をおさらいしておきましょう。ザアカイを思いながら読んでみると、この恵みについて具体的に感じることができるでしょう。

ハイデルベルク信仰問答

問1 生きるにも死ぬにも、あなたのただ一つの慰めは何ですか。

答 わたしがわたし自身のものではなく、体も

魂も、生きるにも死ぬにも、わたしの真実な救い主 イエス・キリストのものであるということです。

この方は御自身の尊い血をもって わたしのすべての罪を完全に償い、悪魔のあらゆる力からわたしを解放してくださいました。

また、天にいますわたしの父の御旨でなければ 髪の毛一本も落ちることができないほどに、わたしを守ってくださいます。実に万事がわたしの救いのために働くのです。

そしてまた、御自身の聖霊によりわたしに永遠の命を保証し、今から後この方のために生きることを心から喜び またそれにふさわしくなるように、整えてくださるのです。

〈今週の聖書日課〉

日曜日	ルカ19：1～10
月曜日	コリントー6：19～20
火曜日	ローマ14：7～9
水曜日	テトス2：14
木曜日	ペトロー1：18～19
金曜日	ヨハネー1：7～9
土曜日	ヨハネ6：37～40



〈人々、主イエスのところに子供たちを連れて行く〉

この当時、人々は、自分の子供を祝福してもらうために、高名なラビ（人生の偉大な先達）のもとに連れて行きました。主イエスも、そのようなラビの一人と見なされました。主イエスは、ヨルダン川の向こう側のユダヤ地方で、ファリサイ派と離婚について問答なさった後、とある家に戻って、弟子たちにさらに教えられたと、マルコによる福音書には記されています(10:10)。ですから、マルコの併行箇所と総合すると、家の中におられる主イエスに祝福してもらうために、人々は主イエスのもとに自分の子供を連れて来たこととなります。「子供」というのは、赤ちゃんから、幼児、少年までを含む表現です。実際、ルカの併行箇所では、「乳飲み子」(18:15)という表現が使われています。この時の状況を想像するに、人々が、次から次へと赤ちゃんから少年に至るまでたくさんの子供たちを連れて来るので、家中が大変騒々しくなったのではないのでしょうか。泣きやまない赤ちゃん、家の中を駆け巡る幼児、何度叱られても静かにしておれない少年 etc.

〈弟子たち、人々を叱る〉

この時、弟子たちは、主イエスから、離婚について、さらに独身について、じっくり聞いていたのですが、人々が自分の子供を連れてやって来たのです。13節の「そのとき」は、そういう状況を指し示しています。弟子たちは、子供たちを連れて来た人々を叱りました。いろんな理由が想定されますが、やはり、一番の理由は、主イエスによる授業が妨げられたからではないでしょうか。私たちも、弟子たちの気持ちが分からないではありません。礼拝説教中、子供が騒ぎ出して、説教が聞こえにくくなった時、弟子たちのようにはその親を叱りはしないでしょうが、その状況を超越して平然としておらないことは確かです。

〈主イエス、子供たちを招かれ、祝福される〉

ところが、主イエスは、大事な授業が妨げられるからと、弟子たちに同調して、子供たちを追い払うようなことはなさいませんでした。主イエスは子供たちを御自分のところへと招かれて、弟子たちに次のようにおっしゃったのです。「天の国はこのような者たちのものである」(19:14)。

「天の国」とは、併行箇所、「神の国」と表現されていますが、主イエスの再臨による最終的な完成を目指しながら、主イエスの初臨（降誕）によってこの世にもたらされた神の国のことです。今は目に見えなくとも、主イエスを通じて確かに及ぼされている、神様の恵み深い御支配のことです。主イエスは、神様の恵み深い御支配は、子供のような者たちのものであるとおっしゃったのです。そして、子供たちに手を置かれて、祝福されました。

〈天の国はこのような者たちのものである〉

並行箇所（マルコ、ルカ）には、この御言葉に続いて、神様の恵み深い御支配をいただくための恵みの手段が示されています。「はっきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない」（マルコ10:15）。この御言葉に、どうして、神様の恵み深い御支配が子供のような者たちのものなのかが示されています。子供時代の一つの特徴として、親の言うことに無条件に信頼するという側面があります。特に赤ちゃんは無条件の信頼で母親に全身を委ねています。ところが、それが年を取るつれて失われて行くのが人間です。子供はもちろん、大人も、主イエスがおっしゃることに無条件に信頼してついて行くならば、必ず、神様の恵み深い御支配をいただくことができるのです。

（長谷川潤）

テキスト マタイによる福音書19章13～15節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問73
 ウェストミンスター信仰告白 28章4節、10章3節
 ウェストミンスター大教理 問166

〔単元のねらい〕

教会は、幼子からお年をとられた方々までの全ての方々が招かれています。特に主イエスは、物心のつかない幼子たちをも、受け入れて下さっています。このことから、教会学校に来て、神さまの御前に集まっている子どもたち皆が、神さまによって愛され、恵みに満たされていることを確認していただきたい。

「神さまはあなたを愛しています」

教会学校には、生まれた時から、お父さんやお母さんに連れられて、教会の礼拝に来ているお友だちもいるかと思います。中には、「なんで教会に来なければいけないのかな」と疑問に持っているお友だちもいるかと思います。

しかし、今日、神さまがみんなを教会に来るよにと、神さまの御前にお集め下さっているのです。このことは、本当に素晴らしいことです。何かの事情で今日、お休みのお友だちもいるかと思います。そういうお友だちがいたら、来週は教会に来て欲しいなと思います。みんなが教会に来ること自体を、神さまは喜んで下さいますし、また先生もうれしいです。

でもね、みんなが教会に来て、神さまのお話を聞いている時に、赤ちゃんや小さなお友だちが、泣いたり、騒いだり、物音をたてたりしていると、気になってしまい、先生のお話を聞くことが出来ない時もあるかもしれません。「もっと静かにして欲しい」と思う時もあるかも知れせんね。確かに、神さまのお話を聞くことは大切なことですし、神さまのお話をじっと聞いてくれるお友だちのことを、神さまは大好きです。でもね、神さまのお話を聞いてもまったく理解出来ない赤ちゃんや小さなお友だちも、「ここに来なさいよ」と招いていて下さっているのです。神さまにとっては、

赤ちゃんからお爺さんお婆さんまで、みんなが神さまを信じるため、神さまの救いに導かれるために、教会に、教会学校と礼拝に集うことが、とてもうれしいのです。

だから、今日、最初にお読みしました聖書にも、イエスさまは「子供たちを来させなさい。」(19:14)と語っておられますよね。イエス様は、「泣く子はダメ」、「騒ぐ子はダメ」、「静かにしていたこの子だけがこっちに来なさい」とは、言われないのですね。もちろん、教会で礼拝中に、聖書が読まれたり、神さまのお話がされている説教の間に、騒いだり、立ち歩いたりしていても、「良いですよ」とイエス様が言っているのではないと思います。やはり教会は、神さまの言葉を、聞こうとしている多くの人たちが集っていますから、出来る限り、静かにしていなければなりません。

でもね、時には泣いてしまう子も、騒いでしまう子もいるかも知れせん。それでも、イエスさまは、「神さまなんか嫌い」、「教会なんか行きたくない」と言って教会に来ないお友だちではなく、少し位騒いだりして、先生やお父さん、お母さんに怒られながらも教会に来ているお友だちのことが大好きなのです。

それだけではありません。「天の国はこのような者たちのものである」とイエス様は語っておら

れます (19:14)。神さまが喜ばれ、神の国、つまり天国において最も喜ばれるのは、このような小さな子供たちなのです。赤ちゃんは、お父さんお母さんに連れてきてもらわなければ教会に来ることが出来ず、神さまのお話などまったく理解も出来ません。時には泣いて、礼拝の邪魔をしてしまいます。でもね、神さまは、赤ちゃんが、いやがることもなく、素直に、お父さんお母さんに連れられて教会に来るその姿を喜んで下さるのです。そして、みんなも、赤ちゃんのように、素直に神さまを信じて、神さまの言葉に耳を傾け、神さまに従うことを、神さまは願っておられます。

だからこそ、教会の礼拝、教会学校の礼拝に集うことは、もちろん神さまのお話を理解して、救いの恵みに満たされることが非常に大切なことです。しかしそれだけではなくて、嫌がらずに素直に礼拝に出席するだけでも、神さまは喜んで下さり、神さまの恵みと祝福をいっぱいいただくことが出来るのです。そして神さまは、すごく喜んで

下さいます。

みんなの中にも、幼児洗礼を受けている人たちがいるかと思いますが、教会では、大人になって自分の口で「神さまを信じます」と告白した人が洗礼を授かるように、お父さんやお母さんがクリスチャンの子供たちも、お父さんやお母さんの信仰によって、幼児洗礼を授かることが出来るのです。そうした子供たちも、教会に来て、礼拝に出席することにより、神さまからの恵みと祝福に満たされていることを、確認することが出来るのですね。

だから、今日読んだ聖書とは別の箇所には、このように語られているところがあります。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」(使徒言行録16:31)

神さまは、みんなが嫌がらずに素直に、そして喜んで教会学校や礼拝に出席して、神さまの御前にいることが本当に嬉しいのだよ！ (辻 幸宏)

[今週の暗唱聖句] マタイによる福音書19章14節

子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。

天の国はこのような者たちのものである。



〈ねらい〉

古代、子どもは小さな存在として扱われていたようです。弟子たちの態度にもそれがあらわれていたように思います。さて、現代の日本では、少子化という事情もあって、子どもの地位(?)は向上しているようですが、みなさんの教会では、いかがですか？

ここでは、社会的なとらえかたをすることなく、「イエス様が招かれている」ことをストレートに伝えましょう。今日は特に目の前にいる幼稚科の子どもたちが先生、お手本です。乳幼児から多くを学ばせていただきます。

公同の礼拝における説教は、幼児にとって理解することは困難ですが、「御言葉が語られるときは静まる」という神様への敬意の表し方は教えておきたいと思います。

〈展開例〉

お弟子さんたちがイエス様からお話を聞いて、お勉強をしていました。そこに、小さな子どもたちが大人に連れられて来ました。赤ちゃんから、もう少しお兄ちゃんまで、イエス様に祝福していただくために、イエス様に会いに来ました。

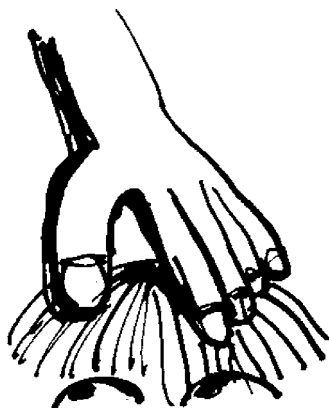
イエス様は、みんなのように素直に神様の言葉を受け入れる人を喜んでくださいます。

みんなは赤ちゃんがお母さんのおっぱいを飲んでいるところを見たことがあるかな？ 赤ちゃんは、おっぱいを飲むとき、「これ、飲んでもだいじょうぶかなあ、ほんとにおいしいのかなあ」なんて思ったりしないで、素直に飲んでいるよね。赤ちゃんがおっぱいを飲むように、神様の言葉を素直に聞くことが大事なんだね。今日、こうして神様の御言葉を聞くために教会に来たみんなを神様は喜んでくださっています。よかったね。

〈おいのり〉

神様、小さい私たちも、イエス様が招いてくださったことを、ありがとうございます。神様の御言葉を、赤ちゃんのように素直になって聞くことができますように。教会には神様の御言葉を聞くためにたくさんの人が集まってきます。このあとのみんなの礼拝で神様の御言葉が語られるとき、静まっていることができますように、助けて下さい。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

※公同 of 礼拝を「大人の礼拝」と呼ばないように、注意したいものです。ここではあえて「みんなの礼拝」としました。



「天の国はこのような者たちのものである。」

〈ねらい〉

教会に来ている子供たちみんなが神様の子供であり、そういう、みんなのために神様は天国を与えてくださるということを子供たちと一緒に喜びましょう。また、教会の礼拝、日曜学校の礼拝に出席することを、どれだけ神様が喜んでくださるか子供たちに教えることも大切です。

ただし、ここの箇所は「子供なら礼拝中に騒いでも許される」ということが教えられている箇所ではありませんので、間違って理解されないように気をつけてください（念のために）。

〈展開例〉

1. 人々が子供を連れてイエス様の所にやってきましたが、何のために子供を連れて来たのでしょうか。
2. その時、「弟子たちはこの人々を叱った」とありますが、どうして弟子たちは叱ったのでしょうか。
3. それに対してイエス様は何とおっしゃいましたか。

4. 14節でイエス様は人々に「天の国はこのような者たちのものである」とおっしゃいましたが、「このような者たち」とは誰のことでしょう。

5. 大人は天国に行けないのでしょうか。

6. 天国に入るために必要なことは何だと思えますか。次の三つの中から、選んでください。

①聖書を全部覚える。

②聖書で教えられている善いことを行う。

③聖書を通してイエス様を信じる。

7. みんなは何のために教会に来ていますか。みんなで話し合ってみよう。

〈おいのり〉

愛する天の神様。わたしたちを愛して、天国に入れてくださいますことを感謝します。どんな時もイエス様を信じ、イエス様のことを忘れることがありませんように。どうかこれからも毎週、みんなと一緒にイエス様にお会いするために、教会に来ることができますよう導いてください。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

天の国はどのような者たちのもの？

〈展開例〉

1. 子どもはどう思われていたか

当時、子どもは価値のない者、役に立たない者、不完全な者と思われていました。

弟子たちもイエス様の大事なお話の邪魔をする者だとして、子どもたちを叱ったのです。

2. 叱られたのは弟子たちだった！

イエス様の邪魔をする者は、子どもたちではなく、子どもたちを追い払う弟子たちでした。邪魔をしているのはあなたたちの方だとイエス様は弟子たちを叱られました。

イエス様にとって子どもはわずらわしい存在ではなく、神の国はこのような者たちのものであるとおっしゃいました。

3. 天の国はこのような者たちのもの

①子どもは……親なしでは生きていけない

子どもは親を頼り、信頼することなしに生きていくことができません。子どものように素直に天の神様を父として頼ることを学ばなければなりません。

②子どもは……プレゼントを喜んで受け取ることができる

子どもはプレゼントを受け取る時

自分に受ける資格があるだろうか……

お返しは何をしたらよいだろうか……

これは私が良いことをしたからだ……

ただほど高いものはない……

などとは考えません。ただ、素直に喜んで受け取るのです。

子どものように神の恵みを、ただ神の恵みとして受け取ることができる人だけが、神の国に入ることができるのです。

教会として考えよう（先生方のために）

大人と同じように、子どもにとってもイエス様の恵みが必要です。すべての子どもが大人になれるわけではありません。

大人の礼拝式の中で、子どもたちは受け入れられているでしょうか。

静かに座っていられない、まだ説教を理解できない、礼拝の雰囲気壊してしまうなどといって礼拝式から子どもたちを閉め出してしまいうなら、イエス様に叱られた弟子たちと同じことをしているのです。

天の国はこのような者たちのものであるといわれたのですから、子どもたちも礼拝式の中に招かれていることは明らかです。

大人と子どもと一緒に礼拝を守るための工夫が、すでにそれぞれの教会でなされていることと思います。具体的な取り組みについて分かち合うことができたらよいと思います。

4. 子どもたちと遊びましょう

子どもたちと仲良くなる近道は、一緒に（教師自身が楽しんで）遊ぶことです。教会学校の時間だけでなく、時間をとって子どもたちと遊ぶ時を持ちたいと思います。

（こんな遊びはいかがですか？）

- ・だるまさんがころんだ
- ・ジェンガ
- ・腕相撲
- ・風船バレーボール
- ・フルーツバスケット
- ・鬼ごっこ
- ・ジグソーパズル
- ・ウノ
- ・ドミノ
- ・陣取り（紙と鉛筆で）
- ・背中に指で文字を書いて伝える伝言ゲーム

〈今日のカテキズム〉

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問73、ウ告白28：4、10：3、ウ大教理問166（全て幼児洗礼について）が挙げられています。子どもカテキズム問73を記します。

問73 赤ちゃんにも洗礼を施すのですか。

答 はい。

キリスト者の子どもは、恵みの契約によって、教会の中に入れられていますから、洗礼を施します。そのほかには、信仰を告白して、教会に許された人でなければ、洗礼を施してはなりません。

※上記以外に、ハイデルベルク信仰問答とジュネーヴ教会信仰問答から記します。ハイデルベルクの答の中に「未信者の子供たち」のことが出てきますが、少し配慮が必要です。ジュネーヴの方は問333～339が幼児洗礼についての箇所ですが、問337と338を記します。これは少し難解なので先生方のご参考までに……。

ハイデルベルク信仰問答

問74 幼児にも洗礼を授けるべきですか。

答 そうです。

なぜなら、彼らも大人と同様に 神の契約とその民に属しており、キリストの血による罪の贖いと 信仰を生み出される聖霊とが、大人に劣らず彼らにも確約されているからです。それゆえ、彼らもまた、契約のしるしとしての洗礼を通して キリスト教会に接ぎ木され、未信者の子供たちとは区別されるべきです。そのことは、旧約においては割礼を通してなされましたが、新約では洗礼がそれに代わって制定されているのです。

ジュネーヴ教会信仰問答

問337 子どもたちを洗礼から遠ざけるならば、神の恵みがそれによってなにがしか減ることになり、キリストの来臨が恵みを小さくしたと言われることになる（注）と思うので

すか。

答 はい、そうなることは明らかです。というのは、神の恵みを証しし、約束を固くするに大いに益ある、際立った印が取り去られるならば、旧約の人たちが受けていた特別な慰めは私たちにないことになるからです。

（注）「キリストが来臨して洗礼が制定され、割礼に代わるものとなったことによって、生まれて八日目の子ども全てに割礼を施していたことから比べると、洗礼が大人にしか認められないのならば、恵みが小さくなった」と言われかねない、の意。

問338 ですから、あなたの考えはこういうことです。神は旧き契約のもとで御自身を小さき者たちの父として示すため、救いの約束を目に見える印として彼らの肉体に刻みつけることを欲したもうた。だから、もしキリストの来臨以後、信仰者がより小さい確証の印しか持たぬとすれば、相応しくない。なぜなら、旧約の父祖たちに与えられたと同じ約束が今日私たちに向けられ、神は御自身の慈しみのより明らかな例証をキリストにおいて私たちに示したもうからであると。

答 私はそのように理解します。さらに、洗礼の効力、またいわば実質に子どもたちも与かることは十分に確定しているのですから、実態の下位にある印が子どもたちに認められないとすれば、明らかに彼らに対し不正が為されたことになります。

〈今週の聖書日課〉

日曜日	マタイ 19：13～15
月曜日	創世記 17：7
火曜日	使徒 2：38～39
水曜日	使徒 16：31
木曜日	ローマ 4：11～12
金曜日	ガラテヤ 3：7～9
土曜日	ルカ 18：15～17

〈主イエスと青年との恵みの対話〉

マルコの併行箇所によると、主イエスが、子供たちを祝福された後、再び、伝道の旅に出ようとなさると、ある人が、主イエスのところにやって来て、ひざまずいて尋ねたと記されています(10:17)。この人は青年で、ルカの併行箇所では、金持ちの議員と表現されています(18:18)。ですから、金持ちで、身分が高かったのでしょう。主イエスは、直前の箇所で、「天の国はこのような者たちのものである」(19:14)とおっしゃって、イエス様のおっしゃることに無条件に信頼してついて行くならば、神様の恵み深い御支配をいただくことができると教えて下さいました。この青年も、主イエスのところに来るには来たのです。そして、永遠の命を獲得するために、どんな善いことをすれば良いのかを尋ねたのです。永遠の命、それは、神様の恵み深い御支配の中でいただくことのできる大いなる恵みです。ですから、この青年は、神様の恵み深い御支配を獲得するために、どんな善いことをすれば良いかと尋ねたのです。

青年は、永遠の命を獲得するためには、何か善い行いをする必要があると考えていました。つまり、永遠の命と自分の善行は価値が等しいと考えていたのです。主イエスは、永遠の命を獲得しようと掟を一所懸命に守って来た青年が、永遠の命を獲得できる完全な条件を示されます。それが、財産を全部売り払って、貧しい人に施すという隣人愛を実践することです。この主イエスの教えに対して、青年は、悲しんで立ち去りました。今まで自分にとって犠牲とならない程度に施しはして来たかも知れません。しかし、持ち物を全部売り払ってまで、貧しい人々に尽くすことはしていなかったからです。主イエスは、この対話によって、この青年が、自分の限界を悟って、善行によって永遠の命を獲得できるとの考え方を捨て、ただ恵みによっていただくことを信じることへと招かれたのです。

〈主イエス、永遠の命を大いなる恵み

として示される〉

主イエスは、青年が立ち去った後、弟子たちに、金持ちが天の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方が易しいとおっしゃいました。結局、金持ちが天の国に入るのは不可能だということです。この当時、財産は神様から祝福されていることのしるしと考えられましたから、これを聞いた弟子たちは、金持ちの青年が天の国に入るのが不可能ならば、いったい、誰が入れるのかと疑問に思ってしまったのですが、主イエスは、「それは人間にできることではないが、神は何でもできる」(19:26)とおっしゃいました。つまり、永遠の命は人間が善行によって獲得できるものでなく、神様がお与え下さる大いなる恵みであると教えて下さったのです。天の国は、人間が自力で入れるところではなく、神様が招き入れて下さるところだということです。

弟子のペトロが、何もかも捨てて主イエスについて来たことによって、何をいただけるのかを尋ねました。もちろん、この時、ペトロは、何もかも捨てて、主イエスについて来たわけではありません。何もかも捨てるとは、文字通り、一文無しになるということではなく、自分のためではなく、主イエスのために生きるということです。ペトロは、まだそうではありませんでした。しかし、この時、主イエスは、ペトロたちの実態は指摘なさらずに、御自分に無条件に信頼してついて来ることによる大いなる恵みを教えて下さいました。特にそれは主イエスの再臨によって天の国が完成する時に与えられる大いなる恵みです。つまり、主イエスに無条件に信頼してついて来る者には、永遠の命が大いなる恵みとして与えられるのです。その永遠の命は、栄光の座に着かれる主イエスと共に天の国を治めるという大いなる恵みとして描かれています。(長谷川潤)

テキスト マタイによる福音書19章16～30節

参照カテキズム 子どもカテキズム 問40

ウェストミンスター大教理 問122

ウェストミンスター小教理 問42

〔単元のねらい〕

私たちの信仰は、律法主義ではありません。神さまの愛によって、罪赦され救われたのです。だからこそ、私たちは、神さまへの感謝と救いの喜びが礼拝生活に、そして信仰生活に繋がってくるのです。この時、私たちは、神さまを愛すると同時に、周囲の人々に対する愛も生じてきます。

今日の箇所では、私たちの信仰が、律法主義による窮屈な信仰ではなく、罪赦され、喜びと平安に満たされ、この喜びと平安を周囲の人々と共に共有する信仰であることを、子供たちと一緒に考えて頂ければと思います。

「喜びに満ちた信仰生活」

教会学校において、十戒を学んだことがあるかと思いますが、皆さんは覚えていますか？ 最初の四つが神さまについて守らなければならないことで、後の六つは私たちが周りの人たちに対して守らなければならない事ですよね。後ろの六つを、一緒に言ってみましょう。

5. あなたの父母を敬え。
6. 殺してはならない。
7. 姦淫してはならない。
8. 盗んではならない。
9. 隣人に関して偽証してはならない。
10. 隣人の家を欲してはならない。

十戒は、とても大切ですから、覚えて下さいね。ところで、先ほどお読みしました聖書には、一人の青年が出てきましたが、彼は、神さまを信じており、救われて、永遠の命が欲しいと願っていました。どうしても、滅びたくなく、救われたいと思っていました。だからこそ、救われるためならば、何でも熱心に行うことが出来ると思っていたのです。そして彼は、イエス様と出会った時、イエス様に問いかけます。「先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか。」(16節)。きっと彼は、自分なら、イエスさ

まの語られた通りすることが出来るから、救われるだろうと内心思っていたのです。ですから、イエスさまが、「もし命を得たいのなら、掟を守りなさい。」(17節)と語られた時も、「そういうことはみな守ってきました。まだ欠けているでしょうか。」と答えることが出来ました。本当に素晴らしいことですね。

でもね、イエス様はさらに言われました。「もし完全になりたいのなら、行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。」(21節)。青年はこの言葉を聞き、悲しみながら立ち去ったのです。彼は、自分で神さまが語られることを一生懸命おこなって、命令を守れば、救われるのだと思いこんでいたのです。いや、自分で救いを獲得することが出来ると思っていたのです。

しかし、イエス様は、そのような彼の考えを知っておられ、「それではダメですよ」と言っておられるのです。でも、みんなにも同じように「持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい」なんて、イエス様は語っておられないですよ。もし、そんなこと言われても、みんなも困るよね。でもね、イエス様は彼がお金持ちだったから、このようなことを言ったのだよ。

イエス様が本当に彼に言いたかったことは、「あ

なたの信仰が間違っているよ」と言うことだったのですね。神さまは、十戒を守ったから、礼拝に出たから私たちを救って下さるのではないのです。逆です。神さまが、私たちを救って下さっているのです。私たちを救って下さるために、私たちに代わって、イエス様はすでに十字架の上で死んで下さったのです。だからこそ、私たちは、神さまによって与えられた救いにより、本当の喜びと心の安らぎが与えられているのです。だからこそ、私たちは神さまに感謝して、神さまを愛して、神さまを礼拝するのです。そしてさらに、神さまが私たちを愛して下さったように、私たちも周りの人を愛することが出来るし、本当に困っている人があれば、手助けしたり、一緒になって考えた

りすることが出来るのだよ。

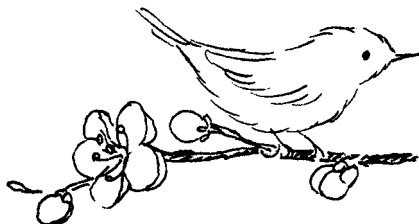
だからこそイエスさまは、十戒を守るとはどういう事ですかと問われて、このように答えられています。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』(マタイ 22:37~39)

十戒、そして神さまの言葉は、守らなければならないのではなく、神さまが私たちを救って下さったことに感謝し、ありがとうと言いながら、神さまがお示し下さった正しい道を歩むために、従っていくのですね。(辻 幸宏)

[今週の暗唱聖句]

マタイによる福音書 22章 39節後半

隣人を自分のように愛しなさい。



〈ねらい〉

学年末です。この春、卒園、入園、入学など、環境の変化に直面している子どもがいるかもしれません。教会学校は変わらず今日もあることに感謝したいですね。期待と同時に不安も覚えるこの季節、決して変わらない神様の愛を再確認しましょう。今日の箇所にある「神は何でもできる」を励ましの言葉にして、子どもたちに安心を与えましょう。

〈展開例〉

イエス様のところには、いろいろな人がお話を聞きにやってきました。今日の人は、まじめで、一生懸命で、おまけにお金持ちの人でした。みんなは、礼拝の時に「十戒」を言いますね。神様が決めになった大事な教えです。(幼児にわかりやすく、内容を説明する。) 今日のお話に出てくる人は、十戒を守ってきたそうです。永遠の命をいただくために、「もっと他にしなくちゃいけないことがありますか？」ってイエス様に質問しました。そうしたら、「持ち物を全部売って、貧しい人にあげなさい。」って言われちゃったんです。

この人は、イエス様にそう言われてとっても悲

しくなっちゃいました。お金持ちだから、たくさんのもんをもっていったんでしょね。全部を人にあげるなんてできないと思ったんでしょね。

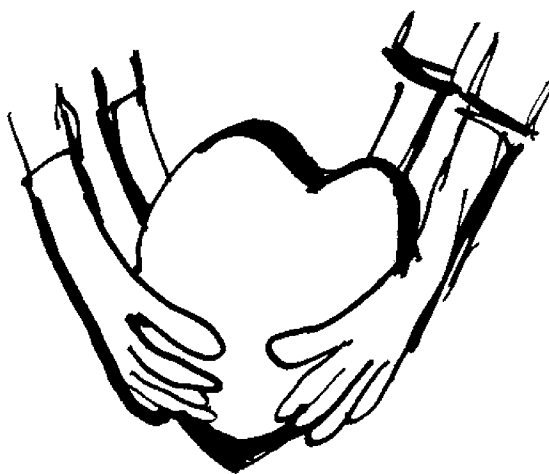
みんなだったら、家も、車も、服もおもちゃも、全部人にあげなさいって言われたら、できるかな？ とっても難しいことです。自分の力ではできません。

でも、神様は、なんでもお出来になります。できない、と思っている私たちの心を変えることも、神様は出来るんです。すごいですね。

神様のおちからによって、神様に喜ばれる子どもにしていきたいと思います。そうすれば、永遠の命をいただけます。

〈おいのり〉

神様、自分ではできないと思うことも、神様の喜ばれることならば、神様のおちからでなんでもできることを聞きました。素晴らしい神様、ありがとうございます。もうすぐ幼稚園や保育園、学校に行くお友だちもいます。どこにいても、いつもお守りください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。



「隣人を自分のように愛しなさい。」

〈ねらい〉

永遠の命を与えられ、天の国に入ることは、人間の力では決してできないということ、そして、天の国はイエス様の十字架の故に、わたしたちに与えられる、神様からの恵みであるということを、もう一度、子供たちと覚えましょう。

また、金持ちが天の国に入ることが難しいと言われていることの意味は、お金が悪いからではなく、お金持ちになると、つい人間は神様よりもお金を大切にしまい、お金を神様のようになってしまうからである、という点も押さえる必要があります。

〈展開例〉

1. 「永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか」という金持ちの青年の質問に、イエス様は何とお答えになりましたか。
2. 「そういうことはみな守ってきました」と答えた青年に、イエス様は何とおっしゃいましたか。
3. イエス様の言葉を聞いて、この青年はどうしましたか。次の三つの中から選んでください。
 - ①すぐに財産を全部売って、貧しい人に施した。
 - ②財産の半分だけ、貧しい人に施した。
 - ③悲しみながら立ち去った。

4. どうしてこの青年はイエス様の言葉に従うことができなかったのでしょうか。

5. イエス様は23節で、「金持ちが天の国に入るのは難しい」とおっしゃいましたが、お金があると天国に入れないのでしょうか。みんなで考えましょう。

6. どうしたら、天の国に入ることができるのでしょうか。

※もうすぐ受難週ですから、天国の恵みがイエス様の十字架によって与えられていることを子供たちに教えてください。

〈おいのり〉

愛する天の神様。わたしたちは罪がありますから、どんなにがんばっても自分の力で天国に入ることはできません。しかし、イエス様はそんなわたしたちに天国の切符を与えるために来てくださり、わたしたちの罪の身代わりとなって十字架で死んでくださいました。神様は、いま、イエス様を信じるすべての人に天国の切符をただくださいます。どうか、神様のお恵みを感謝して、喜んで天国の切符をいただくことができますよう導いてください。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

救いは人間の不完全なわざによるのではなく、完全な善いお方の救いのみわざによる。

〈展開例〉

1. どんな善いことをすればよいでしょうか

この青年は永遠の命を得るためには「善いこと」をする必要があると思っていました。

しかし、それに対してイエス様は「善い方はおひとりである」といわれました。私たちが求めなければならないのは、「善いこと」ではなく、「善い方」である神様なのです。

2. 貧しい人に施しなさい

善い行いによって救われようとするなら、神の掟をすべて完璧に守らなければなりません。しかし、神の戒めを完全に守ることは、罪ある人間にはできません。

それなのにこの青年は「そういうことはみな守ってきました」といいました。青年は自分の基準で、それなりに守ってきたかもしれませんが。しかし、神様の目からみるならば、全く不完全なものでした。

そのことを青年に気づかせるためにイエス様は「持ち物をすべて売り払い貧しい人々に施しなさい。……それから、わたしに従いなさい」とおっしゃいました。

青年は悲しみながら立ち去りました。イエス様が求められた善い行いは、青年にはとてもできないことだったからです。

3. わたしに従いなさい

イエス様が本当にいいかったことは、「あなたにできないことを、神様がしてくださるのです。だからわたしを信じて、わたしに従ってください」ということでした。

イエス様は私たちの救いのために御自分の命を捨て、神様に完全に従ってくださいました。

ですから、私たちは恵みによって私たちが

救ってくださる善い方だけを見つめて従っていくことが求められているのです。

4. 「永遠の命に続く道」の迷路（下図参照）

①紙をつなぎ合わせて長いロール状の巻物を作る。（横30cm×縦200cmほど）

②道を描いていき、途中、何カ所かに分岐点を作る。分岐点には問題の番号を書いておき、→Aと→Bと2方向の矢印を書き、正解の方を選ぶと道が続くようにする。不正解の方には行き止まり、落とし穴、わな、落石、工事中などの絵を描き、進めないようにする。

③スタートとゴールを描き、ゴールには「永遠の命」と書く。

④全部描いたら、紙を丸めてスタートだけが見えるようにする。問題を解きながら紙をのばしていく。問題のところで答えを一緒に考えて、選んだ方向に進む。鉛筆で線を描いてたどる。

☆問題の例（正解は下線の方）

(1) 青年は掟をみな守ってきたと思っていましたが、本当に守れていましたか。

A × B ○

(2) 人間が自分の力で永遠の命を得ることは

A できる B できない

(3) らくだが針の穴を通ることは

A できる B できない

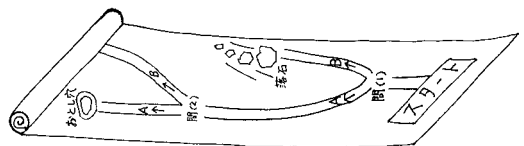
(4) 私たちが救われるために求めるべきものは

A 善い行い B 善いお方（神様）

(5) イエス様が本当にいいかったことは？

A 掟をもっとしっかり守りなさい

B 自分にはできないことを知り、わたしに従ってください



〈今日のカテキズム〉

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問40が挙げられています。

問40 イエスさまが教えてくださった十戒の要約は何ですか。

答 「わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」と、「隣人を自分のように愛しなさい」です。神と人への愛、二つで一つの愛に生きることです。

※十戒の要約について記しているウ小教理問答問42は、2月11日のページをご参照ください。

※十戒の要約が教えていることについて、ジュネーヴ教会信仰問答は問218～223にわたって、次のように記しています。

ジュネーヴ教会信仰問答

問218 神を愛することには、どれだけの内容が含まれますか。

答 神を愛するとは、神を神に相応しく愛すること、つまり、主であり、父であり、救い主であるとして認めることです。したがって、神への愛には神を敬うことと、彼に帰せらるべき信頼と、彼に服従する意志が結び付きます。

問219 「心を尽し、精神を尽し、力を尽す」と言うことを、あなたはどのように理解していますか。

答 この愛に逆らう如何なる思い付きも、如何なる願いも、如何なる努力も、私たちのうちに所を得ないほどの、ひたむきな熱意を言うのであります。

問220 要点の第二はどういう意味ですか。

答 私たちは生来自分を愛する傾向を持ち、この感情が他のすべての感情に優先します。ですから、隣人に対する愛が私たちのうち

を支配し、あらゆる部分にわたって統治し、この愛がすべての考察と行動との規範になるようにしなければならないという意味です。

問221 「隣り人」という言葉はあなたにとってどういう意味を持ちますか。

答 単に近親者や友人、あるいは何らかの親しい関係によって私たちと結び合っている人だけでなく、私たちの知らない人、さらに私たちに敵意ある人もこれに含まれます。

問222 では、彼らは私たちとはどのように結び付いているのですか。

答 まことに、神が一度人類一般を結び合わせたもうた絆によって、彼らは私たちと結ばれています。しかも、これは人間のなす如何なるよこしまによっても廃止できない神聖不可侵な絆であります。

問223 ですから、あなたの言うことはこうなります。もし、誰かが私たちを憎んだとしても、それはその人だけの問題であって、彼が私たちにわたっての隣人である事実は変わらず、私たちも彼をそのようなものとして判断しなければなりません。なぜなら、この結び付きによって私たちの間を確定したもうた神の秩序は、侵されることなく存続するからであります。

答 その通りであります。

〈今週の聖書日課〉

日曜日 マタイ 22：34～40

月曜日 マタイ 19：16～22

火曜日 申命記 6：4～5

水曜日 レビ 19：18

木曜日 申命記 4：13

金曜日 出エジプト 32：15～16

土曜日 ルカ 10：25～28

第10課 祈りを導く聖霊

1. 聖霊の刺激

わたしたちの祈りの生活には、聖霊が生き生きと働かれます。聖霊の刺激を受けて、祈りの生活は活性化されます。『ジュネーヴ教会信仰問答』ラテン語版245では、祈ろうとする心備えが感じられない場合に、「信仰者は直ちに神に逃れて、祈るに相応しくする御霊の激しい火を我がうちに燃え上がらせてくださる様に請い求めるのであります」と言われています。わたしたちの祈る熱情は、聖霊の激しい火によって燃え立ちます。パウロが言うとおり、神の霊が、「われわれの心の中に神のお求めになる感情と熱意を形造ってくださるのであります」（同問答244。ローマ8:26、ガラテヤ4:6を参照）。

パウロが「霊で祈り」（コリントー14:15）と言っている個所を解説して、カルヴァンは次の通り記しています——「このことばは、御霊の刺激が力強く働いて、祈りを成り立たせ、われわれの努力を少しもさまたげず・とどこおらせない、というものである。なぜなら、神はこのことにおいて、信仰がわれわれの心を、どんなに有効に駆り立てるかを、体験させようとしておられるからである」（『綱要』3:20:5）。

わたしたちは、キリストの贖いの業によって、神の子とされました。この確かな根拠のうえに、「神はその聖霊をもってわれわれを導き励まして、あたかもわれわれの父に向かってのように、親しく神に呼びかけさせてくださるのであります」（『ジュネーヴ教会信仰問答』250。マタイ9:2、22を参照）。聖霊の激しい火が、神への嘆願を燃え立たせます。神の真実に信頼を置いて、ダビデは告白しました——「主は貧しい人の苦しみを／決して侮らず、さげすまれません。／御顔を隠すことなく／助けを求める叫びを聞いてくださいます」（詩編22:25）。

カルヴァンは、1542年の「礼拝式文」の中に、「読者への手紙」を配し、次のように言っています——「神に対してのよき感情というものは、心が

正しく感激し、理性が照らされるのであれば、決して死せるもの・あるいは野卑なものでなく、聖霊から発する活ける感動であります」。まことに、聖霊の促しは、強力な刺激です。

2. 聖霊の教え

理性と感情をもってする祈りにあっては、支離滅裂は許されません。理性に支えられた祈りとは、筋道立った言葉を用いてなされる祈りです。神の聖霊が、神の言葉によって、わたしたちの祈りの言葉を整え、豊かにしてくださいます。湖北台教会の祈り会で、一年半あまり、詩編を読み、主要な主題の下に、その使信を聴く恵みにあずかりました。一同、心を探られて、悔い改めと新しい服従へと導かれました。詩編から学び取った言葉がそのままに、自分の祈りの言葉ともなりました。それは、用いる単語と言い回しの両方に及びました。詩編が祈りの学び舎であることを、皆が実感し、ダビデと二人きりになる修練を積みました。そこから、賛美の声が高められもしました。

神への祈りが、神の言葉によって整備されることを、カルヴァンは次のとおり言っています——「神は……はっきりと、祈りは神の御言葉の定規にのっとって整えられなければならない、と命じたもう。さらに、御言葉に基づく信仰こそ、正しい祈りの母なのだから、祈りは御言葉にそむくやいなや、ただちに汚れたものとならざるを得ない」（『綱要』3:20:27）。

「憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか」と、聖霊はわたしたちを祈りへと促しておられます（ヘブライ4:16）。また、「わたしたちは主キリストに結ばれており、キリストに対する信仰により、確信をもって、大胆に神に近づくことができます」と、聖霊は明らかに教えておられます（エフェソ3:12）。

聖霊は、祈る信仰者の理性を祈りにふさわしく整え、これを高め、祈りへと集中させてくださいます。しかも、思いつくままに、あのこと、このことを、前後の見境もなく求めることがないよう

に、と神は「手綱をかけたもうのである」とカルヴァンは説明します——「そこで、神はこの弱さを助けるために、祈りににおいて、われわれの教師として御霊を与え、これによって何が正しいかを教えるとともに、われわれの感情を抑制したもうのである」（『綱要』3:20:5）。カルヴァンが、祈禱論の中で繰り返し引用するのが、ローマ8:26です——「わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです」。聖霊の神学者と呼ばれるカルヴァンが、聖霊の細やかな働きについて記すところは尽きません。

聖霊に教えられて、わたしたちは、「アッバ、父よ」と神を呼びます（ガラテヤ4:6）。このように叫ぶ御子の霊を神が送ってくださった事実において、わたしたちを神の子となさる神の取り計らいは明らかです。聖霊に教えられて祈るとき、わたしたちの信仰は生きて働くものとなります。この信仰を与えられているからこそ、わたしたちは神を呼ぶことができるのです——「ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう」（ローマ10:14）。聖霊によって正しく教えられることなくしては、わたしたちは神の前で口を開くことはできません（『綱要』3:20:34を参照）。

3. 聖霊の満たし

キリストを信じ、神の子とされている者には、神を「父よ」と呼ぶ霊が既に与えられています。地上で信仰の旅路を歩むわたしたちは、日々に、この聖霊が増し加えられるように、と祈り求めます。増し加えられるようにとの祈りは、聖霊の満たしを求める祈りへと昇りつめます。

パウロは、悪い時代に生きるキリスト者に勧めて言いました——「酒に酔いしれてはなりません。それは身を持ち崩すもとです。むしろ、霊に満たされ、詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かって心からほめ歌いなさい」（エフェソ5:18-19）。

五旬祭の日の朝、集まっていた者に、約束の聖霊が降りました。「すると、一同は聖霊に満たされ、

“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した」と、記されています（使徒2:4）。聞いた人々の中には、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」と、あざける者もいました（同2:13）。しかしペトロは、「酒に酔っているではありません」（同2:15）と断言したうえで、キリストの福音を語り告げました。13節で「酔っている」と訳されたのは、「満たされている」の語ですから、4節の「聖霊に満たされ」との対比は、あまりにも明白です。

聖霊の働きなしには、ひとりの信者も生まれません。聖霊の導きなしには、いかなる信者も育ってはいきません。聖霊の増し加えられることを求め、聖霊に満たされることを熱望する祈りににおいて、信仰者の命は輝き出ます。

「われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ」との第六の願いを解説する個所で、カルヴァンは、サタンの策略に対抗して戦い抜くためには聖霊の恵みが必要であることを力説して言います——「神の御霊がサタンとの戦いにさいして、勝敗を決すべきわれわれの力となるとするならば、われわれは聖霊に満たされて、己れの肉のいっさいの弱さを脱却するまでは、勝利を得ることができないわけである」（『綱要』3:20:46）。神の恵みが増し加わることを求め、ついにはこの恵みに全く満たされることを望み見て、わたしたちの地上の祈りは、たゆみなく続けられます。

【宿題】 カルヴァンの『綱要』『信仰の手引き』『ジュネーヴ教会信仰問答』を読むにあたり、次の語に目を留めなさい——感情、感覚、感知、感激、感動、実地、実感、経験、体験、熱心、熱意、熱烈、熱望。自分なりの索引を作るところまでいければ、受ける益は大きい。

このような意識的な読み方に習熟したうえで聖書を読むと、さまざまなキーワードが鮮やかに浮かび上がってきて、歴史を貫く神の取り計らいの総体を把握することができるに違いない。贖罪にかんする用語は多岐にわたっている。（石丸 新）

第11課 共同の祈りの作法

1. 信仰の家族として

日本キリスト改革派教会「礼拝指針」第35条に、次の一文があります——「牧師と小会は、霊的な・興味ふかい・活気ある祈禱会にするよう努力すべきである」。聖霊による祈りの生活の活性化を求める教会は、工夫に工夫を重ねて、活気に満ちた祈禱会を目指します。その努力を積み上げるならば、教会は聖霊の力あふれる教会として立つことができます。

「天にましますわれらの父よ」と呼んで祈るように、と主イエスは教えられました。「われらの」と口にするときに、わたしたちの心は、キリストにあって兄弟とされた者に向けられ、さらには、父なる神の配慮のもとに生かされているすべての人へと配られます。まずは、今、互いに顔を合わせ、共に歩んでいる信仰者を、「信仰によって家族になった人々」として尊重し、祈りにおける共同を目指すなければなりません（ガラテヤ6:10）。

2. 声をひとつにし

福音宣教を議会によって禁じられながらも、これに大胆に抵抗したペトロとヨハネを迎え入れ、事の次第を聞いた教会の信徒たちは、「心を一つにし、神に向かって声をあげて」祈った、と記されています（使徒4:24）。「心を一つにして」は、聖霊が信徒たちの間に造り出す一致を描き出しています（使徒1:14、2:46、5:12、8:6、15:25を参照）。

心がひとつにされるときに、祈りの声もひとつとされます。主イエスは約束されました——「あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる」（マタイ18:19）。「主の祈り」を、声を合わせて祈るとき、やっと言葉を覚えただけの子どもの声が聞こえてくるのは、家庭でも、教会でも、なんとうるわしいことでしょうか。わたしたちの舌と唇とは、共に神を賛美し、共に神に祈るために有効に用いられます。互いに同じ思いを抱き、心を合わせ、声をそろえて、神をたたえるように

とパウロは勧めています（ローマ15:5-6）。「心を合わせ」の原文「同一の心で」と、「声をそろえて」の原文「一つの口で」の対応は、鋭いものがあります。共同の祈りは、神の教会の公同の祈りです。

3. 分かる言葉で

公同の祈りでは、共に集まっている人に理解される言葉で祈ることが、最低限の作法として求められます。説教にしても、祈りにしても、教会を築き上げるという目的からすれば、全会衆に理解される民衆の言葉でなされなければ、意味がありません。「教会は理解できない音声からは全然何らの益も得ることができないからである」と、カルヴァンは言いました（『綱要』3:20:33）。

今から10年ほど前のことを思い起こしますと、教会の祈禱会で、年輩の信徒が、「今晚も、祈りのむしろにはべることができ、感謝します」と祈っていたのを聞くことができました。「祈りのむしろ」は、もちろん、「祈り会」の文学的表現で、風雅な趣に富んでいます。考えてみれば、明治期の教会では、実際に、土間に、わらを編んで作ったむしろを敷いて、礼拝や祈禱会を行っていたに違いありません。「はべる」は、貴人のそばに仕えることを意味する古語です。

祈りの言葉を整えることに、十分すぎるほどの注意を払い、言葉の修練を積んでいかなければなりません。求道中から祈禱会に休まず出席していた方が、やがて洗礼を受け、祈禱会で自分も祈ることとなりました。どのような言葉を用いて祈るかを考え、祈りの文章を暗記しました。忘れてしまっただけだと思って、だれよりも先に祈った、という証しを聞いて、わたしは心を打たれました。このような新鮮な思いを忘れてはいないか、と自分に問うばかりでした。

言葉を整えると言っても、言い回しの巧みさを求めるものではありません。求めたいのは、自分の用いる言葉の豊かさです。日常の会話でも、「すご〜い」「おいしい」「やわらかい」と言うだけで、どれほどの「すごさ」かを、こと細かに表現する

ことは、あまりありません。言葉の貧弱さは、隠れも無い事実です。既に第10課でも述べたとおり、祈りを豊かにしようと願うならば、詩編に親しむことです。新約聖書に収められている、ペトロ、パウロの祈りからも、多くの養いを受けます。

分かる言葉を求めるべきことについて、『ジュネーブ教会信仰問答』247は、わからない言葉で祈るのは、神に対する嘲弄であり、腐った偽善である、と断じています。『ウェストミンスター信仰告白』21章3節では、「声を出して祈る時は、よく知られた言葉でなすべきである」と言われています。

4. 聞こえるように

小学校一年生の冬に中耳炎の手術を受けたわたしは、この年齢になって、聴力の衰えをしきりに覚えています。そのこともあって、公同の祈りのときに、聞き取りにくい場合が増えてきました。自分のことを考えてみますと、祈る場合には、子どものときから、手を組んで、首を垂れる姿勢をとってきました。うつむけば、当然、声帯が圧迫されます。いきおい、声を細め、殺すこととなります。手を組んで下を向いて祈るのは、ゲルマン人から受け継いだ方法だ、と何かで読んだことがあります。旧約の民は、神に届けとばかり、伸ばした両手を上げました。英語訳で「ストレッチ」とあるのを読みますと、実感が湧きます。

高齢化は今後とも進む一方ですから、教会の中でも、聞こえの保障を具体的に考える必要があります。これが自分の普通の声量だ、と思っているところを、その1.5倍にしてみてもはどうでしょうか。発音の明確さを自分に課すことは、ほかの場面でも同じことです。発音に先立つ発声の自己訓練が求められます。必要な声と表現力が確保されるために、普段の体調を整えることから始めましょう。声のトレーニングに関する本を読むことも、大きな助けとなります。相手に伝わる話し方が、コミュニケーションの基本です。公同の祈りのときには、やや背筋を伸ばし、のどに無理のない、自然な姿勢を心掛けましょう。声があなたを育てます。

5. 互いに執り成し

「主の祈り」を教えられたときに、主イエスが「われら」を一貫して強調されたことから分かります。キリスト者は、他の人びとと共に祈り、他の人びとのために祈るように、と召し出されています（『ウェストミンスター大教理問答』189を参照）。初期の教会は、捕らえられ、投獄されたペトロのために、熱心な祈りをささげました（使徒12:5）。

共同で祈るその現場で、兄弟の益を図り、隣人に対して愛を及ぼすことを学びます。そこから、愛の実践の場へと送り出されます。

キリストに結ばれている者は、互いの弱さを補い合い、互いに励まし、慰め合って、天国への道を進みます。その途上にあって、常に、執り成しをささげ、聖霊による一致を保ちます。罪を告白し合い、互いのために祈ることは、キリスト者の聖なる務めです（ヤコブ5:16）。

6. 教会の建て上げを目指す

皆が分かる言葉で語っているところに、信者でない人か、初心者が入って来たら、罪を責められ、ひれ伏して神を礼拝し、「まことに、神はあなたがたの内におられます」と告白することになる、とパウロは言いました（コリントー14:24-25）。キリストの教会にあっては、強い者は強くない者の弱さを担って、隣人のために働き、互いに建て上げ、築き合う務めに献身します（ローマ15:1-2）。

共同の祈りにおいて、信者は、兄弟である他の信者の信仰の告白を聞き、すべての者と共に感謝と賛美をささげます。祈りの友の信仰の模範に倣う思いが、まさにそこで高められます。信仰の先輩の味のある言葉に励まされもします。そのようにして、祈りにおける相互牧会が果たされます。

【宿題】 上記1から6の表題をつなぎ、一つの文としなさい。そのうえで、自分に最も欠けていると思う点を、家族で、あるいは、教会の仲間と語り合いなさい。（石丸 新）

第12課 魂の言葉としての沈黙

1. 言葉にはならない祈り

信仰は、祈る姿と祈る言葉において、その命の輝きを現します。旧約の詩人ダビデは、詩編第5編の中で、自分の祈りにつき、次の語を用いています——「わたしの言葉」（2節）、「つぶやき」（2節）、「叫ぶ声」（3節）、「わたしの声」（4節）、「訴え」（4節）。このうち、「つぶやき」は「嘆き」（口語訳）とも「うめき」（新改訳）とも訳されてきた語です。ここには、言葉と声をもってなす祈りに並んで、言葉にはならない、うめきをもってする祈りがあります。

自分の言葉と声とをねんごろに聞いてくださる神がいます、との生き生きとした信仰が、この詩の全体にみなぎっています。同時に、言葉にはならないうめきをも聞き届けてくださる神を仰ぎ望む目の輝きが、この詩の命となっています。

ダビデを鏡として見るとおり、わたしたちの信仰の道のりにも、言葉にはならない祈りがあります。文法的に整った文章にはほど遠い、うめきの祈りがあります。祈りは、とぎれとぎれとなります。時に、口ごもり、時に言葉を失います。それでも、心は神を慕い、燃え立ちます。それは、わたしの泣く声をも神が聞いてくださる、と信じているからです。ダビデは、この確信を心を込めて歌いました——「主はわたしの泣く声を聞き／主はわたしの嘆きを聞き／主はわたしの祈りを受け入れてくださる」（詩編6:9-10）。

2. 沈黙も、また言葉

沈黙も、また言葉です。沈黙は、神の賜物でもあります。沈黙という色の絵の具が魂を彩り、その人を染めて、下地を造ります。沈黙という背景があつてこそ、言葉の深み、奥行き、色調、輝き、そして命が立ち現れます。沈黙のあるところに、言葉がはじめて言葉となります。ダビデは自分に言いました——「おののいて罪を離れよ。／横たわるときも自らの心と語り／そして沈黙に入れ」（詩編4:5）。

自らの心と語るとは、すなわち瞑想であり、自分の罪を深く思うことは、その深さに応じて、人をさらなる沈黙へと導き入れます。極度の悲しみに沈むとき、人は言葉を失います。しかし、沈黙は、恐怖とは正反対の平静へと人をいざない、信頼へと人を高めます。詩編第4編5節で、「沈黙に入れ」と言ったダビデは、続く6節で、「主に依り頼め」と、自分を励ましています。この論理こそ、神を知る者、キリスト・イエスにあつて罪の赦しをいただいている者が、日毎に体験しているところにはほかなりません。

沈黙のうちにせよ、言葉をもってにせよ、祈りにおいて自分をすっかり投げ出す者は、神の慈愛を新たに体験し、ひれ伏して、神を畏れ敬います（詩編5:8）。おののきつつ、喜び躍るようにされます（詩編2:11）。

けたたましい発車ベルと、せき立てるような大声のアナウンスの代わりに、音楽を流すようになってから、かなりの年数が経ちました。しかし、毎日、同じ曲を聴かされると、それも耳障りになります。よく利用する山手線高田馬場駅の「鉄腕アトム」が、その一例です。ホテルなどのバックグラウンド・ミュージックも、時によって雑音に聞こえることがあります。街には、音の洪水が流れており、普通の会話の声も、それに負けじと大きくなる傾向にあります。

「シンプルな静寂のときが欲しい」と言った人があります。日本在住のフランス人評論家であるフランソワ・モレシャンさんは、「一度、町の余分な音をゼロにし、小鳥の声や静寂を聴くことから再出発してはどうか」と提案しています。人を人とも思わない過度の表現欲の表れが騒音だとするならば、お互いに自分の欲望を打ち捨てて、海辺の松林を吹き抜ける風の音に耳をそばだてるようになりたいものです。

3. 沈黙して神に向かえ

静寂を恐怖と感じ、沈黙に息の詰まるのを覚えてばかりいたのでは、自分の思想を深めることは難しく、まして、自分の信仰の深みをきわめるこ

とは、とうていおぼつかなくなります。すべての音を消し去るのは不可能に近いのですが、心して神の前に静まることはできます。実は、そのことを、神は求めておられます。沈黙は、まさに、神のみむねを深く知る道です。

再び、ダビデに聞きましょう——「沈黙して主に向かい、／主を待ち焦がれよ」（詩編37:7）。ここでは、沈黙と主を待ち望むこととの結合が強調されています。第4編の場合と同じように、ここでは、沈黙が信頼と結ばれているのを見ることができます——「主に信頼し、善を行え」（3節）、「主に自らをゆだねよ」（4節）、「あなたの道を主にまかせよ。信頼せよ」（5節）。この三重の表現は、力に満ちています。

詩編62編でも、ダビデは言いました——「わたしの魂は沈黙して、ただ神に向かう。／神にわたしの救いはある。／神こそ、わたしの岩、わたしの救い、砦（とりで）の塔。／わたしは決して動揺しない」（2～3節）。6節では、自分に呼びかけて言います——「わたしの魂よ、沈黙して、ただ神に向かえ。／神にのみ、わたしは希望をおいている」。続く7節では、3節が繰り返されます。6節の口語訳「わが望みは神から来る」は、希望の確かな根拠である神の絶対主権を言い表しています。

詩編65編で、ダビデは、「沈黙してあなたに向かい、賛美をささげます」（2節）と言って、感謝の歌を切り出しています。神殿での神礼拝にあたり、神の前に静まり、罪の贖いを深く覚え（4節）、救いにかかわる神の恐るべき御業を数え（6～9節）、創造と摂理の恵みを思い（10～14節）、挙げて神の前に畏れをもってたたずむ姿が、この詩の描きだすところです。主なる神の業の数々を思い続け、これを細部にわたって思い巡らす瞑想が、ダビデの勤めるところである、とわたしは読み取っています。瞑想については、第5課で、詩編62編に触れて記した個所を復習してください。

魂の言葉としての沈黙は、生き生きとした信頼に連なり、燃え立つばかりの思いをもって、しかも忍耐の限りを尽くして、主を待ち望むことへと突き進みます。

「都に上る歌」の一つで、ダビデは歌いました——「わたしは魂を沈黙させます。／わたしの魂を、幼子のように／母の胸にいる幼子のようにします」（詩編131:2）。「わたしの魂は沈黙して神に向かう」と言ったダビデは、自分を励まして、「わたしの魂よ、沈黙して神に向かえ」と言うダビデでありました。この131編では、「わたしは魂を沈黙させます」と言って、極めて積極的かつ能動的な瞑想のあり方を明らかにしています。

「沈黙させます」とあるところには、原文では、「静める」と「黙らせる」の二つの動詞が用いられています。前節で、驕り・高ぶり・高望みの集約である自己主張を全否定したダビデは、なおも頭をもたげようとする自己との闘いを意識して、二つの動詞を重ねた、と読めます。口語訳では、「わたしはわが魂を静め、かつ安らかにしました」とあります。考えてみれば、「沈黙」は既に、「沈ませる」と「黙らせる」の合成語です。

まだ口が利けなくても、幼子は信頼し切って、母の胸に安らぎます。魂の沈黙は、この幼子のように、神の胸にとこしえに安らぐことを現実のものとしめます。慈しみは主なる神のもとにあり、豊かな贖いも主のもとにあります（詩編130:7）。主のふところに憩うところに、とこしえの平安があります。昔、「わたしはダビデを裏切らない」と宣言された神は、ダビデを離れることがありませんでした。

神のふところに、信頼をもって憩うダビデは、自分の愛する民に呼びかけて言います——「イスラエルよ、主を待ち望め。／今も、そしてとこしえに」（詩編131:3）。2節の信頼と3節の希望は、切り離されることがありません。

【宿題】 キリスト教瞑想のあり方を指し示す詩編77編を読みなさい。「思い続ける」「思う」「口ずさむ」「思いめぐらす」などの語に留意しなさい。特に13節では、「口ずさむ」が告白を、「思いめぐらす」が賛美を指している。「沈黙こそ賛美」（詩編65:2）の注解とすることができる。

（石丸 新）

『教会学校教案誌』発行のための 自由募金のお願い

教会のかしらなる主イエス・キリストの御名をあがめます。

中部中会教育委員会は、日本キリスト改革派教会をはじめとする改革・長老主義諸教会の教会学校・日曜学校教育に資することを目的として、『教会学校教案誌』を発行しています。2001年4月に始まり、すでに満5年となり、第24号まで発行して参りました。中部中会では7割ほどの教会により採用され、改革派教会全体でもおよそ50教会で採用されています。大会教育委員会もご支持を表明してくださっています。皆様のご支援に心からの感謝を申し上げます。

『教案誌』の発行は中部中会の事業として行われておりますが、中部中会教育委員会では、あわせて皆様からの自由募金によってご支援いただきたいと願っています（2006年4月中部中会第一回定期会にて自由募金願いを可決承認）。子どもたちの信仰教育のために、ぜひ皆様からのお祈りと募金のご支援をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。教案誌を購入していただきやすくするために、教案誌の頒布価格を印刷・製本単価ぎりぎりにおさえています。『教案誌』をご購入くださることも発行のための支援となりますので、ご購入いただくことによってもご支援くださいますよう、お願いいたします。

目標金額	30万円
送金先	郵便振替 伊藤治郎
	00890-2-148183

※通信欄に「教案誌のための自由募金」と明記してください。

いのちのばん

いのち ばん
「わたしが命のパンである。」(ヨハネによる福音書第6章35節)

にちようがっこうのおともだちへ げんき
日曜学校のお友達へ お元気ですか？

きみ せいしょにつか
君のためにつくったこの聖書日課、「いのちのばん」です。

「いのばん」を、まいにち、つか
使っていますか？

きみ せいしょ いま
君の聖書は、今、どこにあるの？ えっ、にちようがっこう
日曜学校のかばんのなかに入れっぱなし…？

きみ かみ しん
君は、神さまを信じているでしょう？ イエスさまのことが大好きでしょう？ すばらしいね！

イエスさまをあいすることは、まいにち かみ
毎日、神さまのみことばをきくこととひとつのことなのです。

かばんのなかに入っているせいしょを、といだして、しょくたく てーぶる うえ
食卓(テーブル)の上でよんでごらん。

じぶんのつくえ があるおともだち つくえ うえ
机があるお友達は、机の上でひろげてごらん。

かみ
神さまは、きみのために、きょう かた
今日も、語ってくださいます。

でも、まいにち
毎日、ひらけなみときもあるよね。

「いのばん」は、そんなきみ おともだち
君の友達です。

ぜんこく
全国にいる、おおぜいのおともだちも、まいにち、いっしょのところをよんでるよ。

どう かあ
お父さんやお母さんといっしょに、そしてひとりでも…。 「いのばん」をともだち
友達にしてね！

イエスさまのしゅくふく あい
祝福が愛するあなたの上(うへ)にゆたかにありますように！



いのちのばん

1月1日（月） マタイ4章4節

人はパンだけで生きるのではない

体に食べ物が必要のように、心にも生きる力を与える食べ物が必要です。

神さま、今日も、
元気に生きる力
を与える、命の
み言葉をお与え
ください。



1月4日（木） マタイ4章19節

わたしについてきなさい

「わたしについてきなさい」と、イエスさまがわたしを呼ばれるとき、心から喜んでイエスさまについていくことができますように。イエスさまと一緒に歩いていきますように。



1月2日（火） マタイ4章6節

天使たちは手であなたを支える

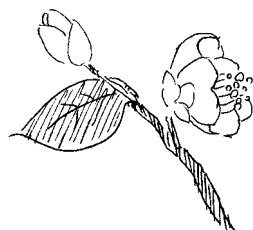
足が石（困難）に打ち当たって、歩けなくなることがあります。そんなときにも、神さま、天使を送り、わたしがしっかりと歩いていくことができるように守ってください。



1月5日（金） マタイ5章13節

あなたがたは地の塩である

食べ物にほどよい味付けをする塩のように、今日もわたしが周りの人たちに、心地よい思いを与える言葉や行いをすることができますように。



1月3日（水） マタイ4章10節

ただ主に仕えよ

悪魔が心を誘惑し、わたしの心を神さまから離そうとします。神さまよりも、他のものに目が向いてしまうこともあります。ただあなただけを見つめて、今日も歩ませてください。



1月6日（土） マタイ5章14節

あなたがたは世の光である

光が暗い部屋を明るくするように、今日もわたしが、周りの人たちの心を明るく照らして、輝かせる人になれますように。光の子供として歩めますように。



いのちのばん

1月8日（月） マタイ5章22節
兄弟に『ばか』と言う者は

兄弟や友だちに、悪い言葉を話すとがないように。
人を傷つける言葉
を話さないように、
今日も、わたしの心と口をお守りください。



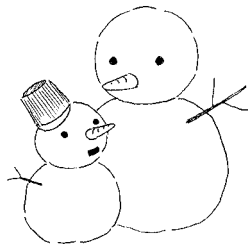
1月11日（木） マタイ6章22節
体のともし火は目である

目が澄んでいれば、そこから光が入ってきて、心を明るくしていけます。そのように、神さまの恵みと愛が、心にいっぱい入るように、心の目を大きく開き、澄んだ目を与えてください。



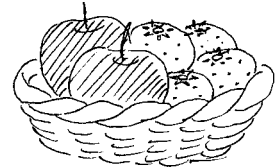
1月9日（火） マタイ5章44節
迫害する者のために祈りなさい

わたしに悪口を言ったり、ひどいことをする人がいます。けれども、そんな人にも優しい心で向かい合い、神さまの祝福を祈れる心を与えてください。



1月12日（金） マタイ6章24節
神と富とに仕えることはできない

富（この世のもの）ばかりに心が向いて、神さまを忘れたり、軽んじたりすることがありませんように。神さまをこそ、第一としていく心を与えてください。



1月10日（水） マタイ6章8節
願う前から、必要なものをご存知

神さま、あなたは、わたしが今日、何を必要としているかを知っておられます。ほしいものはたくさんありますが、本当に必要なものをくださることを信頼して、求める子供としてください。



1月13日（土） マタイ6章26節
天の父は鳥を養ってくださる

空を飛ぶ小鳥たちも、神さまが食べ物を与え、生きる力を与えてくださるので、元気にさえずります。神さま、そのように今日も小さなわたしをお守りください。



いのちのばん

1月15日（月） マタイ6章34節

明日のことは明日自らが思い悩む

今日の悩みを知ってくださる神さまは、明日の心配もご存知で、わたしのために、神さまが心配してくださいます。わたしの代わりに心配してくださる神さまに感謝して、悩みもあなたにお預けします。



1月18日（木） マタイ8章3節

よろしい、清くなれ

重い病気で苦しみ、汚れているとされた人に向かい、「よろしい（わたしの心だ）、清くなれ」と言ってくださったイエスさま、罪に汚れたわたしにも、「よろしい（わたしはそう願う）、清くなれ」と言って、清めてください。

1月16日（火） マタイ7章12節

人にしてもらいたいと思うことは

こんなことをしてもらいたい、あんなことをしてほしいと、人に願うことを、わたしもその人にしてあげる、そんな優しい心で今日を送ることができますように。



1月19日（金） マタイ8章17節

彼はわたしたちの患いを負い

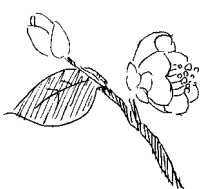
わたしたちの苦しみや悩みを背負ってくださるイエスさま、今日も、わたしが悩んだり、悲しむとき、そんなわたしを背負って、助けてください。



1月17日（水） マタイ7章24節

岩の上に自分の家を建てた賢い人

しっかりとした土台の上に家を建てないと、すぐに倒れてしまいます。今日も、神さまのみ言葉を忘れずに、それに従って一日をすごすことができるように、助けてください。



1月20日（土） マタイ8章27節

風や潮さえも従うではないか

イエスさま、ときどきわたしの心に、不安の嵐が起きたり、悲しみの雨が降り注ぎます。そんなときには、あなたが風や嵐をしかって、心を静めてくださいますように。



いのちのばん

1月22日（月） マタイ9章6節

お起きて**あ**る**け**

からだ
体がまひして、歩くことも、体を動
かすこともできなかった人を、起き上
がらせ、立たせてくださったイエスさ
ま。悲しみや心配で、わたしの心が起
きあがれなくなったときには、『起き
て歩け』と命じてください。そして、
あなたの恵みで立たせてください。

1月25日（木） マタイ10章12節

へいわ**わ**があるように

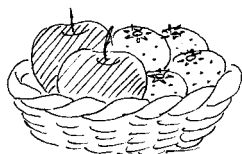
いつもわたしの口から出る言葉が、
人の悪口や、傷つける言葉ではなく、
その人の心を平和にす
る言葉を語ることがで
きるように、まずわた
しの心をあなたの平和
で満たしてください。



1月23日（火） マタイ9章13節

わたしが**も**と**あ**わめるのは**あ**われ**み**

弱い人や失敗だらけの人を招き、
祝福してくださるイエスさま。あなた
が小さな者を憐れんでくださるよう
に、わたしも憐れみの心で人に接する
ことができるよ
うにしてくださ
い。



1月26日（金） マタイ10章29節

ちち**お**許しがなければ

小さな雀さえも、神さまのお許し
がなければ、力尽きて地面に落ちる
ことはないと言束してくださいまし
た。今日も小
さなわたしを
支え、お守り
ください。



1月24日（水） マタイ9章22節

娘よ、**元**気になりなさい

重い病気で12年も苦しんでいた人
を、あなたはいやしてくださいまし
た。同じようにわたしにも、『元気に
なりなさい』と
言って、わたし
を強くしてくだ
さい。



1月27日（土） マタイ11章28節

わたしのも**と**に**き**来なさい

イエスさま、あなたは『わたしのも
とに来なさい。休ませてあげよう』と
言束してくださいました。いつもあな
たのもとにいて、あ
なたの平安をいただ
くことができますよ
うに。

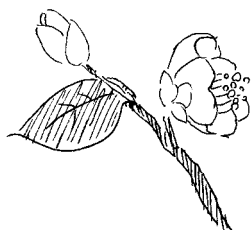


いのちのばん

1月29日（月） マタイ 12章35節

良い物を入れた倉から良いものを

神さま、わたしの心の倉から悪いものを取り出し、あなたの愛と恵みに満ちた、良いもので心が満ち溢れるようにしてください。



2月1日（木） マタイ 13章32節

どんな種よりも小さいのに

ごまのように小さなからし種も、成長すると、空の鳥が巣を作るほど大きな木になります。そのようにわたしも大きく成長させ、実を結ぶ子供にしてください。



1月30日（火） マタイ 12章50節

わたしの天の父の御心を行う人が

いつも神さまが、わたしに何を求め、何を願っておられるか、御心を求める心を与えてください。神さまの御心を行う子供となりますように。



2月2日（金） マタイ 13章44節

畑に宝が隠されている

畑に隠されていた宝を掘り当てた人は、いつもよりもっと深く宝だったので、宝を手に入れることができました。そのように、神さまのみ言葉を、もっとよく理解して、そこにある恵みをもっとよく知ることができるように、み言葉を求める心を与えてください。

1月31日（水） マタイ 13章23節

百倍の実を結ぶ

神さまのみ言葉を聞いて、それをよく理解し、それに従って生きること、今日も、神さまの恵みをいっぱい実らせる一日にしてください。



2月3日（土） マタイ 14章19節

五つのパンと二匹の魚を取り

ほんのわずかな物で、たくさんの人を祝福してくださったイエスさま。そのように、小さなわたしも、あなたのお役に立つことができますように。



いのちのばん

2月5日（月） マタイ14章27節

安心してさい。わたしだ

嵐の湖で、死ぬほどの怖い思いをした弟子たちを、励ましてくださったイエスさま。同じようにわたしにも、『安心してさい』と呼びかけて、心の嵐を静めてください。



2月8日（木） マタイ17章5節

これに聞け

父なる神さまに愛されている、独り子なるイエスさま。あなたの言われることを聞き、それに従って生きることができるよう、素直な心を与えてください。



2月6日（火） マタイ15章18節

口から出て来るものは心から

心にあるものが、口から出てきます。そして人を傷つけたり、悲しい思いにさせてしまいます。友だちを励まし、慰める言葉を話せるように、わたしの心を清めて、良い言葉であふれさせてください。



2月9日（金） マタイ18章4節

子供のようにになる人が

天国は子供たちのものだといエスさまは約束されました。わたしがいつまでも子供のように素直な心で、あなたを信じつづけることができますように。



2月7日（水） マタイ16章15節

あなたはわたしを何者だと言うか

「あなたはわたしを誰だと言うか」とあなたは聞かれます。多くの人がいエスさまについて、あれこれ語っても、ただ「あなたはわたしの救い主」と答えることができるように助けてください。



2月10日（土） マタイ18章14節

一人でも滅びることは

人からはどうでもいいと思われる人も、神さまにとっては、とても大切な人だと教えていただきました。たった一人が滅びることも、お許しにならないあなたの愛で、今日も小さなわたしをお守りください。

いのちのばん

2月12日（月） マタイ18章20節

わたしもその中^{なか}にいる

どんなに小さな集まりにも、イエスさまを中心に集まるとき、そこにあるあなたは一緒にいると約束してくださいました。イエスさま、今日も小さなわたしと共にいてください。



2月15日（木） マタイ20章28節

仕えられるためではなく

わたしが生きるために、ご自分の命を献げてくださった、あなたの愛を感謝します。仕えるために来てくださった、イエスさまに倣う子供としてください。



2月13日（火） マタイ19章21節

天^{てん}に富^{とみ}を積^つむことに

神さま、わたしが、もっと欲しい、もっと欲しいと思う心に捕らえられて、一番大事なものを失うことがないように、心を天に向けていくことができるように

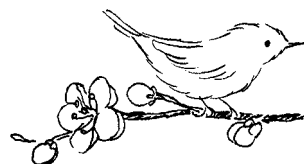
助けてください。



2月16日（金） マタイ21章3節

主^{しゅ}がお入^いり用^{よう}なのです

小さな子^こロバさえお使いになったイエスさま。わたしもあなたのお役に立つ子供として、今日も、あなたの働きをするためにお使いください。



2月14日（水） マタイ19章30節

先^{さき}にいる多^{おほ}くの者^{もの}が後^{あと}になり

自分が一番だと思っていたら、いつの間にか抜かされてしまうことがあります。イエスさまを信じて歩む道でも、遅れをとることがないように、最後までがんばる力を与えてください。



2月17日（土） マタイ21章13節

わたしの家^{いえ}は祈^{いの}りの家^{いえ}と呼ば^よばれる

イエスさま、わたしが心から神さまに祈ることができるよう、わたしの心^{こころ}にあなたが住んで、清めてください。



いのちのばん

2月19日（月） マタイ21章16節

おきなこ ちのこ くちさん び
幼子や乳飲み子の口に賛美を

ことり むし かみ よろこ くさばな
小鳥や虫たちも神さまを喜び、草花
も神さまを賛美してい
ます。それに負けない
ように、小さなわたし
たちも、神さまに感謝
し、賛美することがで
きますように。



2月22日（木） マタイ22章39節

りんじん じぶん あい
隣人を自分のように愛しなさい

じぶん じぶん たいせつ とも
自分自身を大切にするように、友だ
ちをも大切にする心を与えてくださ
い。自分のことばかりではなく、その
ひと きも かんが
人の気持ちになって考えたり、してあ
げようとする優しい
こころ あた
心が与えられますよ
うに。



2月20日（火） マタイ22章21節

かみ かみ かえ
神のものは神に返しなさい

こうてい そう めい
ローマのコインには皇帝の像と銘
（言葉）が記されていました。そのよ
うに『神の像』として造られたわたし
たちも、あたえられたものを用いて、神
さまのために生き
る者となりますよ
うに。



2月23日（金） マタイ23章26節

さかずき うちがわ
杯の内側をきれいにせよ

そとがわ き こころ うちがわ
外側ばかりを気にして、心の内側を
わす ころ
忘れることがありますように。心の
うちがわ
内側がきれいに
されることに、
おも む
思いを向けてい
くことができま
すように。



2月21日（水） マタイ22章32節

い もの かみ
生きている者の神

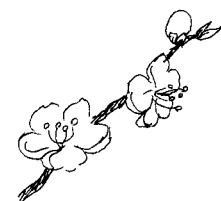
いのち あた い
わたしたちに命を与え、生かしてく
ださる神さま。あなたこそわたしの
いのち ささ つよ かた
命を支え、強くしてくださる方です。
きょう いのち
今日もあなたの命
に生かされて、げん き
に生きる子供とし
てください。



2月24日（土） マタイ24章35節

ことば けつ ほる
わたしの言葉は決して滅びない

やがては ほる
やがては滅びる「この世」のことに
こころ む
心を向けることなく、いつまでも変
わらないイエスさ
まのことば こころ きざ
まの言葉を心に刻
み、それにしたが
って
生きることができ
ますように。



いのちのばん

2月26日（月） マタイ24章42節
目を覚ましていなさい

イエスさまへの思いが眠りこけて、
あなたを忘れてしまうことがあります。
あなたから離れてしまうことがない
ように、いつも心の目を覚ま
していることができますように。



3月1日（木） マタイ26章34節
三度わたしを知らないと言う

やがて自分を裏切る弟子たちをも、
愛して下さったイエスさま。どこま
でも弱い弟子たちを赦し、愛してくだ
さったあなたが、弱いわたしをも赦
し、愛してくだ
さることを感謝
します。



2月27日（火） マタイ25章21節
忠実な良い僕だ。よくやった

わたしのご主人であるイエスさま。
あなたに喜んでいただける毎日をす
ごすことがで
きるように、
今日も導き、
助けてくださ
い。



3月2日（金） マタイ26章39節
御心のままに

わたしたちの救いのために、ご自分
の思いも命も捨ててくださったイエ
スさま。あなたが父なる神さまの御心
に従われたように、
わたしたちもあなた
に従う心を与えてく
ださい。



2月28日（水） マタイ25章40節
わたしにしてくれたこと

どんな人にしたことも、イエスさま
にしたことだと、あなたは言うてくだ
さいます。その人から喜ばれなかった
としても、あなたが喜んでくださると
信じて、今日も自分のすべきことに熱
心に励むことができますように。

3月3日（土） マタイ26章41節
目を覚まして祈っていなさい

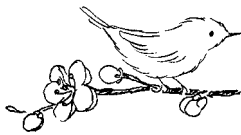
心が眠りこけて、神さまから離れて
しまうことがあります。
心が目覚めてい
るために、いつもあ
なたに祈りつづけて
いけますように。



いのちのばん

3月5日（月） マタイ26章64節
 てん くも の 雲に乗って来るのを見る

イエスさま、あなたはやがて天の雲に乗って、わたしたちを裁くために来られます。そのとき、天国に迎え入れていただけるように、今日もあなたの恵みの中を歩んでいけるように、お守りください。



3月8日（木） マタイ27章23節
 十字架につける

イエスさま、あなたがわたしの身代わりとなって、わたしのために、十字架にかかってくださったことを感謝します。あなたを十字架につけた、わたしの罪をお赦しください。



3月6日（火） マタイ26章75節
 イエスの言葉を思い出した

イエスさま、あなたは、裏切ったペトロさえ赦してくださいました。罪を犯してもあなたに立ち戻れるよう、あなたのみ言葉をお与えください。

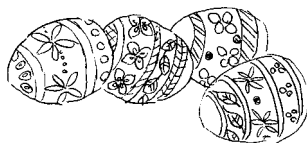


3月9日（金） マタイ27章46節
 なぜわたしをお見捨てになったか

イエスさま、あなたは十字架の上で、わたしの罪の裁きと罰のすべてをうけてくださいました。どれほど苦しかったことでしょうか。わたしの代わりに、呪いを受けてくださったイエスさまによって、救われたことを心から感謝いたします。

3月7日（水） マタイ27章17節
 バラバ・イエスカ、それとも

バラバの身代わりとなって、死んでくださったイエスさま。わたしのためにも、代わりに死んでくださった恵みを感謝します。



3月10日（土） マタイ27章54節
 ほんとうにこの人は神の子だった

十字架にかかれたイエスさまを見ていた百人隊長も、『神の子だった』と言いました。わたしたちもイエスさまを、『神の子、救い主』と信じることができますように。



いのちのパン

3月12日（月） マタイ28章6節

あの方はここにはおられない

イエスさまはどこにいつてしまったかと、おられない場所であなをさがしてしまいます。復活されたイエスさまが、どこにでもいてくださることを信じていくことができますように。



3月15日（木） ヨハネ6章35節

わたしは命のパンである

わたしを生かし、養う、命のパンである、イエスさま。わたしがお腹をすかせたり、ひもじい思いをすることがないように、水を強めるあなたのパンを、今日も豊かにお与えください。



3月13日（火） マタイ28章20節

いつもあなたがたと共にいる

イエスさま、いつまでもわたしたちと共にいてくださると約束してくださいました。そのあなたが、どんなときにも一緒におられることを信じて、いつまでもあなたと共にいることができますように。



3月16日（金） ヨハネ8章12節

わたしは世の光である

世の光であるイエスさま、わたしが暗闇の中で道を間違えることがないように、歩むべき道を照らしてください。水を明るくして、元気に生きるように助けてください。



3月14日（水） ヨハネ4章14節

わたしが与える水は渇かない

イエスさま、あなたがくださる水は、渇かないと約束してくださいました。心が渇くことがないように、あなたの水を与えて、心をあなたの水で満たし、うるおしてください。



3月17日（土） ヨハネ10章11節

わたしは良い羊飼いです

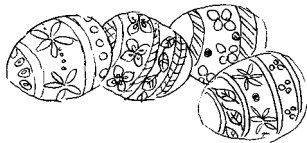
小さな羊を導いてくださるイエスさま。わたしが迷子にならないようにお守りください。傷ついて倒れることがないように、お支えください。



いのちのばん

3月19日（月） ヨハネ11章25節
わたしは復活であり、命である

いのち みなもと
命の源であるイエスさま、わたしが
死んで終わりになることがないように、
わたしのために復活してくださ
ったことを感謝します。これからもわた
しの命と
なってく
ださい。



3月22日（木） ヨハネ13章34節
互いに愛し合いなさい

ゆたかな愛で愛してくださるイエス
さま。あなたに愛されていることを覺
えて、わたしたちも互
いに愛し合う者とされ
ていきますよう、あな
たの愛でいよいよ満た
してください。



3月20日（火） ヨハネ12章24節
死ねば、多くの実を結ぶ

わたしたちが生きてのために、一粒の
麦となってくださったイエスさま。あ
なたによって、わたしたちは天国の命
に生きるようにして
いただきました。わ
たしも実を結ぶ人と
なりますように。



3月23日（金） ヨハネ14章6節
わたしは道、真理、命である

命なるイエスさま、あなたの真理の
道を、これからもまっ
すぐに歩き続けて、
あなたのまことの命
にあずかることがで
きるように、これか
らもお導きください。



3月21日（水） ヨハネ12章36節
光のあるうちに光を信じなさい

世の光であるイエスさま、あなたが
わたしの進むべき道を照らし、心を明
るく輝かせてください。あなたの恵み
の光の中を歩んでいけますように。



3月24日（土） ヨハネ14章18節
みなしごにはしておかない

いつまでも共にいると約束してく
ださったイエスさ
ま。わたしが、ひ
とりぼっちになら
ないように、これ
からもお守りくだ
さい。



いのちのばん

3月26日（月） ヨハネ15章5節

その人は豊かに実を結ぶ

ぶどうの木であるイエスさま。枝であるわたしたちが、あなたにしっかりとつながりつけて、豊かな実を結ぶことができるように、お守りください。



3月29日（木） ヨハネ17章21節

すべての人を一つにしてください

神さま、友だちと仲良くなれず、ひとりぼっちになることがあります。イエスさまが、わたしたちすべての人を一つにして、互いに仲良くなれるように助けてください。



3月27日（火） ヨハネ15章16節

わたしがあなたがたを選んだ

イエスさま。わたしを、あなたの恵みの中に招き入れてくださったことを感謝します。これからもあなたから離れることがないように、小さなわたしをお守りください。



3月30日（金） ヨハネ20章19節

あなたがたに平和があるように

鍵のかかった部屋の中にまで入ってきてくださったイエスさま。わたしの心があなたの平安で一杯になるように、あなたの平和をお与えください。



3月28日（水） ヨハネ16章33節

わたしはすでに世に勝っている

イエスさま。悪魔の力に打ち勝れた力強さで、今日も弱いわたしをお守りください。苦しい中でも勇気を与え、あなたを頼りにしていくことができますように。



3月31日（土） ヨハネ20章27節

信じる者になりなさい

目には見えなくても、あなたがわたしを愛してくださることを、心から信じることができますように。信じない者ではなく、信じる者としてください。



2007年4～6月カリキュラム（第25号）

—救済史に基づく二年サイクルカリキュラムの二年目—

月 日 教会暦・行事	主 題	聖 書 箇 所	暗 唱 聖 句	対 応 表
	単 元 の 目 標			
4月1日 受難週・進級式	キリストの受難	ルカ23:13－25	使徒2:36b	46 65
	ピラトによって死刑に定められた主イエス。ここに神の御業を見る。			
4月8日 イースター	復活のキリスト	ルカ24:36－49	コリントー15:14	
	主はよみがえられた。復活され、平和を告げる主イエスの御姿を仰ごう。			
4月15日	ヨルダン川を渡る	ヨシュア3章	ヘブライ13:8	40
	主が共にいてくださることが私たちの勇気である。試練と向かい合おう。			
4月22日	エリコの攻略	ヨシュア6章	ヘブライ11:1	41 18
	主が私たちの先に立ち、主がたたかってくださる。勇気をもってたたかおう。			
4月29日	ギデオンの精鋭	士師記7章	出エジプト14:13a	47 19
	数ではなく、人間の力でもない。主が勝利を与えてくださることを知ろう。			
5月6日	サムソン	士師記16章	イザヤ55:9	49、50 20
	愚かなサムソンを主が用いられる。主の不思議な御業を仰ごう。			
5月13日 母の日	ナオミとルツ	ルツ記1章	ローマ12:15	51
	神は夫と息子を失ったナオミにルツを与えられた。信仰の絆の深さを知ろう。			
5月20日	ルツとボアズ	ルツ記2章（～4章）	ローマ8:28	51
	信仰者として生きる異邦の女ルツを主は憐れみたもう。主の憐れみを知ろう。			
5月27日 ペンテコステ	新約の教会の誕生	使徒言行録2:1－13	ルカ24:48－49	51 70
	聖霊が注がれ新約の教会が建てられた。教会のえたとされていることを喜ぼう。			
6月3日	ダビデとゴリアト	サムエル上17章	サムエル上17:45	56 23
	主に依り頼む少年ダビデの勝利。主は、素直に信頼する信仰を喜ばれる。			
6月10日 花の日	ダビデとヨナタン	サムエル上20章	ヨハネ15:12－13	57 26
	友情、信仰のきずなに結ばれた友だちが与えられることを喜ぼう。			
6月17日 父の日	ダビデへの契約	サムエル下7章	サムエル下7:13	59
	ダビデ契約。神殿建築を願うダビデを喜び、主はダビデの家を祝福される。			
6月24日	ソロモンの神殿建築と祈り	列王記上8:22－53	列王上8:29a	62 31
	神殿建築を成し遂げたソロモン。その祈りを通して、信仰の姿勢を学ぼう。			

※「対応表」欄の上段は、『教会学校教師指導書（旧約編・新約編）』（日本基督改革派教会大会教育委員会発行）の該当する単元を示しています。「対応表」欄の下段は、『神の救いの歴史』（日本基督改革派教会教育委員会発行、1999年）の該当する単元を示しています。

2007年度 年間カリキュラム

(2007年4月～2008年3月)

二年サイクルの聖書物語（救済史）と教会暦の併用カリキュラム

年・号	月 日	教会暦・行事	主 題	聖 書 箇 所
2007年 25号	4月1日	受難週・進級式	キリストの受難	ルカ23:13－25
	4月8日	復活祭	復活のキリスト	ルカ24:36－49
	4月15日		ヨルダン川を渡る	ヨシュア3章
	4月22日		エリコの攻略	ヨシュア6章
	4月29日		ギデオンの精鋭	士師記7章
	5月6日		サムソン	士師記16章
	5月13日	母の日	ナオミとルツ	ルツ記1章
	5月20日		ルツとボアズ	ルツ記2章（～4章）
	5月27日	聖霊降臨祭	新約の教会の誕生	使徒言行録2:1－13
	6月3日		ダビデとゴリアト	サムエル上17章
	6月10日	花の日	ダビデとヨナタン	サムエル上20章
	6月17日	父の日	ダビデへの契約	サムエル下7章
	6月24日		ソロモンの神殿建築と祈り	列王記上8:22－53
	6月24日			
26号	7月1日		王国の分裂	列王記上12章
	7月8日		バアルとの対決	列王記上18章
	7月15日		残りの者	列王記上19:1－18
	7月22日		裁きの預言	エゼキエル6章
	7月29日		回復の預言	エゼキエル34章
	8月5日		燃え盛る炉	ダニエル3:1－30
	8月12日	(平和)	ライオンの洞窟	ダニエル6章
	8月19日		城壁再建	ネヘミヤ2章
	8月26日		主を喜び祝う	ネヘミヤ8:1－12
	9月2日		役人の息子のいやし	ヨハネ4:43－54
	9月9日		ベトザタの池でのいやし	ヨハネ5:1－18
	9月16日	(17敬老の日)	生まれつきの盲人のいやし	ヨハネ9:1－12
	9月23日		ラザロを生き返らせる	ヨハネ11:1－44
	9月30日		キリストの十字架	ヨハネ19:28－30

年・号	月 日	教会暦・行事	主 題（仮題）	聖 書 箇 所
2007年 27号	10月7日		復活の主イエスとペトロ	
	10月14日		主イエスの昇天	
	10月21日		聖霊の降臨	
	10月28日	宗教改革記念日	ペトロの説教①	
	11月4日		美しの門でのいやし	
	11月11日		ステファノの殉教	
	11月18日		サウロの回心	
	11月25日	アドベント	ペトロの説教②	
	12月2日	アドベント	待降節	
	12月9日	アドベント	待降節	
	12月16日	アドベント	待降節	
	12月23日	クリスマス	降誕祭	
	12月30日		ペトロの救出	
2008年 28号	1月6日	新年	エルサレム会議	
	1月13日		異邦人への伝道	
	1月20日		看守の救い	
	1月27日		エフェソでの告別説教	
	2月3日		弱さの中で強いパウロ	
	2月10日	レント (信教の自由)	競争を走り抜くパウロ	
	2月17日		喜びへと励ますペトロ	
	2月24日	レント	天上のキリスト	
	3月2日	レント	天上の礼拝	
	3月10日	レント	新しい天と新しい地	
	3月17日	受難週	受難	
	3月23日	復活祭	復活	
	3月30日		再臨待望	

〈執筆よりひとこと〉

●教案誌を通して、CS 教師は多くの恵みをいただいています。力の足りない者の群れですが、働きに加えられ、感謝しております（坂戸教会教会学校教師会）。

●新しい年も、子供たちと一緒に神様を礼拝し、成長していきたいと思います（新座志木教会教会学校教師会）。

●奉仕をとおして御言葉の奥深さを味わうことができ、感謝です（漆崎春美）。

●一年間、奉仕の機会を与えていただき、ありがとうございました（赤石めぐみ）。

●読者の皆様、執筆奉仕者、編集同労者すべてに感謝いたします。力を合わせてお届けする今号によって、子どもたちの心に主イエスの福音が豊かな響きを立てますように（相馬伸郎）。

●教育基本法が「改正」されつつあります。学校での先生方、子供たちの信仰が保たれるか心配です。信仰の戦いのために祈り続けましょう（辻幸宏）。

〈あとがき〉

●1～3月は、一年の締めくくりの時期です。新しい学年に向けて、落ち着かぬ思いで過ごすこともあるでしょう。新しい学校に進学したり、転校などもあるかもしれません。別れを味わう時期でもあります。子どもたちと向かい合うことを大切に、一年を締めくくりましょう。日曜学校の営みに主の祝福が豊かでありますように。

●「いのちのパン」を掲載して、今号で一年になります。今号においては、祈りの言葉で執筆してくださいました。御言葉に養われ、祈りの言葉をつむぐ。その日々の営みが祝福されるよう祈ります。この場を借りて、「いのちのパン」を一年間執筆して下さった三川栄二教師に感謝申し上げます。

●次号は、救済史（聖書物語）に基づく二年サイクルカリキュラムの二年目に入ります。成人科は、

吉田隆教師による「善き生活」についての学びを予定しています。いのちのパン（子ども聖書日課）はカテキズムに基づいた聖書日課を検討中です。新しい年度を期待して迎えたいと願っています。

●学校でのいじめ問題が、教育基本法改正案の審議のなかでとりあげられています。個別の「いじめ」への対処が論議されている裏側で、国家規模でのいじめの構造が「改正案」に盛り込まれています。いじている側がいじめに気づかない（それを悪いとは思わない）状況にあります。さらに深刻なのは、教会がいじめられていることに気づかないことです。そこに現れているのは、教会の語る言葉の問題と、教会の立ち位置の問題です。教会がキリストの主権に服することをすべての人々に招くこと、言い換えれば、神の御前に悔い改めることを叫ぶことがないのであれば、「いじめ」に遭うこともありません。教会が、日の丸、君が代の強制と戦っている少数者の側に立つことがなければ、教会は、世俗の権力側、支配勢力の側に立っているということになります。今こそ、教会は福音に堅く立つときです。また、日曜学校が、いじめを解決する可能性に満ちている場であることを信じます。教会をあげて、この業に取り組んでまいりましょう。

●弊誌の発行は、教会と個人からの自由募金なしには成り立ちません。対外献金先を祈られるとき、弊誌のことも思い出してくださいませ。

〈購読の申し込み〉

『教会学校教案誌』をぜひご購読ください。別冊『子どもカテキズム』（300円）、バックナンバーもあります（品切れの号もあり）。第2～16号は一部500円で販売しています。副読本のご注文もお待ちしております。

名古屋岩の上传道所 相馬伸郎まで

〒458-0021 名古屋市緑区滝の水2-2012

Tel/Fax. 052-895-6701

☆ 執 筆 者 一 覧 ☆

まえがき	石原知弘（北神戸キリスト伝道所宣教教師）
鈴木牧雄（湘南恩寵伝道所協力牧師）	辻幸宏（大垣伝道所協力牧師）
巻頭説教	分級展開例
長谷川潤（四日市教会牧師）	幼稚科
教会学校・日曜学校訪問	坂戸教会教会学校教師会
上福岡教会教会学校教師会	小学科下級
教師会の学びのために	新座志木教会教会学校教師会
木下裕也（名古屋教会牧師）	小学科上級
教師の声	漆崎春美（金沢伝道所日曜学校教師）
吉住早苗（豊明教会日曜学校教師）	中学科
聖書研究	赤石めぐみ（西神伝道所日曜学校教師）
小野静雄（多治見教会牧師）	成人科
吉岡契典（仙台カナン教会牧師）	石丸新（東関東中会引退教師）
岩崎謙（神港教会牧師）	いのちのパン（子ども聖書日課）
宮武輝彦（芸陽教会牧師）	三川栄二（稲毛海岸教会牧師）
宮崎彌男（筑波みことば伝道所宣教教師）	吉田櫻子（稲毛海岸教会日曜学校教師）
長谷川潤（四日市教会牧師）	表紙イラスト
説教展開例	坂野知子（松戸小金原教会日曜学校教師）
相馬伸郎（名古屋岩の上传道所宣教教師）	本文イラスト
望月信（高蔵寺教会牧師）	新海敬造（名古屋岩の上传道所）
坂井孝宏（熊本伝道所宣教教師）	吉田櫻子（稲毛海岸教会日曜学校教師）
木下裕也（名古屋教会牧師）	

☆ 編 集 部 ☆

相馬伸郎（長）	名古屋岩の上传道所宣教教師
木下裕也	名古屋教会牧師
辻 幸宏	大垣伝道所協力牧師
望月 信	高蔵寺教会牧師

日本キリスト改革派教会 中部中会『教会学校教案誌』

2007年1・2・3月号（季刊）

第24号

2006年11月19日発行

発行	日本キリスト改革派教会 中部中会 教育委員会
発行所	日本キリスト改革派教会 中部中会 教会学校教案誌編集部 名古屋岩の上传道所 宣教教師 相馬伸郎 〒458-0021 愛知県名古屋市緑区滝の水2-2012 Tel/Fax. 052-895-6701
郵便振替口座	00890-2-148183「伊藤治郎」
編集・印刷	株式会社あるむ 〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田3-1-12 第三記念橋ビル3F
頒価	900円（本体価格）
